

**令和 3 年度
江田島市環境に関する
アンケート調査報告書
【集計結果】**

令和 3 年 10 月

江田島市

《目 次》

第 1 章 調査方法	1
第 2 章 調査結果	3
【市民】	3
【事業所】	36
【教職員】	52
【小中学生】	77

第1章 調査方法

1. 調査の目的

江田島市では、地球環境や自然環境及び皆様の生活環境をより良いものにしていくため、様々な取組を進めています。これらの取組を計画的に進めていく役割を担うものとして、「江田島市環境基本計画」を定めています。平成24年3月に策定しました本計画が令和3年度で目標年度を迎えることから、令和4年度以降10年間の新たな環境基本計画を定める予定としています。

今回の調査は、江田島市の環境に対する意識を把握し、新たな環境基本計画への反映及び計画を策定するための基礎資料とするものです。

2. 実施概要

【市民】

- 調査対象者 : 江田島市にお住いの18歳以上の方から無作為に抽出した1,000人の方
- 対象数 : 1,000人
- 調査期間 : 令和3年7月7日～令和3年7月19日まで
- 調査方法 : 郵送による配布回収

【事業所】

- 調査対象者 : 江田島市で活動している企業、事業所の皆さん
- 対象数 : 320事業所
- 調査期間 : 令和3年7月7日～令和3年7月19日まで
- 調査方法 : 郵送による配布回収

【教職員】

- 調査対象者 : 江田島市の小・中学校にお勤めの教職員の皆様
- 対象数 : 160名
- 調査期間 : 令和3年7月7日～令和3年7月19日まで
- 調査方法 : 学校での回収

【小中学生】

- 調査対象者 : 江田島市内の小学校6年生・中学生1～3年生の皆さん
- 対象数 : 490名
- 調査期間 : 令和3年7月7日～令和3年7月19日まで
- 調査方法 : 学校での回収

3. 回収結果

	配布数	有効回収数	無効回収数	回収率	有効回収率
市民	1,000 件	357 件	2 件	35.9%	35.7%
事業所	320 件	89 件	1 件	28.1%	27.8%
教職員	160 件	128 件	4 件	82.5%	80.0%
小中学生	490 件	462 件	5 件	95.3%	94.3%

4. 調査集計にあたっての留意事項

○回答結果は小数点第2桁目を四捨五入しています。この関係で、単回答（複数の選択肢から一つだけを選ぶ形式）の合計値がちょうど「100.0」にならない場合があります。

○複数回答（2つ以上の回答を選ぶ形式）における割合についての単位はパーセントとしています。この場合、回答は有効標本数全体に対して各々の割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはなりません。

○本報告書における「N」「SA」「MA」は、それぞれ

「N」 = サンプル数のこと

「SA」 = 単回答のこと（Single Answer の略）

「MA」 = 複数回答のこと（Multiple Answer の略）

を示します。

○図表中において「無回答」とある項目については、「回答のなかったもの」、もしくは「判別ができなかったもの」を表しています。

○本文中の設問の選択肢が長い場合は、簡略化している場合があります。

○本報告書において横棒グラフでの表示計は、グラフ表示が煩雑になるため、比率の極めて低いもの（4.0%未満）は数値の表示を省略しております。

○本報告書においてクロス集計は、無回答があるため、合計人数は全体の人数と合致しません。

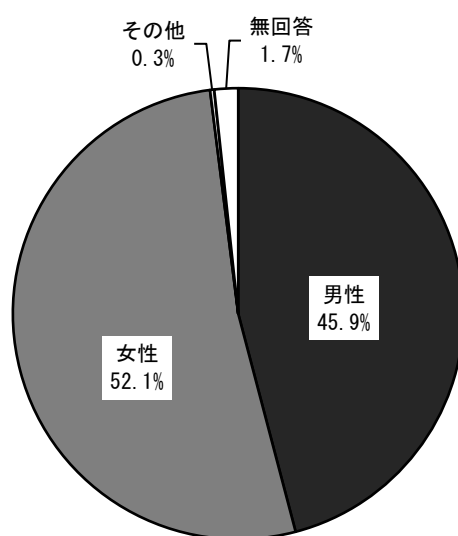
第2章 調査結果

【市民】

問1 (1) 回答者の性別 (SA)

「女性」が52.1%、「男性」が45.9%となっています。

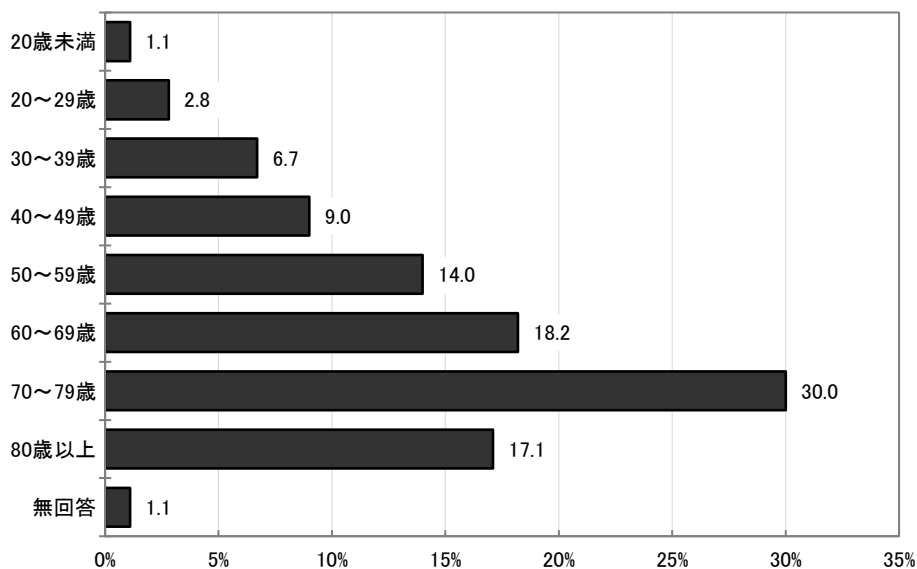
(SA) N=357



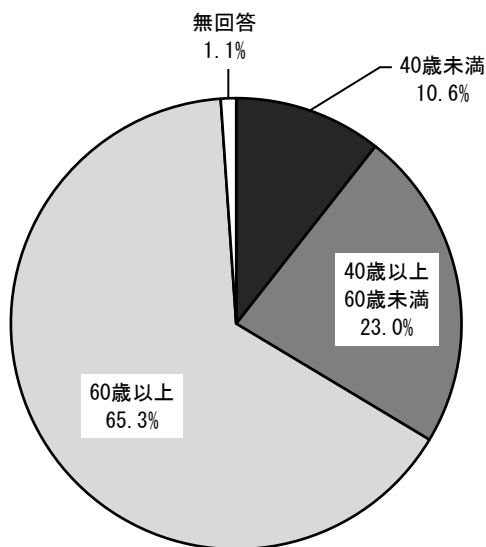
問 1 (2) 回答者の年齢 (SA)

「70～79 歳」が 30.0%で最も高くなっています。次いで「60～69 歳」が 18.2%、「80 歳以上」が 17.1%で続いています。また 60 歳以上が約3分の2となっています。

(SA) N=357



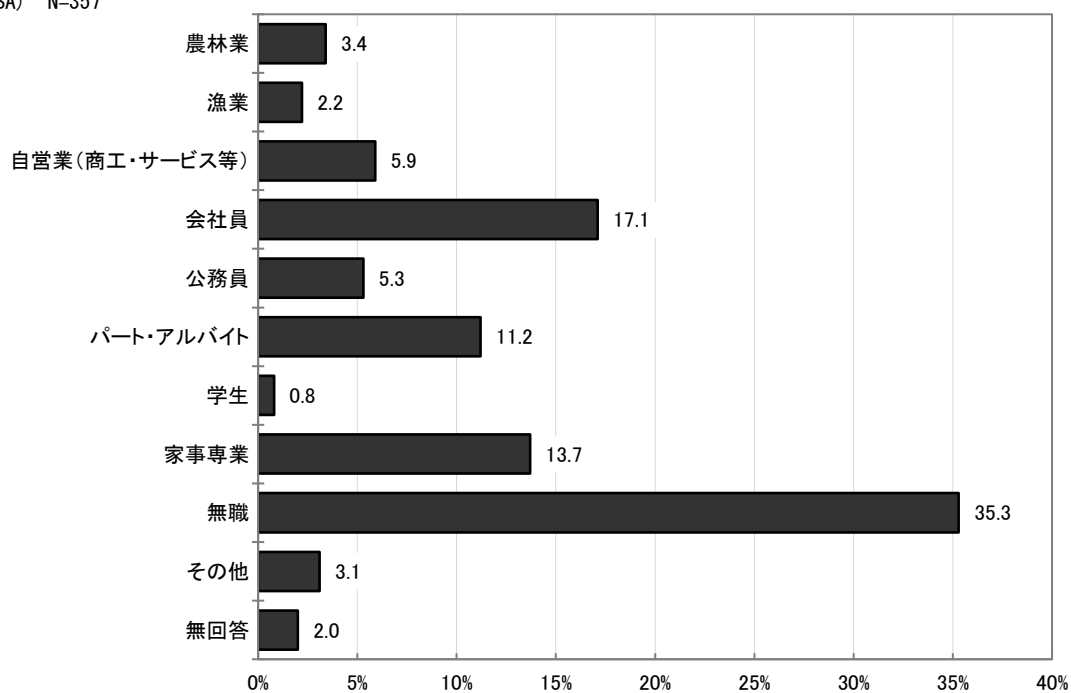
(SA) N=357



問 1 (3) 回答者の職業 (SA)

「無職」が 35.3%で突出しています。次いで「会社員」が 17.1%、「家事専業」が 13.7%、「パート・アルバイト」が 11.2%で続いています。

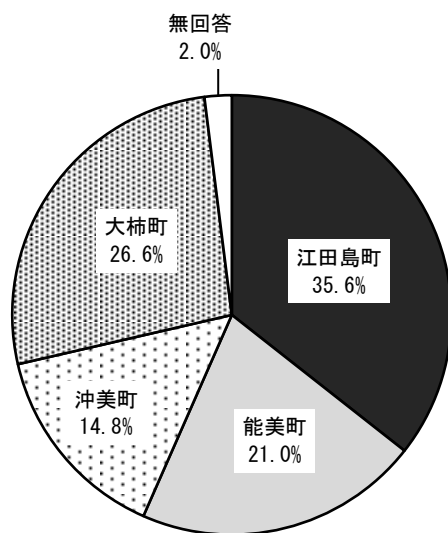
(SA) N=357



問 1 (4) 回答者の居住地区 (SA)

「江田島町」が 35.6% で最も高く、次いで「大柿町」が 26.6%、「能美町」が 21.0%、「沖美町」が 14.8% となっています。

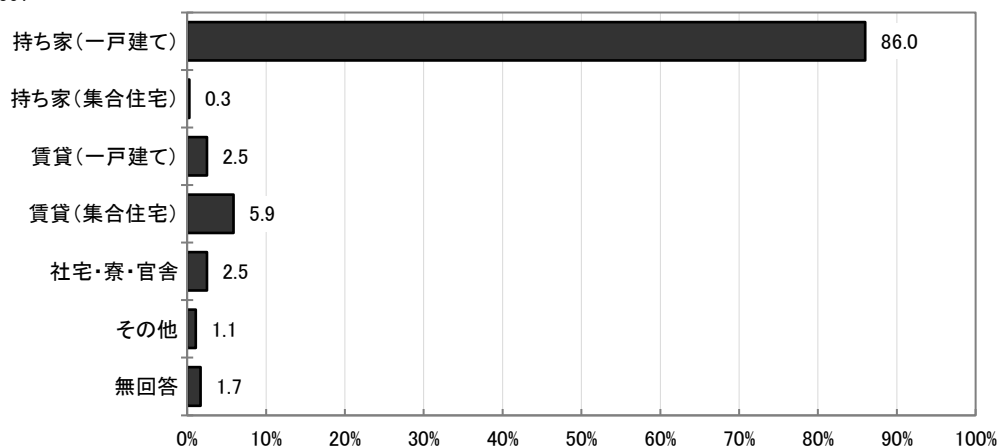
(SA) N=357



問 1 (5) 回答者のお住まいの形態 (SA)

「持ち家(一戸建て)」が 86.0% で突出しています。

(SA) N=357

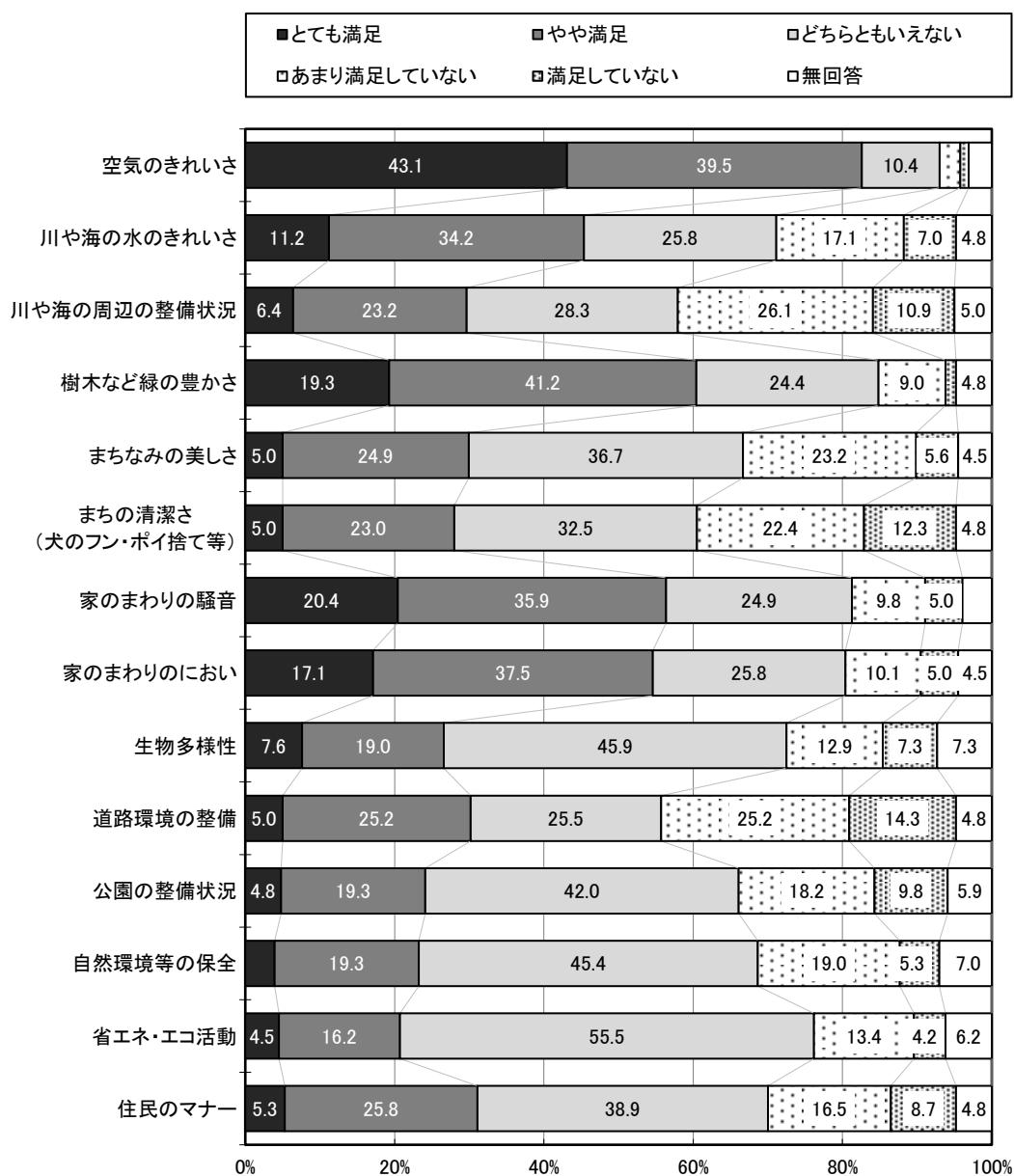


問2 江田島市の環境に関する下記の項目について、どの程度満足されていますか。また将来の江田島市全体の環境にとって、どの程度関心がありますか。
(各SA)

(I. 満足度)

満足層(「とても満足」+「やや満足」)が高いものは、『空気のきれいさ』、『樹木など緑の豊かさ』、『家のまわりの騒音』、『家のまわりのにおい』の順となっており、この4項目でのみ半数を超えています。

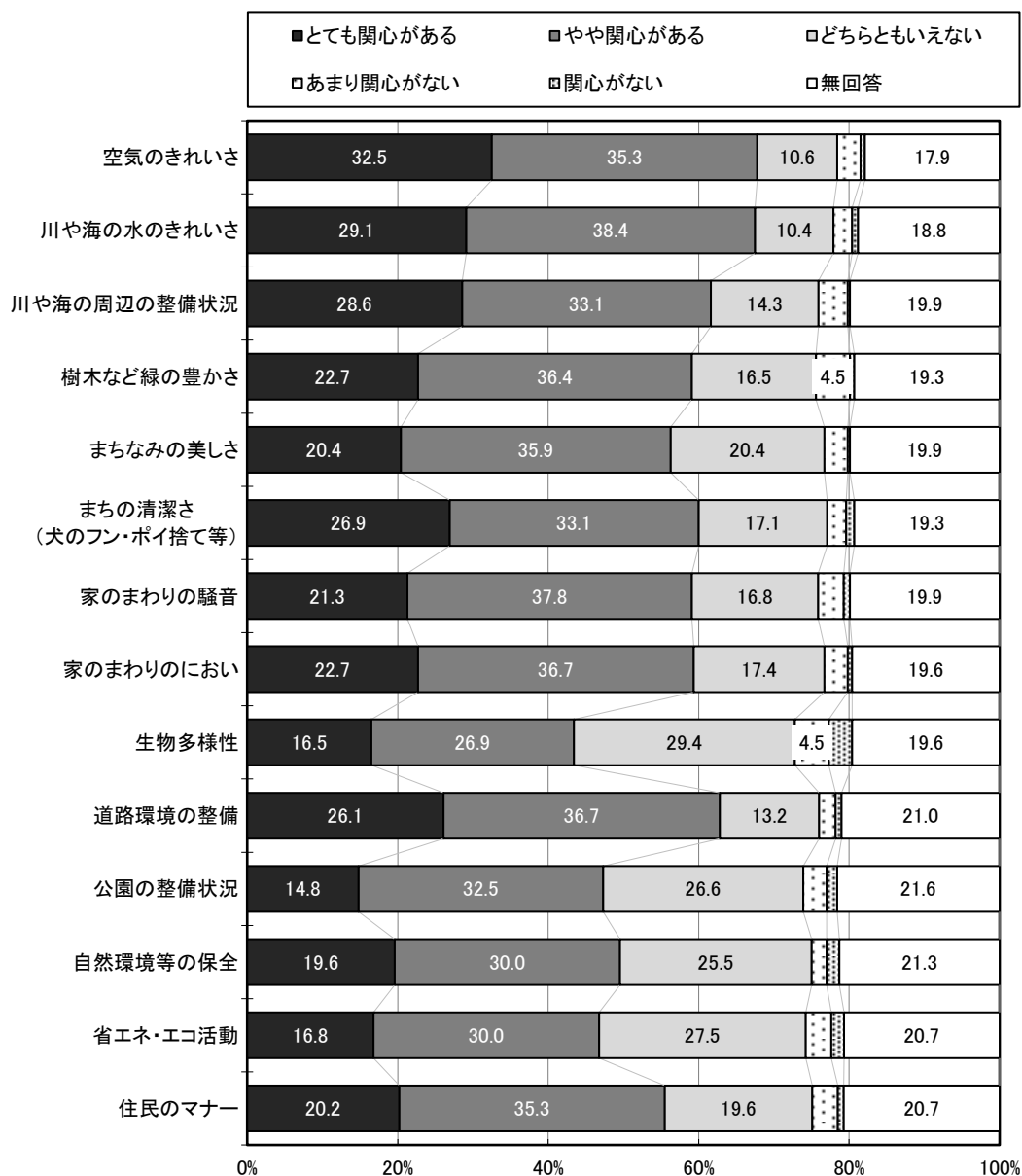
(SA) N=357



(Ⅱ. 関心度)

関心層(「とても関心がある」+「やや関心がある」)が高いものは、『空気のきれいさ』、『川や海の水のきれいさ』、『道路環境の整備』の順となっており、10項目で半数を超えています。

(SA) N=357



市民アンケート調査において、施策に対する市民の関心度・満足度を把握し、施策ごとの評点を関心度・満足度それぞれの平均値を基準として四つのゾーンに分け、施策の相対的な状況を整理しました。評点の算出方法とゾーンの整理及びその見方は次のとおりです。

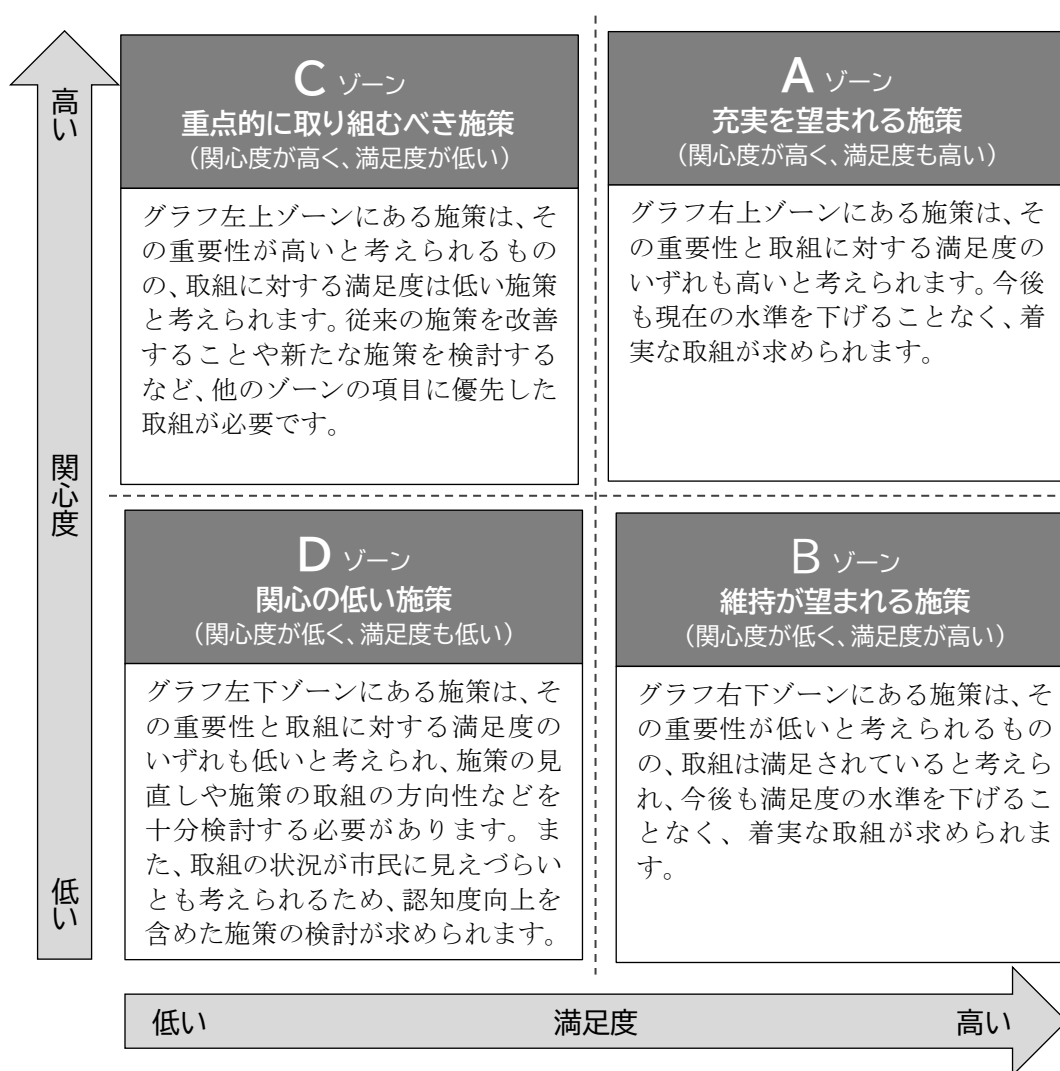
関心度

$$= \frac{\text{「とても関心がある」} \times 2 \text{点} + \text{「やや関心がある」} \times 1 \text{点} - \text{「あまり関心がない」} \times 1 \text{点} - \text{「関心がない」} \times 2 \text{点}}{\text{「有効回答数」} - \text{「無回答数」}}$$

満足度

$$= \frac{\text{「とても満足」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」} \times 1 \text{点} - \text{「あまり満足していない」} \times 1 \text{点} - \text{「満足していない」} \times 2 \text{点}}{\text{「有効回答数」} - \text{「無回答数」}}$$

■ 4つのゾーンの整理及びゾーンの見方について

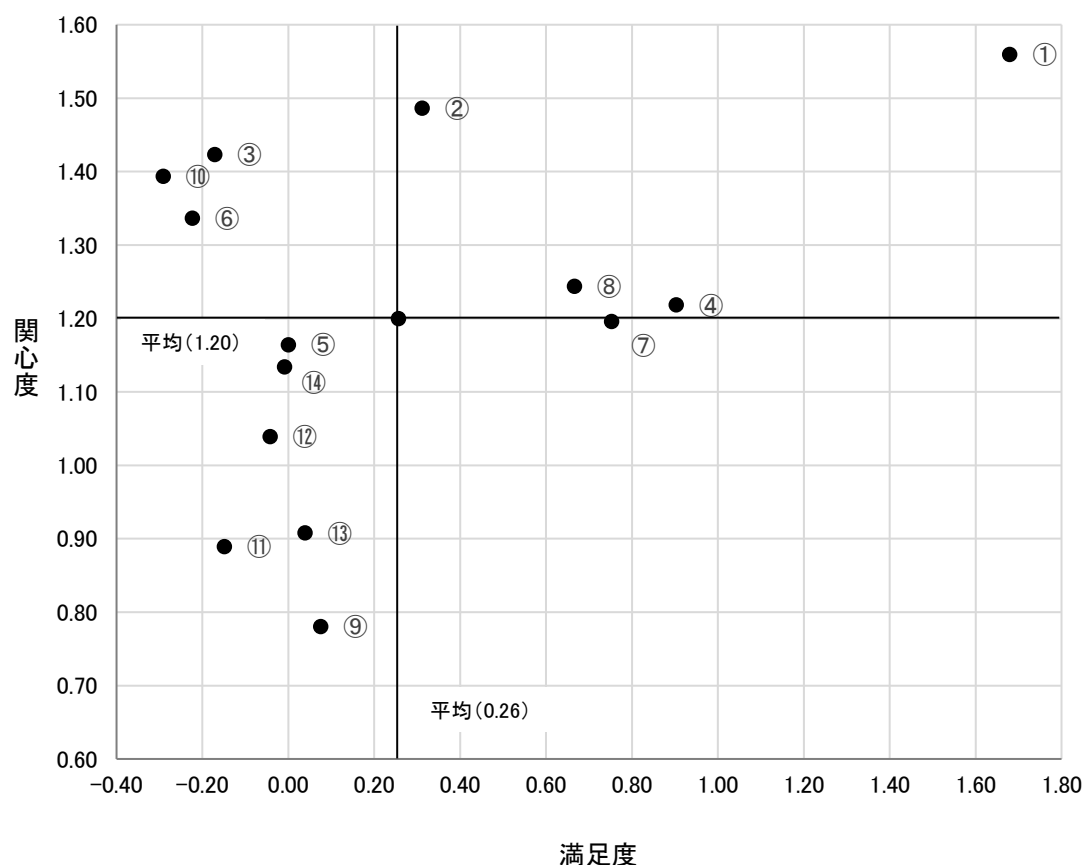


全体の傾向として、川や海の周辺の整備状況、まちの清潔さ、道路環境の整備などの項目においては、満足度が低く、重要度が高い傾向にあり、今後重点的に取り組むべき施策であると考えられます。

空気のきれいさ、川や海の水のきれいさ、樹木など緑の豊かさ、家のまわりのにおいなどの項目は満足度が高く、重要度も高いため、今後も継続して取り組むとともに、充実を図っていく必要があります。

(満足度と関心度)

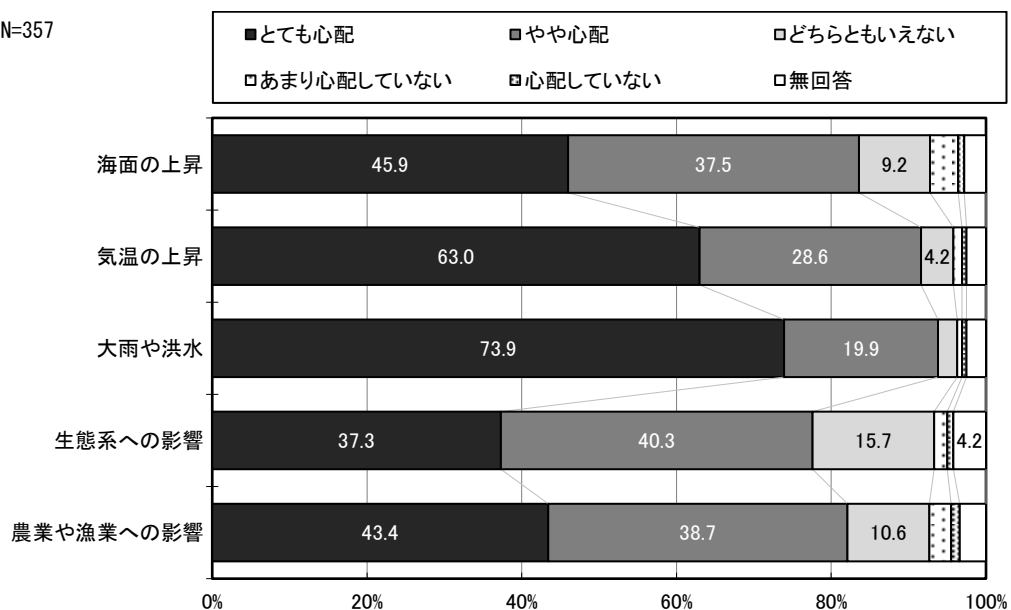
番号	項目
①	空気のきれいさ
②	川や海の水のきれいさ
③	川や海の周辺の整備状況
④	樹木など緑の豊かさ
⑤	まちなみの美しさ
⑥	まちの清潔さ(犬のフン・ポイ捨て等)
⑦	家のまわりの騒音
⑧	家のまわりのにおい
⑨	生物多様性
⑩	道路環境の整備
⑪	公園の整備状況
⑫	自然環境等の保全
⑬	省エネ・エコ活動
⑭	住民のマナー



問3 地球温暖化が進むことによって及ぼす影響についてあなたはどの程度、心配していますか。(各SA)

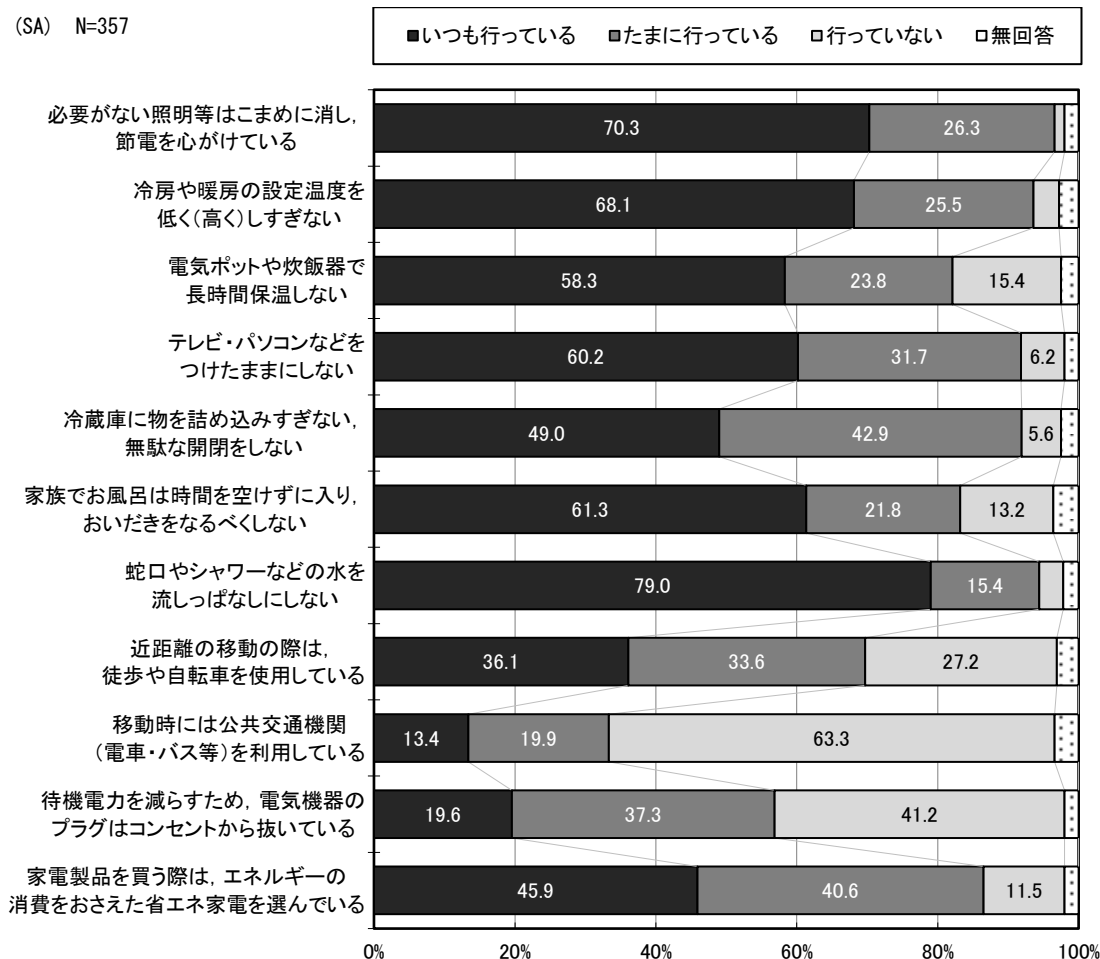
心配層(「とても心配」+「やや心配」)が高いものは、『大雨や洪水』、『気温の上昇』、『海面の上昇』の順となっており、全項目で75%以上となっています。

(SA) N=357



問4 省エネルギー活動，エコ活動は地球温暖化を防止するうえで大切な取組ですが，あなたは日頃，どの程度実施していますか。各(SA)

実施している層(「いつも行っている」+「たまに行っている」)が高いものは、『必要がない照明等はこまめに消し，節電を心がけている』、『蛇口やシャワーなどの水を流しっぱなしにしない』、『冷房や暖房の設定温度を低く(高く)しすぎない』『テレビ・パソコンなどをつけたままにしない』『冷蔵庫に物を詰め込みすぎない，無駄な開閉をしない』の順となっており5項目で9割以上となっています。「行っていない」が高い項目としては、『移動時には公共交通機関(電車・バス等)を利用している』が63.3%と最も高く，次いで『待機電力を減らすため，電気機器のプラグはコンセントから抜いている』が41.2%，『近距离の移動の際は，徒歩や自転車を使用している』が27.2%で続いています。

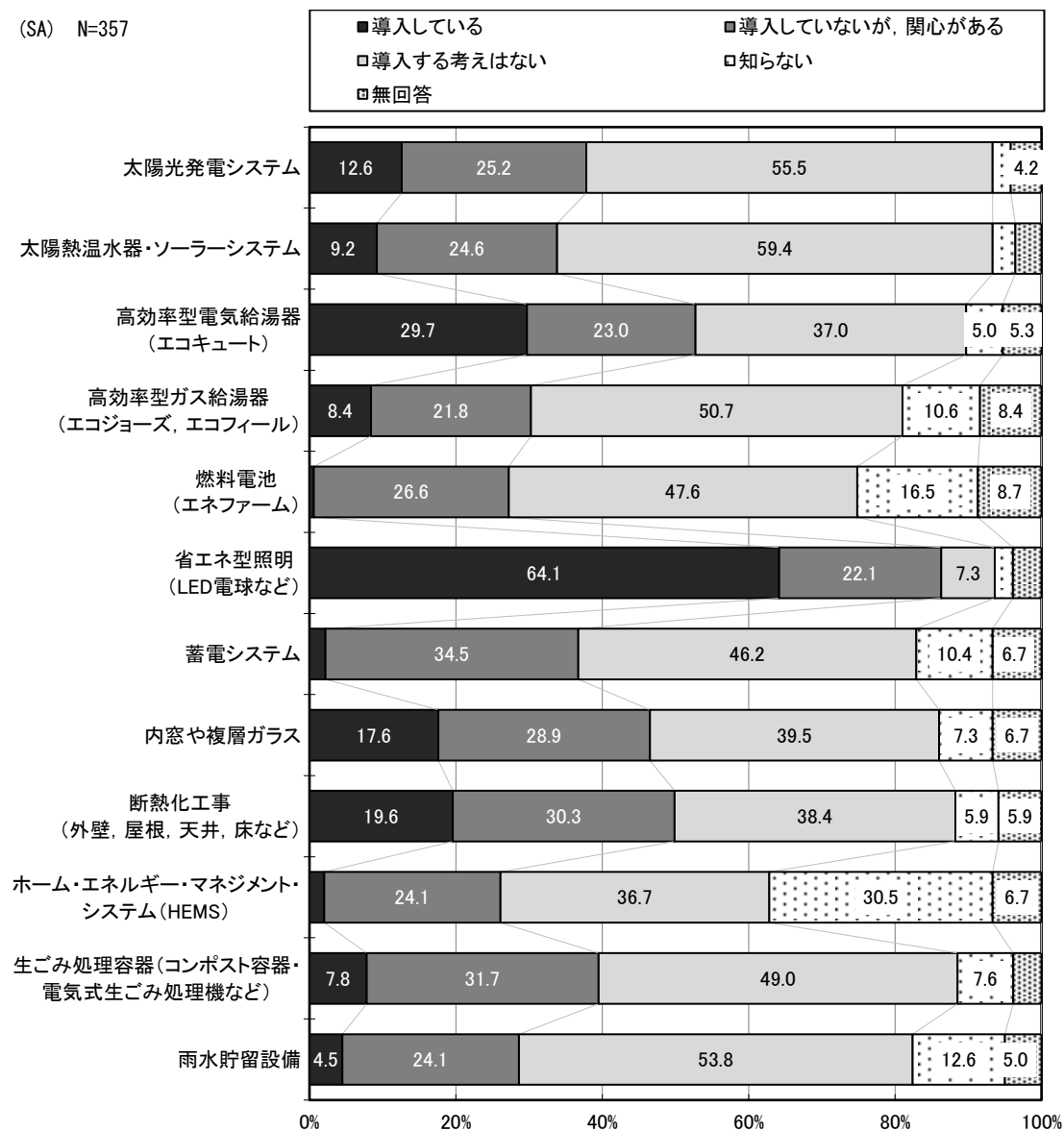


問5 ご家庭で、再生可能エネルギー設備や省エネルギー機器を利用していますか。または導入することをお考えですか。(各SA)

「導入している」で最も高いのは、『省エネ型照明(LED電球など)』で64.1%となっています。それ以外の項目では、「導入している」は半数以下となっています。

「導入していないが、関心がある」は全項目とも2割～3割台となっています。

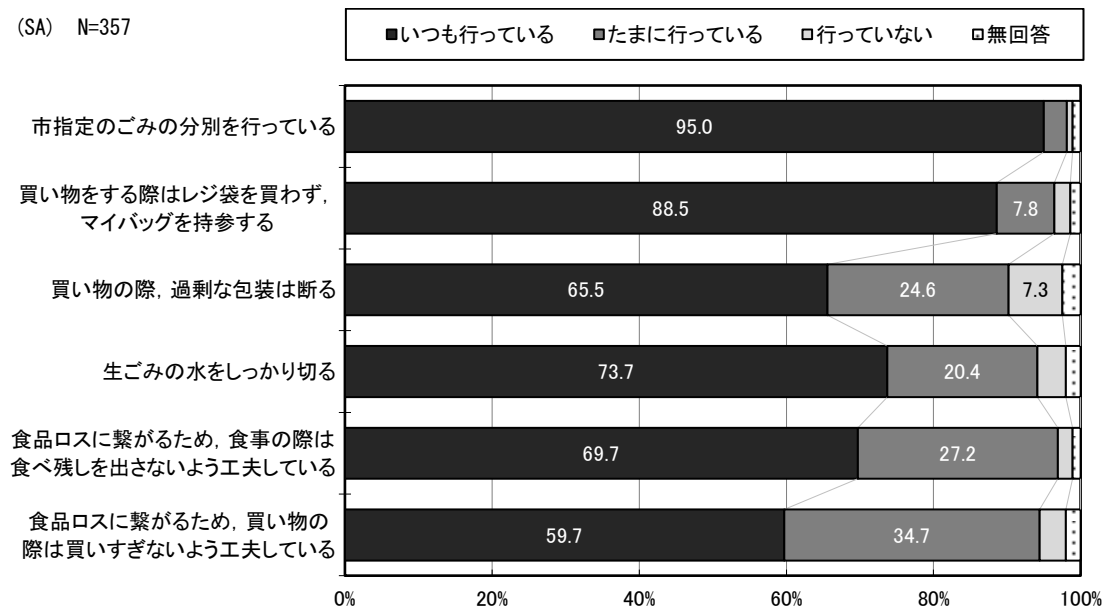
(SA) N=357



問6 ごみ減量・資源化は大切な取組ですが、あなたは日頃、どの程度実施していますか。(各SA)

実施している層(「いつも行っている」+「たまに行っている」)は、全項目で9割以上となっています。

(SA) N=357

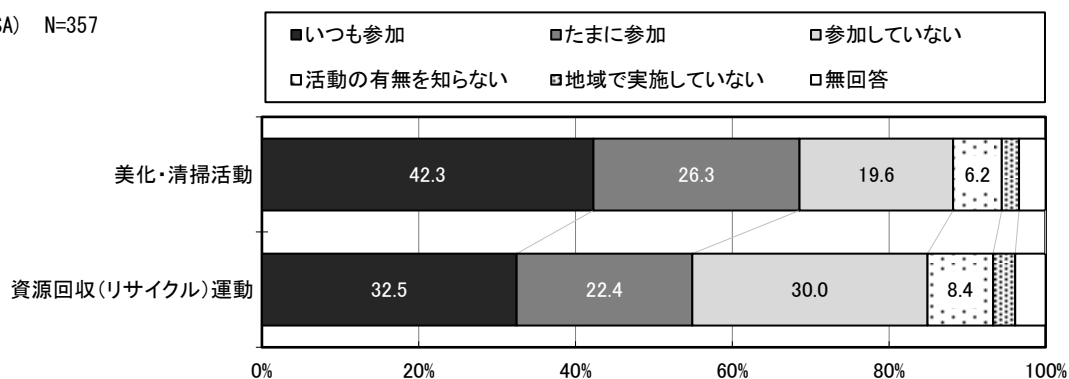


問7 地域での環境活動について、下記の項目にどの程度参加されていますか。
また、どの程度関心がありますか。(各SA)

(Ⅰ. 参加度)

参加層(「いつも参加」+「たまに参加」)は、どちらも半数以上となっています。

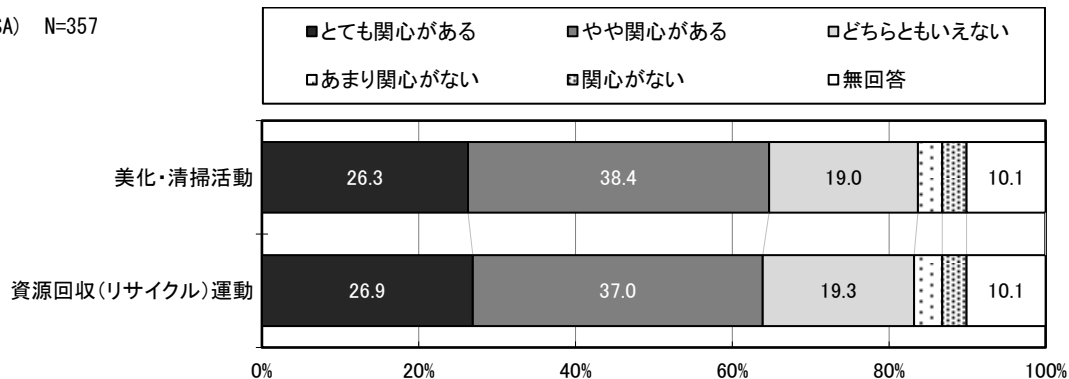
(SA) N=357



(Ⅱ. 関心度)

関心層(「とても関心がある」+「やや関心がある」)は、どちらも6割強となっています。

(SA) N=357



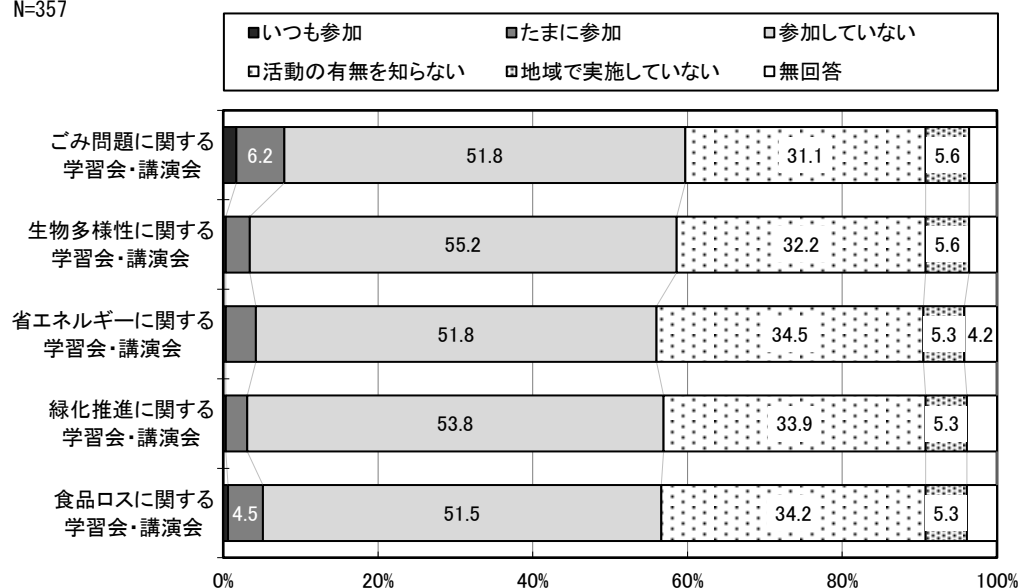
問8 環境についての学習会や講演会などについて、下記の項目にどの程度参加されていますか。また、どの程度関心がありますか。(各SA)

(Ⅰ. 参加度)

参加層(「いつも参加」+「たまに参加」)は、全項目とも1割以下となっています。

また、「活動の有無を知らない」が全項目とも3割を超えています。

(SA) N=357

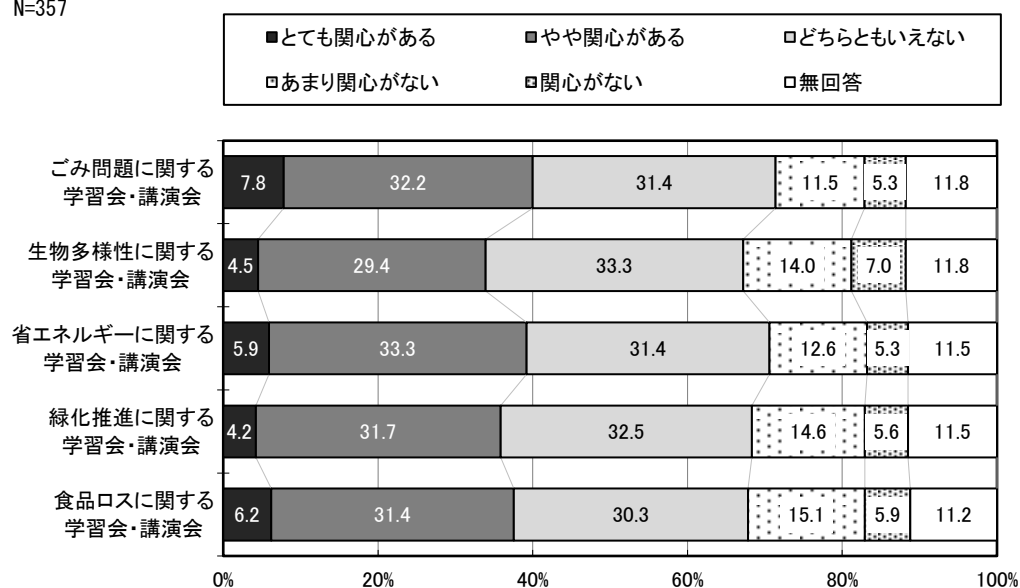


(Ⅱ. 関心度)

関心層(「とても関心がある」+「やや関心がある」)は、全項目とも3割~4割となっています。

また、無関心層(「関心がない」+「あまり関心がない」)は、全項目とも2割程度となっています。

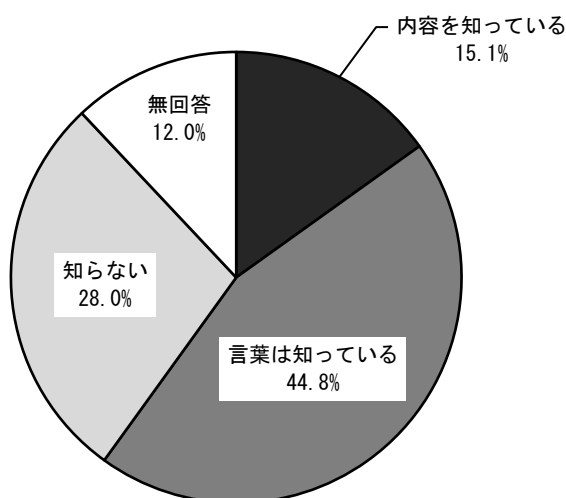
(SA) N=357



問9 2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）では、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決するため、17の目標と169のターゲットが示されました。あなたは、SDGsについて知っていますか。（SA）

「言葉は知っている」が44.8%で最も高く、次いで「知らない」が28.0%、「内容を知っている」が15.1%となっています。

(SA) N=357



（年齢層×問9）クロス集計

年齢層別でみると、『60歳以上』では他の年齢層に比べて、「知らない」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
内容を知っている	15.1	21.1	25.6	10.7
言葉は知っている	44.8	55.3	54.9	39.5
知らない	28.0	15.8	17.1	33.9
無回答	12.0	7.9	2.4	15.9

（地区別×問9）クロス集計

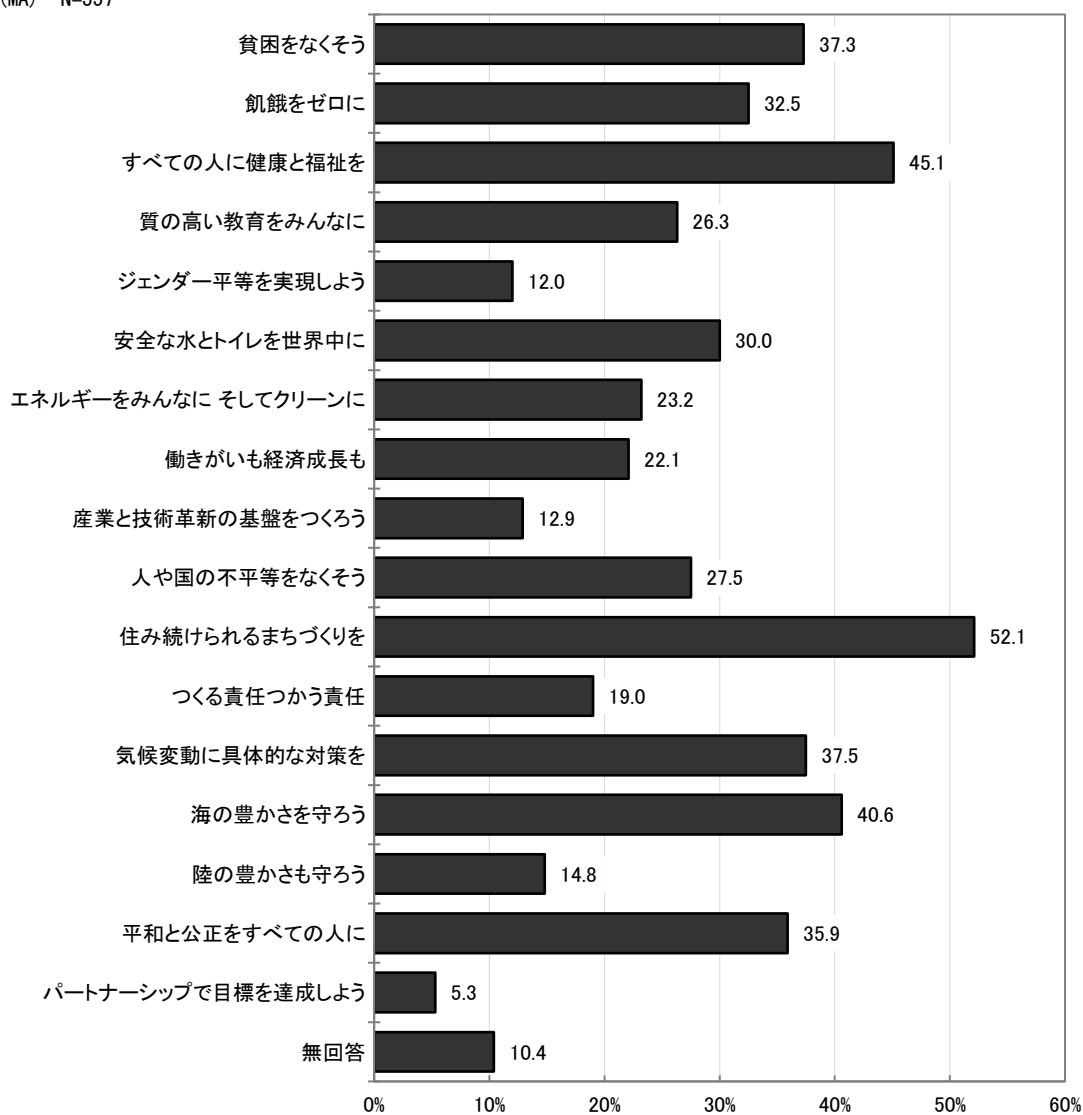
地区別でみると、『江田島町』『大柿町』は他の地区に比べて、「言葉は知っている」の割合が高くなっています。

	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
内容を知っている	15.1	13.4	16.0	17.0	16.8
言葉は知っている	44.8	48.0	40.0	37.7	47.4
知らない	28.0	26.0	30.7	34.0	25.3
無回答	12.0	12.6	13.3	11.3	10.5

問10 SDGsの17の目標のうち、あなたはどの目標に関心がありますか。(MA)

「住み続けられるまちづくりを」が 52.1%で最も高くなっています。次いで「すべての人に健康と福祉を」が 45.1%、「海の豊かさを守ろう」が 40.6%で続いています。

(MA) N=357



(性別×問 10) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「すべての人に健康と福祉を」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=357	男性 N=164	女性 N=186
貧困をなくそう	37.3	36.6	37.6
飢餓をゼロに	32.5	32.3	32.3
すべての人に健康と福祉を	45.1	38.4	51.1
質の高い教育をみんなに	26.3	31.1	21.5
ジェンダー平等を実現しよう	12.0	7.3	15.6
安全な水とトイレを世界中に	30.0	30.5	29.0
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	23.2	23.8	22.0
働きがいも経済成長も	22.1	20.7	22.6
産業と技術革新の基盤をつくろう	12.9	17.1	8.6
人や国の不平等をなくそう	27.5	25.0	28.5
住み続けられるまちづくりを	52.1	47.0	55.9
つくる責任つかう責任	19.0	17.7	19.4
気候変動に具体的な対策を	37.5	40.2	36.0
海の豊かさを守ろう	40.6	40.2	40.3
陸の豊かさを守ろう	14.8	15.2	14.0
平和と公正をすべての人に	35.9	31.7	39.2
パートナーシップで目標を達成しよう	5.3	5.5	4.3
無回答	10.4	9.8	10.8

(年齢層×問10) クロス集計

年齢別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」「安全な水とトイレを世界中に」「人や国の不平等をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」「つくる責任つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」「平和と公正をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」の割合が高くなっています。

『40歳以上 60歳未満』は「気候変動に具体的な対策を」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
貧困をなくそう	37.3	60.5	35.4	33.9
飢餓をゼロに	32.5	50.0	31.7	29.6
すべての人に健康と福祉を	45.1	60.5	42.7	43.3
質の高い教育をみんなに	26.3	55.3	28.0	20.6
ジェンダー平等を実現しよう	12.0	26.3	23.2	5.2
安全な水とトイレを世界中に	30.0	60.5	25.6	26.2
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	23.2	31.6	25.6	20.6
働きがいも経済成長も	22.1	31.6	22.0	20.2
産業と技術革新の基盤をつくろう	12.9	18.4	12.2	12.0
人や国の不平等をなくそう	27.5	47.4	28.0	23.2
住み続けられるまちづくりを	52.1	42.1	50.0	54.1
つくる責任つかう責任	19.0	26.3	12.2	19.3
気候変動に具体的な対策を	37.5	36.8	47.6	34.8
海の豊かさを守ろう	40.6	47.4	51.2	35.2
陸の豊かさを守ろう	14.8	23.7	17.1	12.4
平和と公正をすべての人に	35.9	50.0	39.0	31.8
パートナーシップで目標を達成しよう	5.3	13.2	7.3	3.0
無回答	10.4	5.3	3.7	13.3

(地区別×問10) クロス集計

地区別でみると、『江田島町』は他の地区に比べて、「飢餓をゼロに」「平和と公正をすべての人に」の割合が高くなっています。

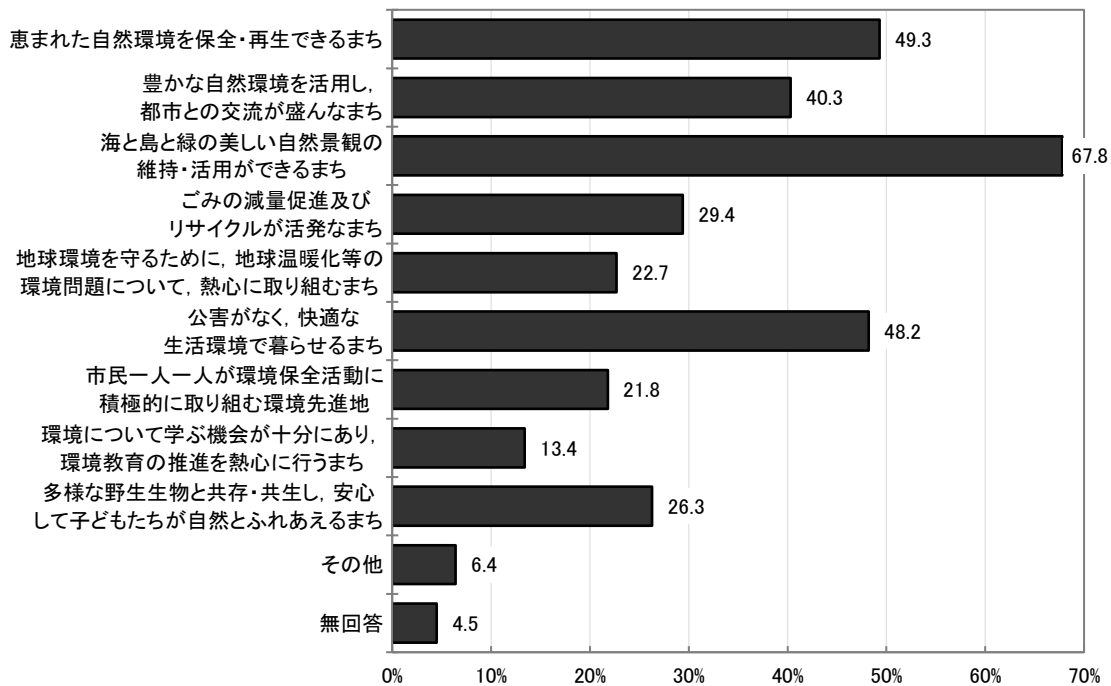
『大柿町』は「貧困をなくそう」「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「つくる責任つかう責任」の割合が高くなっています。

	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
貧困をなくそう	37.3	40.2	28.0	32.1	43.2
飢餓をゼロに	32.5	37.8	29.3	22.6	32.6
すべての人に健康と福祉を	45.1	48.8	40.0	39.6	47.4
質の高い教育をみんなに	26.3	30.7	24.0	20.8	24.2
ジェンダー平等を実現しよう	12.0	8.7	13.3	15.1	12.6
安全な水とトイレを世界中に	30.0	33.9	25.3	26.4	29.5
エネルギーをみんなに そしてクリーンに	23.2	23.6	21.3	15.1	27.4
働きがいも経済成長も	22.1	19.7	24.0	18.9	24.2
産業と技術革新の基盤をつくろう	12.9	13.4	16.0	5.7	13.7
人や国の不平等をなくそう	27.5	23.6	26.7	30.2	30.5
住み続けられるまちづくりを	52.1	50.4	54.7	52.8	50.5
つくる責任つかう責任	19.0	19.7	14.7	11.3	24.2
気候変動に具体的な対策を	37.5	37.8	38.7	32.1	41.1
海の豊かさを守ろう	40.6	36.2	45.3	37.7	43.2
陸の豊かさを守ろう	14.8	14.2	18.7	9.4	14.7
平和と公正をすべての人に	35.9	42.5	29.3	30.2	34.7
パートナーシップで目標を達成しよう	5.3	4.7	4.0	1.9	8.4
無回答	10.4	10.2	10.7	13.2	7.4

問11 将来、江田島市をどのような環境のまちにしていきたいですか。(MA)

「海と島と緑の美しい自然景観の維持・活用ができるまち」が 67.8%で最も高くなっています。次いで「恵まれた自然環境を保全・再生できるまち」が 49.3%、「公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち」が 48.2%が続いています。

(MA) N=357



(性別×問11) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「恵まれた自然環境を保全・再生できるまち」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=357	男性 N=164	女性 N=186
恵まれた自然環境を保全・再生できるまち	49.3	41.5	54.8
豊かな自然環境を活用し、 都市との交流が盛んなまち	40.3	42.1	37.1
海と島と緑の美しい自然景観の 維持・活用ができるまち	67.8	67.1	67.7
ごみの減量促進及びリサイクルが活発なまち	29.4	28.0	29.0
地球環境を守るために、地球温暖化等の 環境問題について、熱心に取り組むまち	22.7	22.6	22.0
公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち	48.2	46.3	50.0
市民一人一人が環境保全活動に 積極的に取り組む環境先進地	21.8	19.5	22.6
環境について学ぶ機会が十分にあり、 環境教育の推進を熱心に行うまち	13.4	14.0	11.8
多様な野生生物と共存・共生し、 安心して子どもたちが自然とふれあえるまち	26.3	24.4	26.9
その他	6.4	7.9	4.8
無回答	4.5	4.9	3.8

(年齢層×問11) クロス集計

年齢別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「多様な野生生物と共存・共生し、安心して子どもたちが自然とふれあえるまち」「恵まれた自然環境を保全・再生できるまち」「ごみの減量促進及びリサイクルが活発なまち」「地球環境を守るために、地球温暖化等の環境問題について、熱心に取り組むまち」「公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち」の割合が高くなっています。

『40歳以上60歳未満』は「豊かな自然環境を活用し、都市との交流が盛んなまち」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
恵まれた自然環境を保全・再生できるまち	49.3	60.5	43.9	48.9
豊かな自然環境を活用し、 都市との交流が盛んなまち	40.3	31.6	45.1	39.5
海と島と緑の美しい自然景観の 維持・活用ができるまち	67.8	63.2	64.6	69.5
ごみの減量促進及びリサイクルが活発なまち	29.4	36.8	24.4	29.2
地球環境を守るために、地球温暖化等の 環境問題について、熱心に取り組むまち	22.7	28.9	18.3	22.7
公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち	48.2	57.9	45.1	47.6
市民一人一人が環境保全活動に 積極的に取り組む環境先進地	21.8	26.3	15.9	22.7
環境について学ぶ機会が十分にあり、 環境教育の推進を熱心に行うまち	13.4	21.1	13.4	11.6
多様な野生生物と共存・共生し、 安心して子どもたちが自然とふれあえるまち	26.3	50.0	24.4	22.7
その他	6.4	21.1	4.9	4.3
無回答	4.5	2.6	1.2	5.6

(地区別×問11) クロス集計

地区別でみると、『江田島町』『大柿町』は他の地区に比べて、「恵まれた自然環境を保全・再生できるまち」の割合が高くなっています。

『能美町』は「公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち」の割合が高くなっています。

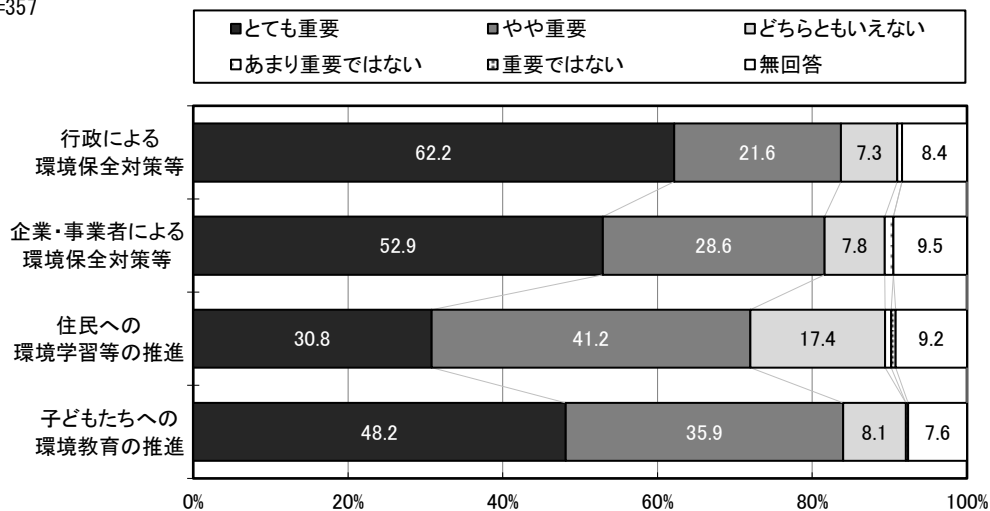
	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
恵まれた自然環境を保全・再生できるまち	49.3	55.1	44.0	34.0	53.7
豊かな自然環境を活用し、 都市との交流が盛んなまち	40.3	41.7	38.7	37.7	38.9
海と島と緑の美しい自然景観の 維持・活用ができるまち	67.8	70.1	64.0	73.6	65.3
ごみの減量促進及びリサイクルが活発なまち	29.4	29.9	32.0	13.2	33.7
地球環境を守るために、地球温暖化等の 環境問題について、熱心に取り組むまち	22.7	23.6	22.7	9.4	27.4
公害がなく、快適な生活環境で暮らせるまち	48.2	48.0	54.7	49.1	44.2
市民一人一人が環境保全活動に 積極的に取り組む環境先進地	21.8	20.5	22.7	13.2	27.4
環境について学ぶ機会が十分にあり、 環境教育の推進を熱心に行うまち	13.4	14.2	12.0	9.4	13.7
多様な野生生物と共存・共生し、 安心して子どもたちが自然とふれあえるまち	26.3	27.6	29.3	20.8	25.3
その他	6.4	7.1	5.3	-	9.5
無回答	4.5	4.7	5.3	5.7	1.1

問12 江田島市の環境をより良いものにしていくために、下記の項目はどの程度、重要だと思いますか。(各SA)

重要層(「とても重要」+「やや重要」)は、全項目とも7割以上となっており、『行政による環境保全対策等』、『子どもたちへの環境教育の推進』、『企業・事業者による環境保全対策等』は8割以上となっています。

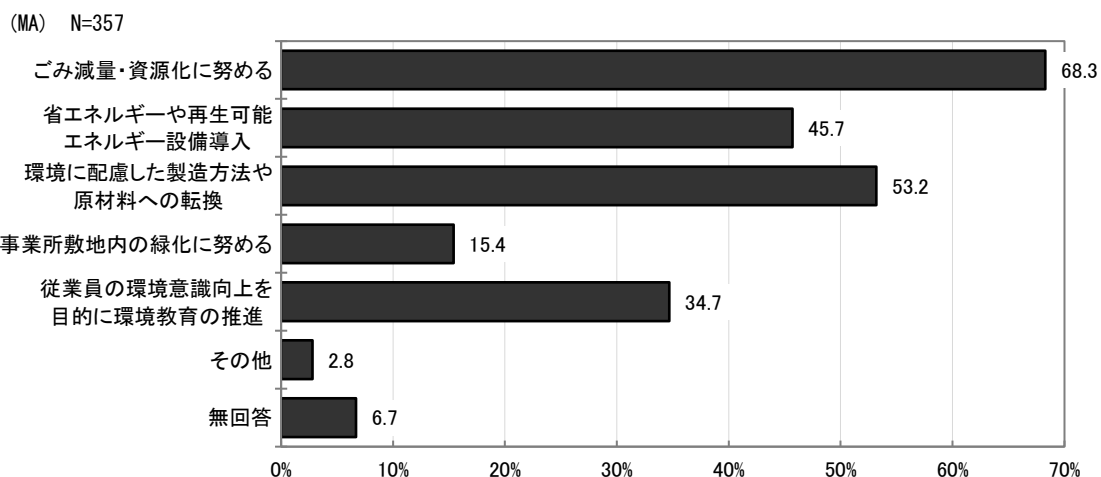
また、『行政による環境保全対策等』は「とても重要」が6割以上となっています。

(SA) N=357



問13 環境問題について、事業者（企業）が特に取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。（MA）

「ごみ減量・資源化に努める」が 68.3%で最も高くなっています。次いで「環境に配慮した製造方法や原材料への転換」が 53.2%、「省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入」が 45.7%で続いています。



(年齢層×問13) クロス集計

年齢別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「ごみ減量・資源化に努める」「省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入」「事業所敷地内の緑化に努める」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
ごみ減量・資源化に努める	68.3	81.6	65.9	66.5
省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入	45.7	57.9	40.2	45.5
環境に配慮した製造方法や原材料への転換	53.2	57.9	52.4	53.2
事業所敷地内の緑化に努める	15.4	28.9	14.6	12.9
従業員の環境意識向上を目的に環境教育の推進	34.7	34.2	34.1	34.3
その他	2.8	5.3	4.9	1.7
無回答	6.7	2.6	2.4	9.0

(地区別×問13) クロス集計

地区別でみると、『江田島町』は他の地区に比べて、「ごみ減量・資源化に努める」「環境に配慮した製造方法や原材料への転換」の割合が高くなっています。

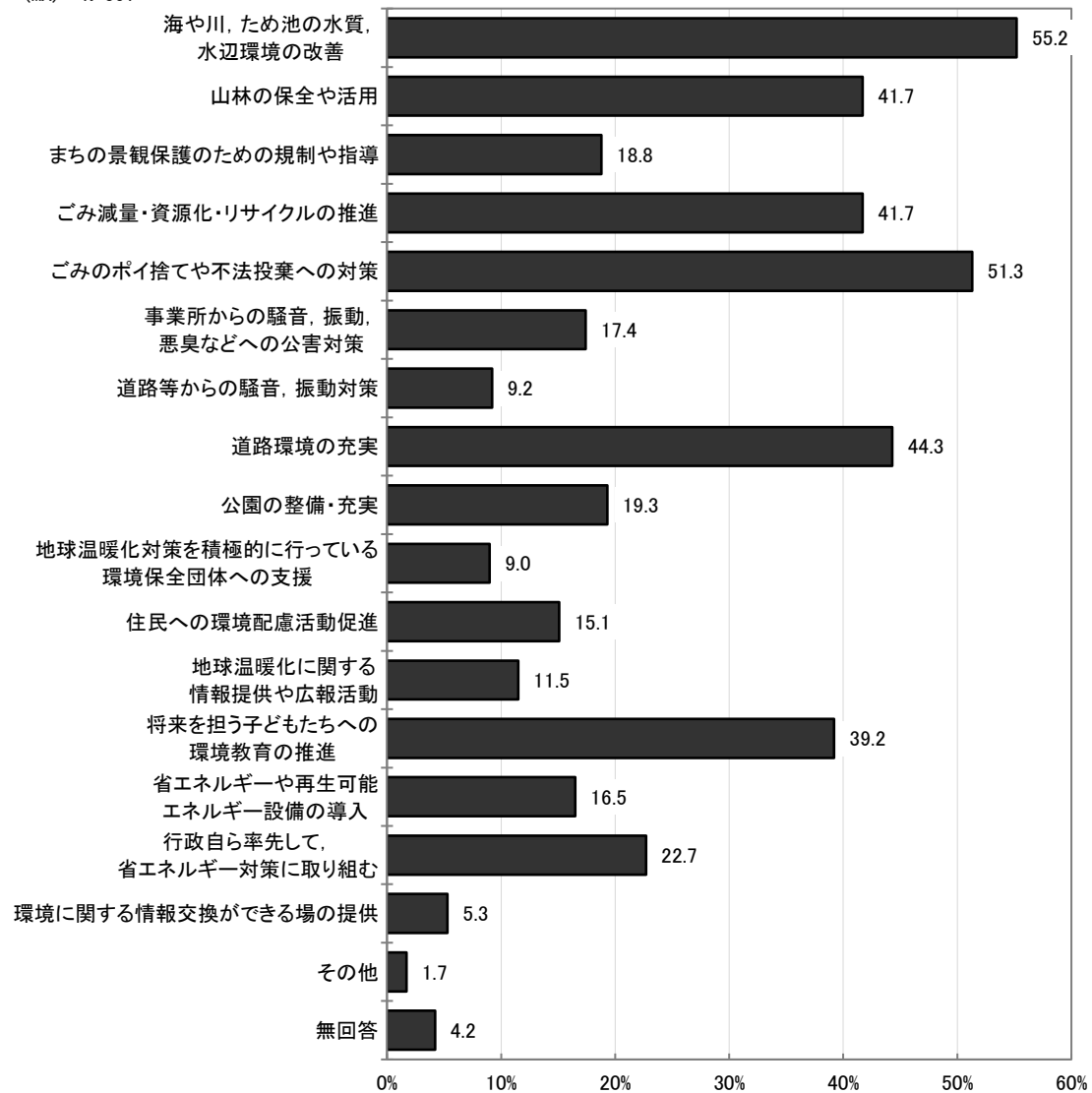
『能美町』は「環境に配慮した製造方法や原材料への転換」の割合が高くなっています。

	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
ごみ減量・資源化に努める	68.3	74.8	60.0	67.9	65.3
省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入	45.7	48.8	40.0	47.2	44.2
環境に配慮した製造方法や原材料への転換	53.2	56.7	58.7	43.4	51.6
事業所敷地内の緑化に努める	15.4	15.0	13.3	11.3	18.9
従業員の環境意識向上を目的に 環境教育の推進	34.7	30.7	36.0	39.6	34.7
その他	2.8	2.4	1.3	3.8	4.2
無回答	6.7	7.1	8.0	7.5	4.2

問14 環境問題について、行政が特に取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。(MA)

「海や川、ため池の水質、水辺環境の改善」が 55.2%で最も高くなっています。次いで「ごみのポイ捨てや不法投棄への対策」が 51.3%、「道路環境の充実」が 44.3%で続いています。

(MA) N=357



(性別×問 14) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「将来を担う子どもたちへの環境教育の推進」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=357	男性 N=164	女性 N=186
海や川, ため池の水質, 水辺環境の改善	55.2	54.9	55.4
山林の保全や活用	41.7	41.5	40.9
まちの景観保護のための規制や指導	18.8	20.7	17.2
ごみ減量・資源化・リサイクルの推進	41.7	39.6	43.5
ごみのポイ捨てや不法投棄への対策	51.3	51.2	50.5
事業所からの騒音, 振動, 悪臭などへの公害対策	17.4	18.9	15.6
道路等からの騒音, 振動対策	9.2	10.4	8.1
道路環境の充実	44.3	47.0	41.4
公園の整備・充実	19.3	15.9	21.0
地球温暖化対策を積極的に行っている環境保全 団体への支援	9.0	9.1	9.1
住民への環境配慮活動促進	15.1	14.6	15.1
地球温暖化に関する情報提供や広報活動	11.5	8.5	14.0
将来を担う子どもたちへの環境教育の推進	39.2	32.9	44.6
省エネルギーや再生可能エネルギー設備の導入	16.5	17.1	15.6
行政自ら率先して, 省エネルギー対策に取り組む	22.7	23.2	22.0
環境に関する情報交換ができる場の提供	5.3	3.7	5.9
その他	1.7	1.8	1.6
無回答	4.2	4.3	4.3

(年齢層×問14) クロス集計

年齢別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「山林の保全や活用」の割合が高くなっています。

『60歳以上』は「ごみ減量・資源化・リサイクルの推進」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
海や川, ため池の水質, 水辺環境の改善	55.2	57.9	62.2	52.4
山林の保全や活用	41.7	52.6	37.8	41.2
まちの景観保護のための規制や指導	18.8	21.1	17.1	19.3
ごみ減量・資源化・リサイクルの推進	41.7	39.5	32.9	45.1
ごみのポイ捨てや不法投棄への対策	51.3	44.7	47.6	52.8
事業所からの騒音, 振動, 悪臭などへの公害対策	17.4	23.7	23.2	14.2
道路等からの騒音, 振動対策	9.2	10.5	11.0	8.6
道路環境の充実	44.3	47.4	46.3	42.5
公園の整備・充実	19.3	21.1	20.7	18.0
地球温暖化対策を積極的に行っている環境保全団体への支援	9.0	13.2	7.3	9.0
住民への環境配慮活動促進	15.1	18.4	11.0	15.9
地球温暖化に関する情報提供や広報活動	11.5	5.3	6.1	14.2
将来を担う子どもたちへの環境教育の推進	39.2	42.1	32.9	41.2
省エネルギーや再生可能エネルギー設備の導入	16.5	21.1	15.9	15.5
行政自ら率先して, 省エネルギー対策に取り組む	22.7	21.1	23.2	22.7
環境に関する情報交換ができる場の提供	5.3	5.3	3.7	5.6
その他	1.7	2.6	-	2.1
無回答	4.2	2.6	2.4	5.2

(地区別×問14) クロス集計

地区別でみると、『能美町』は他の地区に比べて、「ごみ減量・資源化・リサイクルの推進」「地球温暖化に関する情報提供や広報活動」「行政自ら率先して、省エネルギー対策に取り組む」の割合が高くなっています。

『沖美町』は「ごみのポイ捨てや不法投棄への対策」の割合が高くなっています。

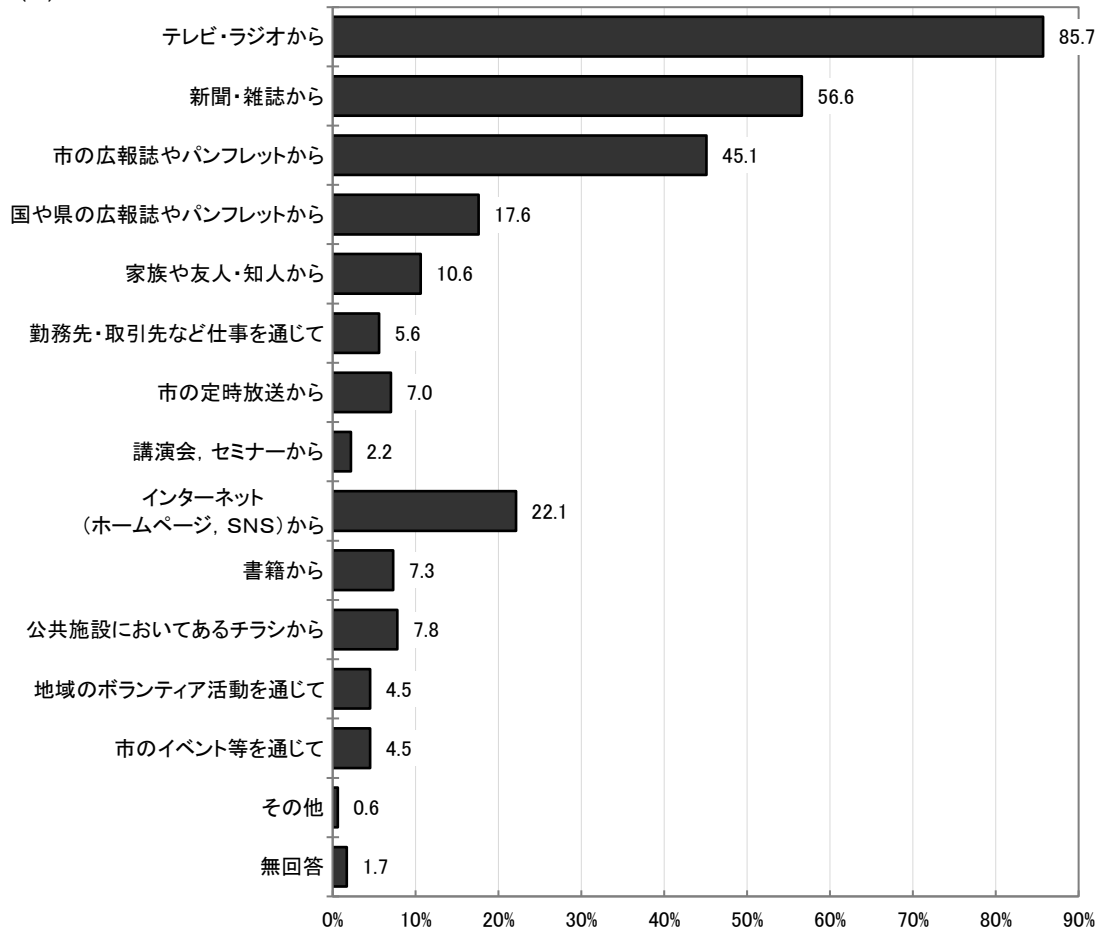
『大柿町』は「道路等からの騒音、振動対策」「地球温暖化に関する情報提供や広報活動」の割合が高くなっています。

	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
海や川, ため池の水質, 水辺環境の改善	55.2	57.5	54.7	52.8	53.7
山林の保全や活用	41.7	44.9	41.3	37.7	41.1
まちの景観保護のための規制や指導	18.8	18.1	17.3	20.8	20.0
ごみ減量・資源化・リサイクルの推進	41.7	41.7	49.3	34.0	41.1
ごみのポイ捨てや不法投棄への対策	51.3	53.5	50.7	56.6	45.3
事業所からの騒音, 振動, 悪臭などへの公害対策	17.4	14.2	21.3	20.8	16.8
道路等からの騒音, 振動対策	9.2	3.9	9.3	11.3	15.8
道路環境の充実	44.3	47.2	42.7	37.7	44.2
公園の整備・充実	19.3	20.5	20.0	15.1	18.9
地球温暖化対策を積極的に行っている環境保全団体への支援	9.0	7.1	13.3	5.7	10.5
住民への環境配慮活動促進	15.1	15.7	10.7	13.2	16.8
地球温暖化に関する情報提供や広報活動	11.5	8.7	16.0	3.8	15.8
将来を担う子どもたちへの環境教育の推進	39.2	40.9	36.0	37.7	41.1
省エネルギーや再生可能エネルギー設備の導入	16.5	18.9	10.7	15.1	15.8
行政自ら率先して、省エネルギー対策に取り組む	22.7	22.0	30.7	20.8	18.9
環境に関する情報交換ができる場の提供	5.3	3.1	6.7	7.5	4.2
その他	1.7	0.8	1.3	-	4.2
無回答	4.2	4.7	5.3	5.7	1.1

問15 環境問題に関する情報を、あなたはどこから得ていますか。次の中から選んでください。(MA)

「テレビ・ラジオから」が 85.7%で最も高くなっています。次いで「新聞・雑誌から」が 56.6%、「市の広報誌やパンフレットから」が 45.1%が続いています。

(MA) N=357



(性別×問 15) クロス集計

性別でみると、『男性』では『女性』に比べて、「新聞・雑誌から」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=357	男性 N=164	女性 N=186
テレビ・ラジオから	85.7	84.1	87.1
新聞・雑誌から	56.6	63.4	50.5
市の広報誌やパンフレットから	45.1	41.5	49.5
国や県の広報誌やパンフレットから	17.6	15.9	19.9
家族や友人・知人から	10.6	8.5	12.4
勤務先・取引先など仕事を通じて	5.6	9.1	2.7
市の定時放送から	7.0	6.1	7.5
講演会, セミナーから	2.2	2.4	2.2
インターネット(ホームページ, SNS)から	22.1	27.4	18.3
書籍から	7.3	9.1	5.4
公共施設においてあるチラシから	7.8	9.1	7.0
地域のボランティア活動を通じて	4.5	4.9	4.3
市のイベント等を通じて	4.5	2.4	5.9
その他	0.6	0.6	0.5
無回答	1.7	1.8	1.1

(年齢層×問 15) クロス集計

年齢別でみると、『40 歳未満』は他の年齢層に比べて、「インターネット(ホームページ, SNS)から」の割合が高くなっています。

『60 歳以上』は「新聞・雑誌から」「市の広報誌やパンフレットから」「国や県の広報誌やパンフレットから」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=357	40歳未満 N=38	40歳以上 60歳未満 N=82	60歳以上 N=233
テレビ・ラジオから	85.7	76.3	87.8	86.3
新聞・雑誌から	56.6	23.7	48.8	64.4
市の広報誌やパンフレットから	45.1	44.7	30.5	51.1
国や県の広報誌やパンフレットから	17.6	13.2	9.8	21.5
家族や友人・知人から	10.6	13.2	6.1	12.0
勤務先・取引先など仕事を通じて	5.6	7.9	11.0	3.4
市の定時放送から	7.0	5.3	1.2	9.4
講演会, セミナーから	2.2	2.6	1.2	2.6
インターネット(ホームページ, SNS)から	22.1	57.9	37.8	11.2
書籍から	7.3	7.9	6.1	7.3
公共施設においてあるチラシから	7.8	7.9	7.3	8.2
地域のボランティア活動を通じて	4.5	5.3	1.2	5.6
市のイベント等を通じて	4.5	-	2.4	6.0
その他	0.6	-	-	0.9
無回答	1.7	-	-	2.6

(地区別×問15) クロス集計

地区別でみると、『沖美町』は他の地区に比べて、「市の広報誌やパンフレットから」「新聞・雑誌から」「公共施設においてあるチラシから」の割合が高くなっています。

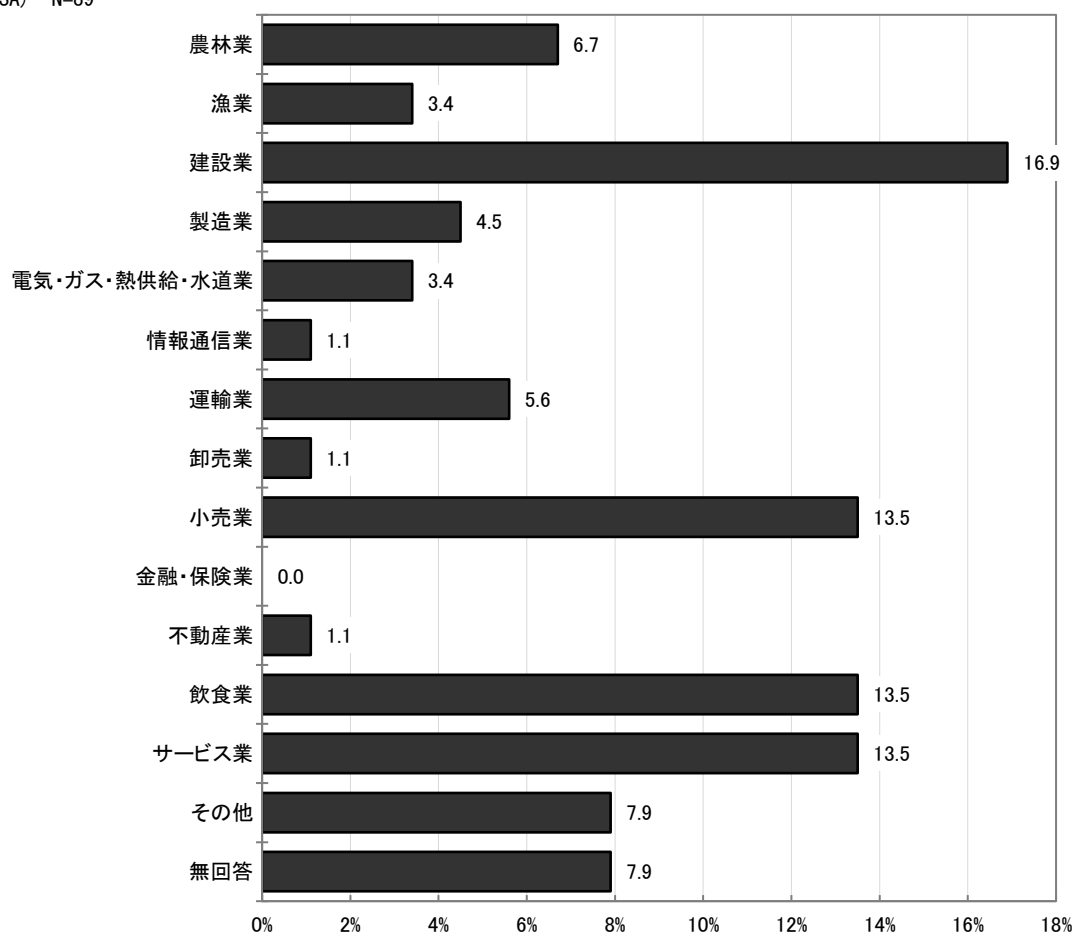
	地区別				
	全体 N=357	江田島町 N=127	能美町 N=75	沖美町 N=53	大柿町 N=95
テレビ・ラジオから	85.7	84.3	92.0	83.0	84.2
新聞・雑誌から	56.6	57.5	57.3	62.3	50.5
市の広報誌やパンフレットから	45.1	48.0	32.0	52.8	48.4
国や県の広報誌やパンフレットから	17.6	17.3	14.7	20.8	17.9
家族や友人・知人から	10.6	11.8	10.7	11.3	9.5
勤務先・取引先など仕事を通じて	5.6	3.9	8.0	5.7	6.3
市の定時放送から	7.0	9.4	6.7	3.8	6.3
講演会、セミナーから	2.2	1.6	2.7	-	4.2
インターネット(ホームページ, SNS)から	22.1	19.7	26.7	18.9	25.3
書籍から	7.3	8.7	4.0	7.5	7.4
公共施設においてあるチラシから	7.8	10.2	5.3	15.1	3.2
地域のボランティア活動を通じて	4.5	3.9	6.7	1.9	5.3
市のイベント等を通じて	4.5	2.4	6.7	5.7	5.3
その他	0.6	0.8	1.3	-	-
無回答	1.7	2.4	-	1.9	1.1

【事業所】

問 1 (1) 貴事業所の業種 (SA)

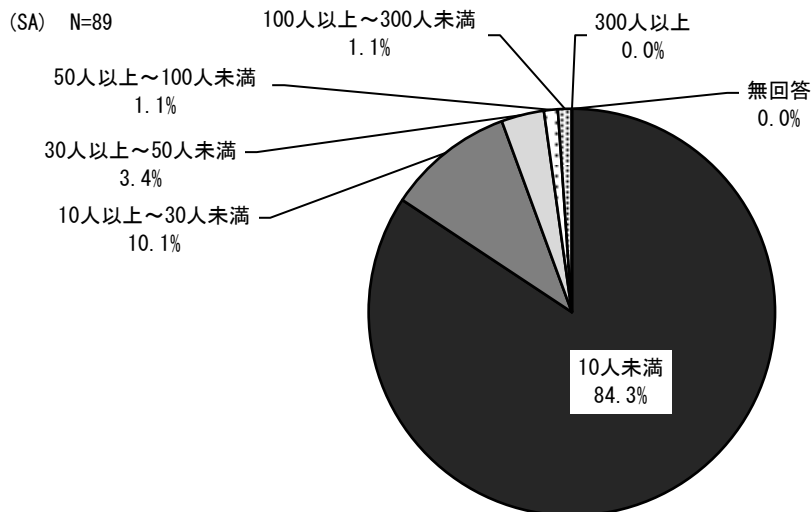
「建設業」が 16.9%で最も高くなっています。次いで「小売業」「飲食業」「サービス業」が 13.5%で続いています。

(SA) N=89



問 1 (2) 貴事業所の従業員数 (SA)

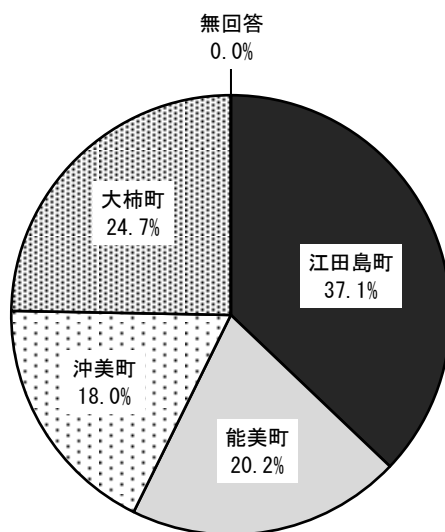
「10人未満」が84.3%で突出しています。次いで「10人以上～30人未満」が10.1%、「30人以上～50人未満」が3.4%で続いています。



問 1 (3) 貴事業所の所在地 (SA)

「江田島町」が37.1%で最も高く、次いで「大柿町」が24.7%、「能美町」が20.2%、「沖美町」が18.0%となっています。

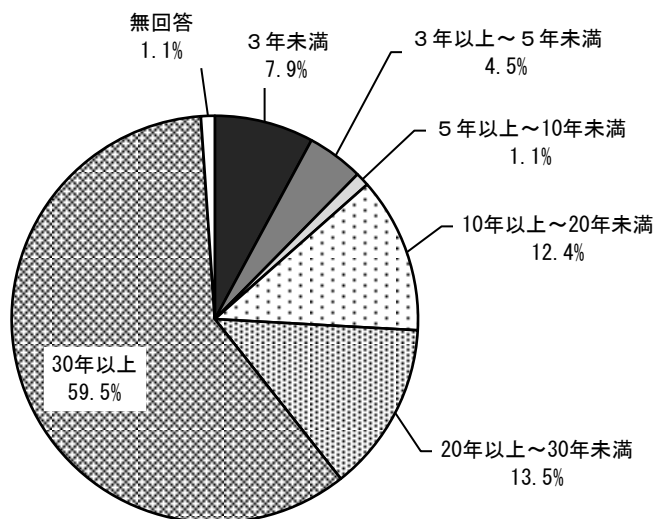
(SA) N=89



問 1 (4) 貴事業所の所在年数 (SA)

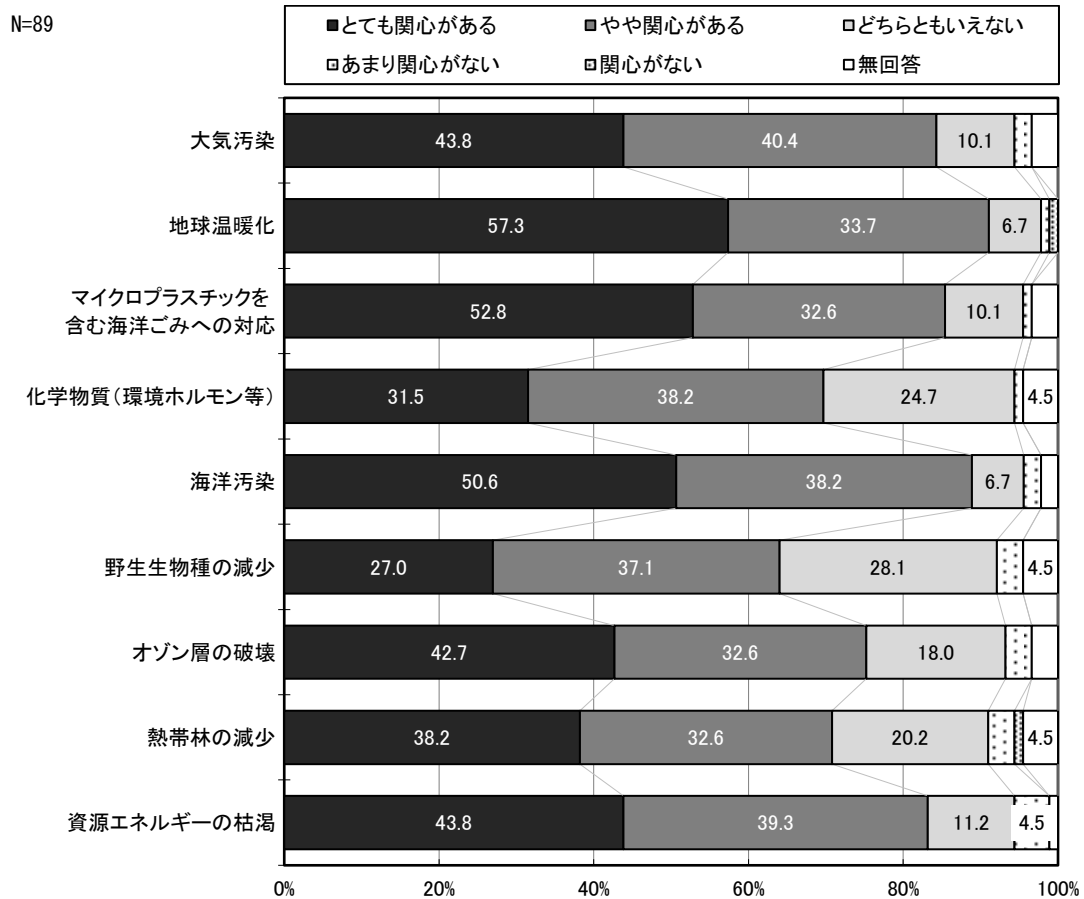
「30年以上」が 59.5%で突出しています。次いで「20年以上～30年未満」が 13.5%、「10年以上～20年未満」が 12.4%で続いています。

(SA) N=89



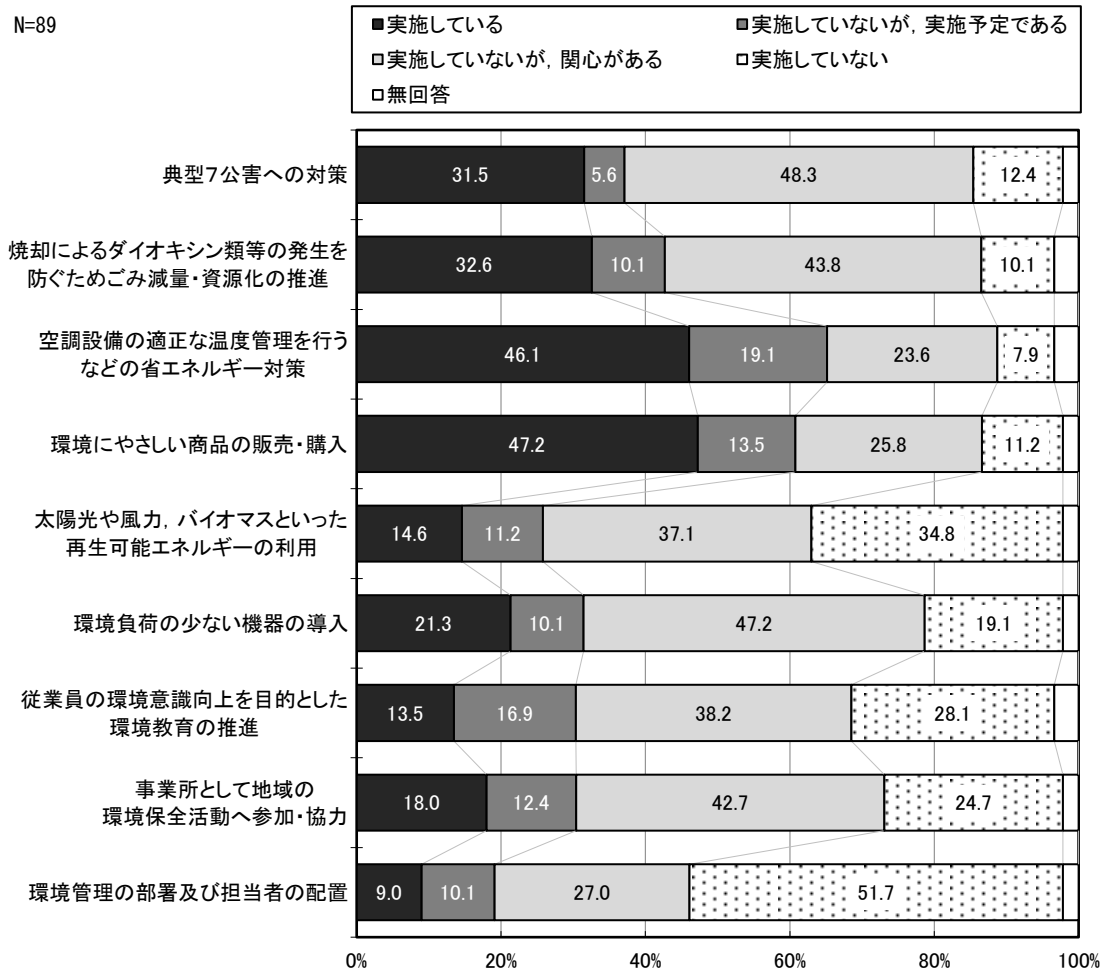
問2 貴事業所は環境に関する下記の項目について、どの程度関心がありますか。(各SA)

関心層(「とても関心がある」+「やや関心がある」)が高いものは、『地球温暖化』『海洋汚染』『マイクロプラスチックを含む海洋ごみへの対応』の順となっており、全項目で6割以上となっています。



問3 貴事業所は、環境保全への取組を実施していますか。(各SA)

「実施している」が高い項目は、『環境にやさしい商品の販売・購入』『空調設備の適正な温度管理を行うなどの省エネルギー対策』の順で、4割以上となっています。

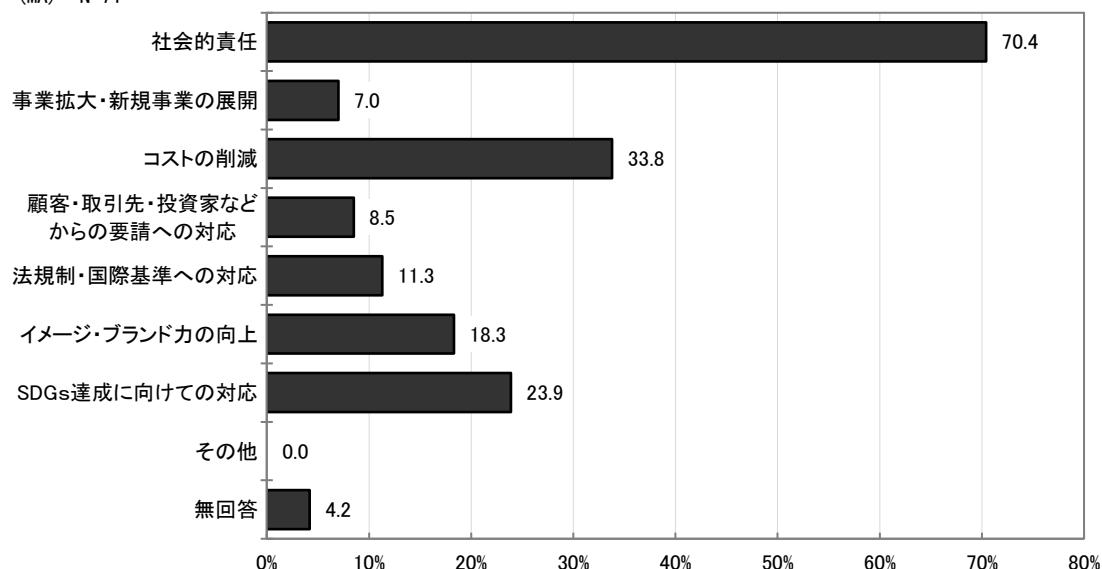


問3で、「実施している」「実施していないが、実施予定である」に1つでも○をつけた事業所におうかがいします。

問4 貴事業所の事業活動において、環境への取組を行う目的は次のうちどれですか。(MA)

「社会的責任」が70.4%で突出しています。次いで「コストの削減」が33.8%、「SDGs達成に向けての対応」が23.9%で続いています。

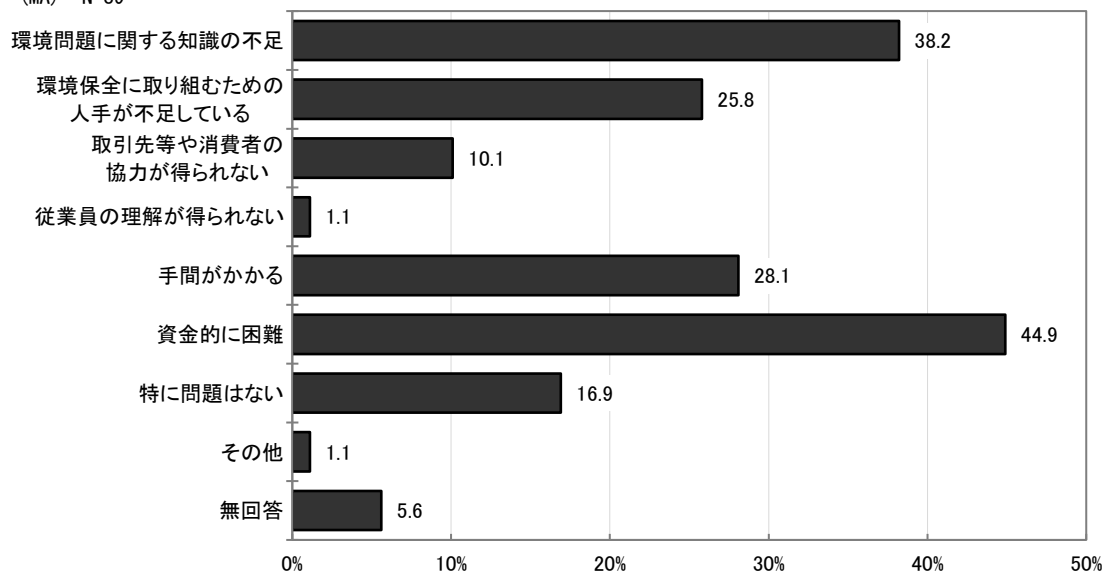
(MA) N=71



問5 貴事業所が環境保全への取組を進めていくうえで、生じる問題について、次の中から選んでください。(MA)

「資金的に困難」が44.9%で最も高くなっています。次いで「環境問題に関する知識の不足」が38.2%、「手間がかかる」が28.1%で続いています。

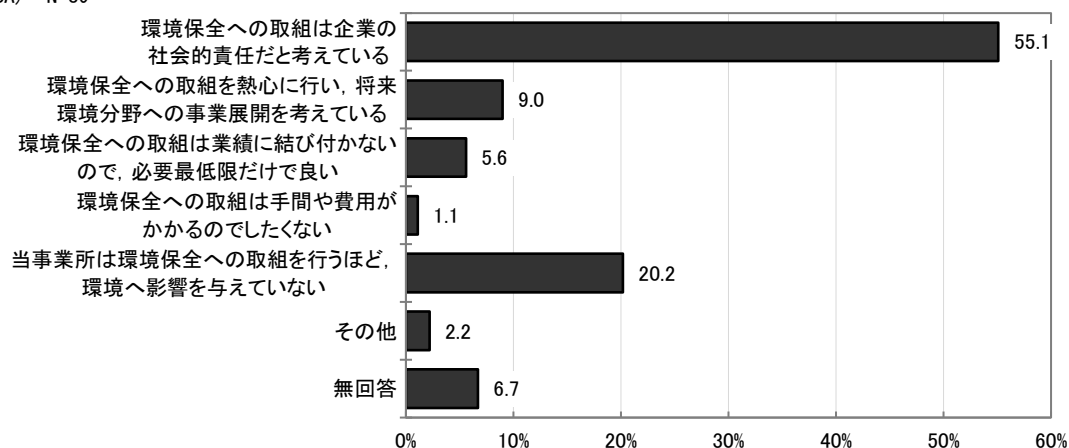
(MA) N=89



問6 事業活動における環境保全への取組について、どのようにお考えですか。
(SA)

「環境保全への取組は企業の社会的責任だと考えている」が 55.1%で突出しています。次いで「当事業所は環境保全への取組を行うほど、環境へ影響を与えていない」が 20.2%、「環境保全への取組を熱心に行い、将来環境分野への事業展開を考えている」が 9.0%で続いています。

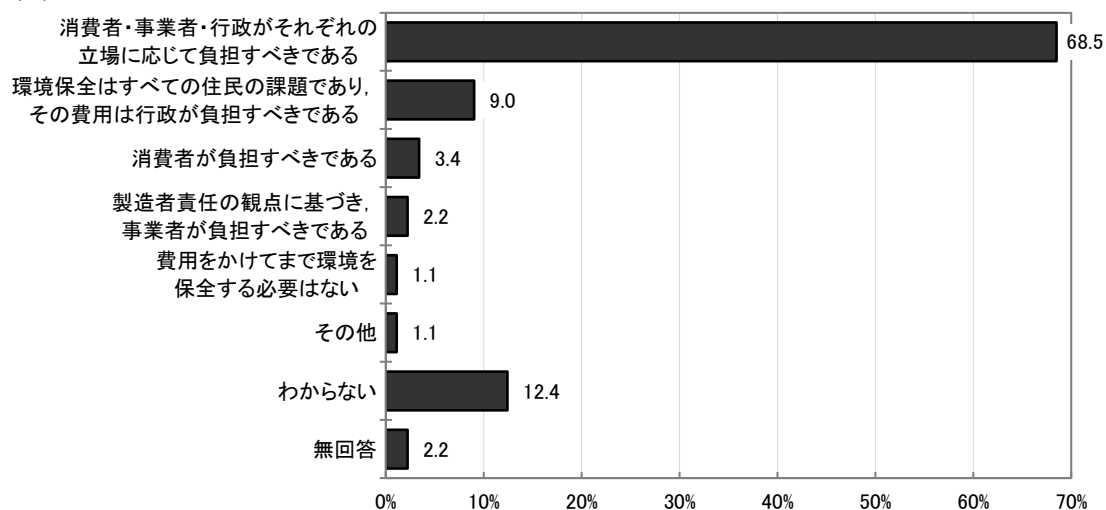
(SA) N=89



問7 環境保全のための費用は、どのように負担するべきだとお考えですか。
(SA)

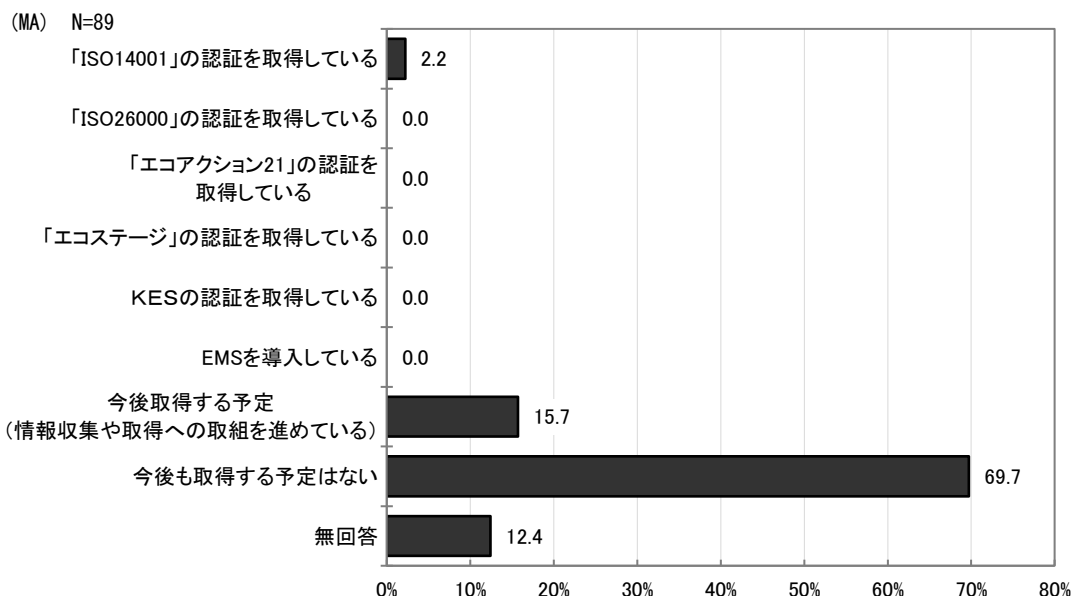
「消費者・事業者・行政がそれぞれの立場に応じて負担すべきである」が 68.5%で突出しています。次いで「わからない」が 12.4%、「環境保全はすべての住民の課題であり、その費用は行政が負担すべきである」が 9.0%で続いています。

(SA) N=89



問8 貴事業所は、環境マネジメントシステム等環境に関する方針や目標を構築及び設定していますか。(MA)

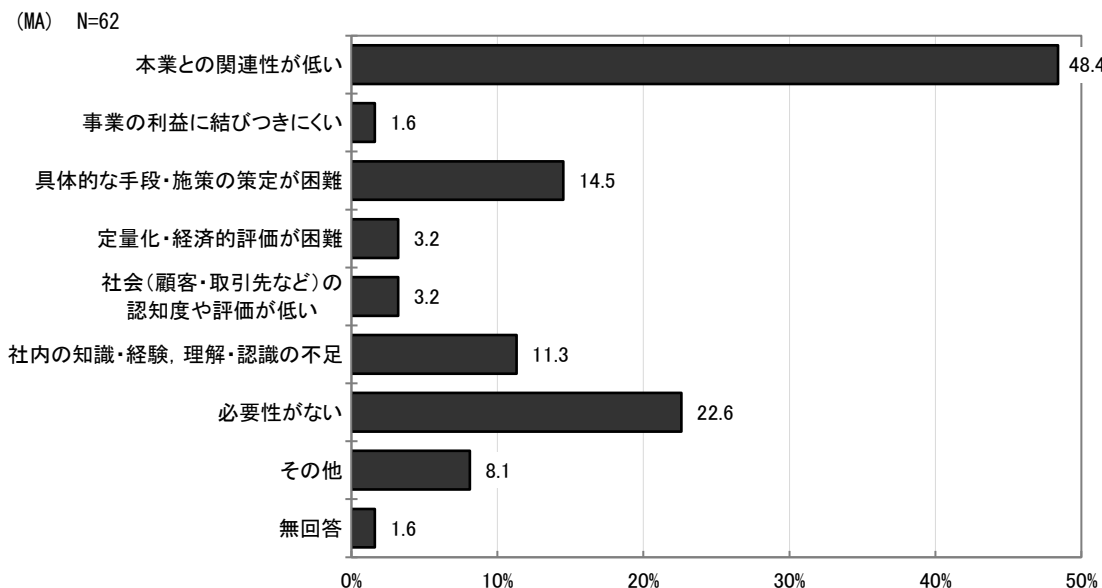
「今後も取得する予定はない」が 69.7%で突出しています。次いで「今後取得する予定(情報収集や取得への取組を進めている)」が 15.7%, 「「ISO14001」の認証を取得している」が 2.2%で続いています。



問8で、「8. 今後も取得する予定はない」とお答えいただいた方に質問します。

問9 その理由についてお答えください。(MA)

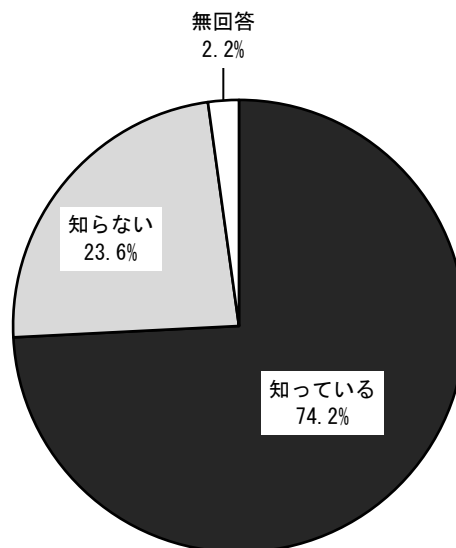
「本業との関連性が低い」が 48.4%で突出しています。次いで「必要性がない」が 22.6%, 「具体的な手段・施策の策定が困難」が 14.5%で続いています。



問10 令和3年4月に行われた気候変動サミットで、日本は2030年度までに温室効果ガスを46%削減（2013年度比）する方針を打ち出しましたが、知っていますか。(SA)

「知っている」が74.2%を占めています。

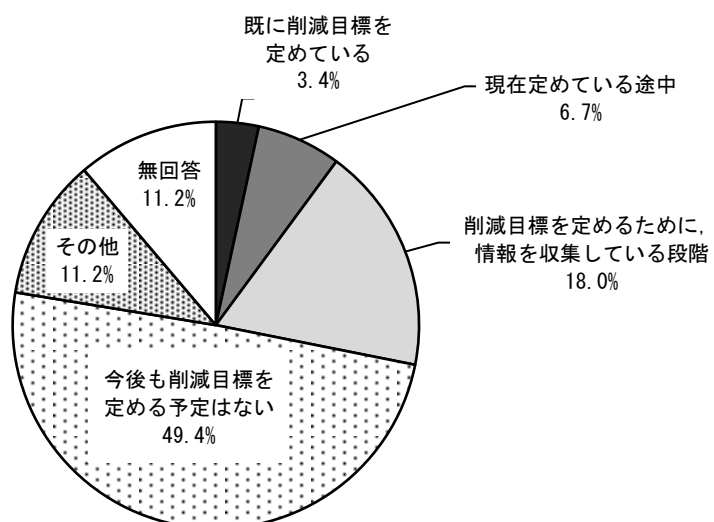
(SA) N=89



問11 貴事業所では温室効果ガス排出量の削減に向けて、排出量の削減目標を定めていますか。(SA)

「今後も削減目標を定める予定はない」が49.4%で突出しています。次いで「削減目標を定めるために、情報を収集している段階」が18.0%、「現在定めている途中」が6.7%が続いています。

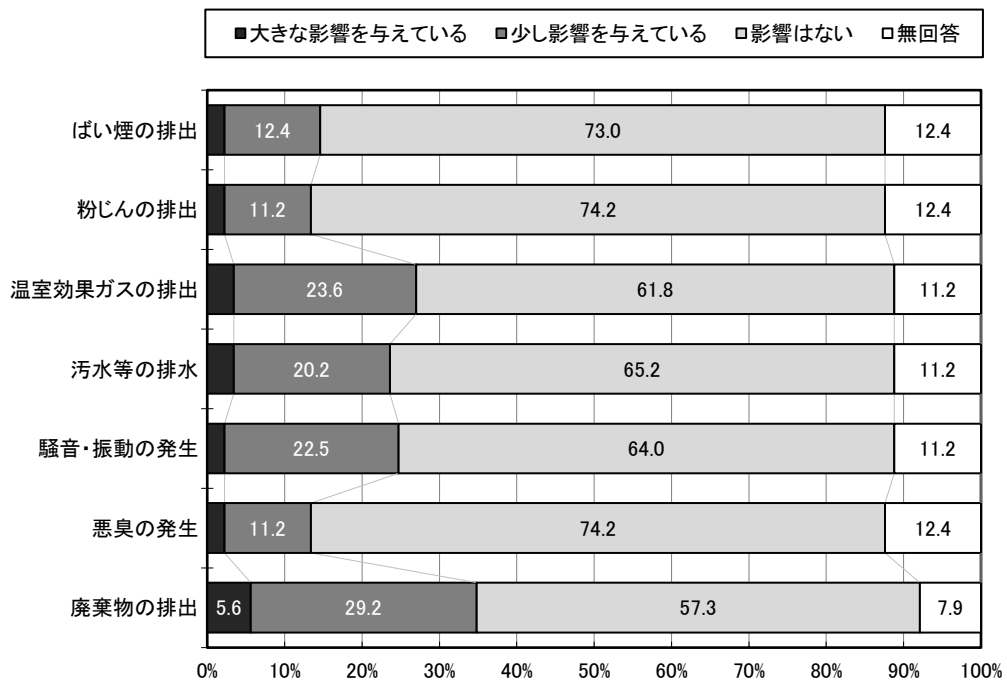
(SA) N=89



問12 貴事業所の事業活動により、以下の項目について影響を与えていると思
うものはありますか。(各SA)

全項目で「影響はない」が5割以上となっています。

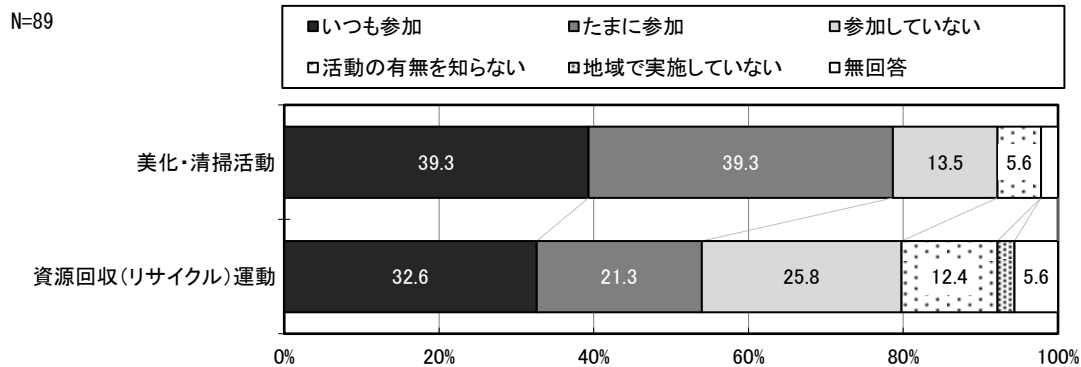
N=89



問13 地域での環境活動について、下記の項目にどの程度参加されていますか。
また、どの程度関心がありますか。（各SA）

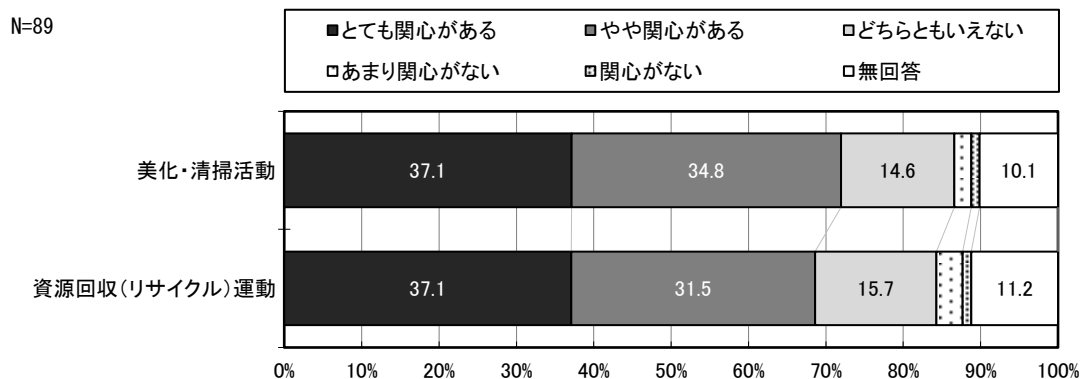
（Ⅰ．参加度）

参加層（「いつも参加」+「たまに参加」）は2項目とも5割以上となっており、『美化・清掃活動』では78.6%、『資源回収(リサイクル)運動』では、53.9%となっています。



（Ⅱ．関心度）

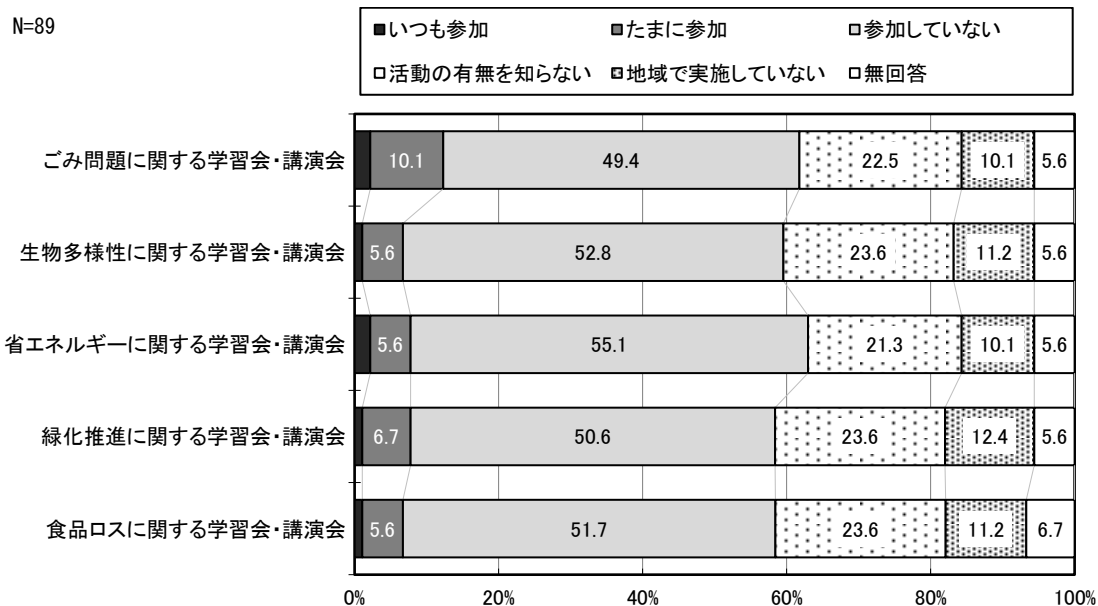
関心層（「とても関心がある」+「やや関心がある」）は、2項目とも7割程度となっています。



問14 環境についての学習会や講演会などについて、下記の項目にどの程度参加されていますか。また、どの程度関心がありますか。（各SA）

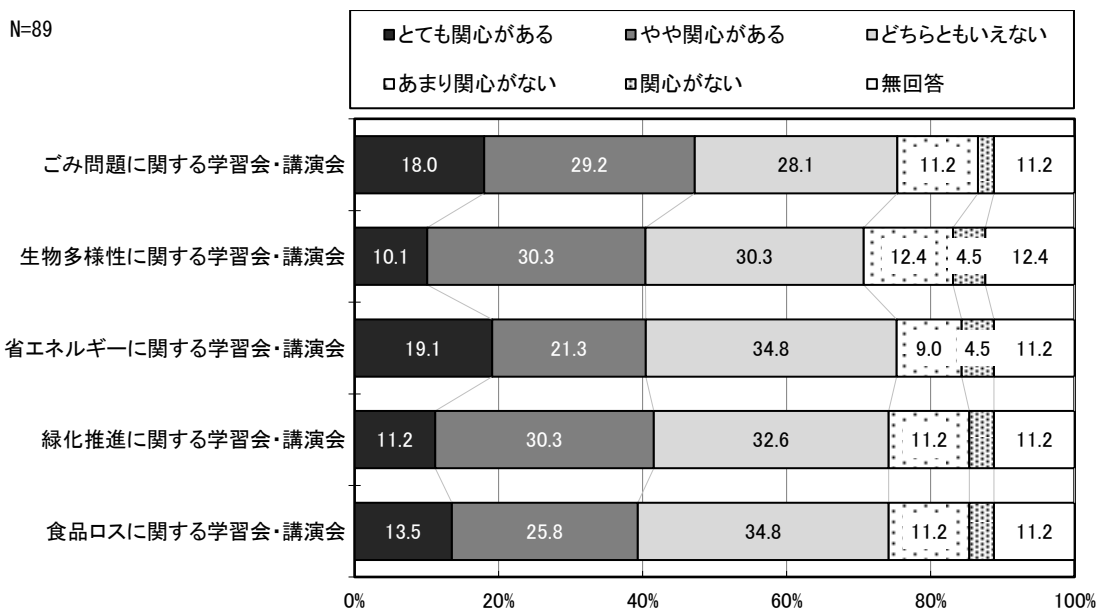
（Ⅰ．参加度）

参加層（「いつも参加」+「たまに参加」）は、『ごみ問題に関する学習会・講演会』が1割以上となっていますが、ほかは全て1割未満となっています。



（Ⅱ．関心度）

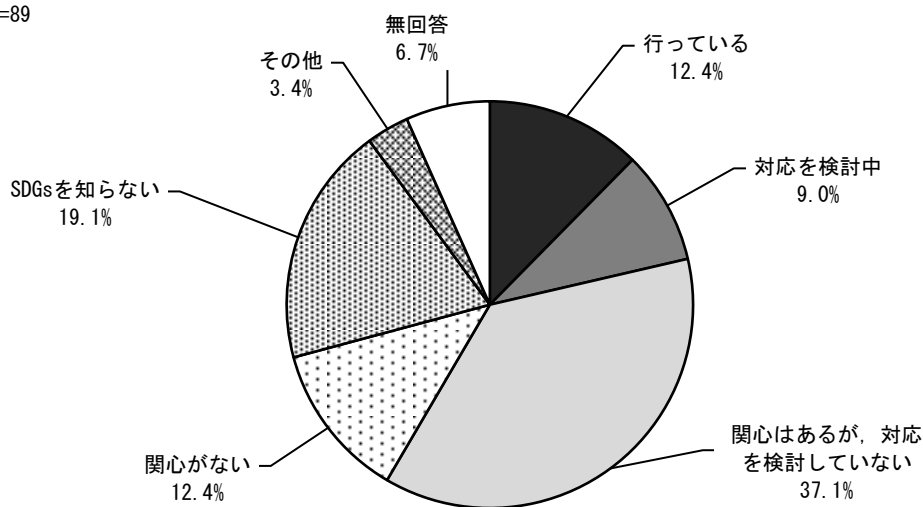
関心層（「とても関心がある」+「やや関心がある」）は、ほとんどの項目で4割程度となっており、『ごみ問題に関する学習会・講演会』が5割弱となっています。



問15 2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）では、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決するため、17の目標と169のターゲットが示されました。SDGs達成に向けて企業の取組も広がっています。貴事業所ではSDGsへの貢献の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。（SA）

「関心はあるが、対応を検討していない」が37.1%で突出しています。次いで「SDGsを知らない」が19.1%、「行っている」「関心がない」が12.4%で続いています。

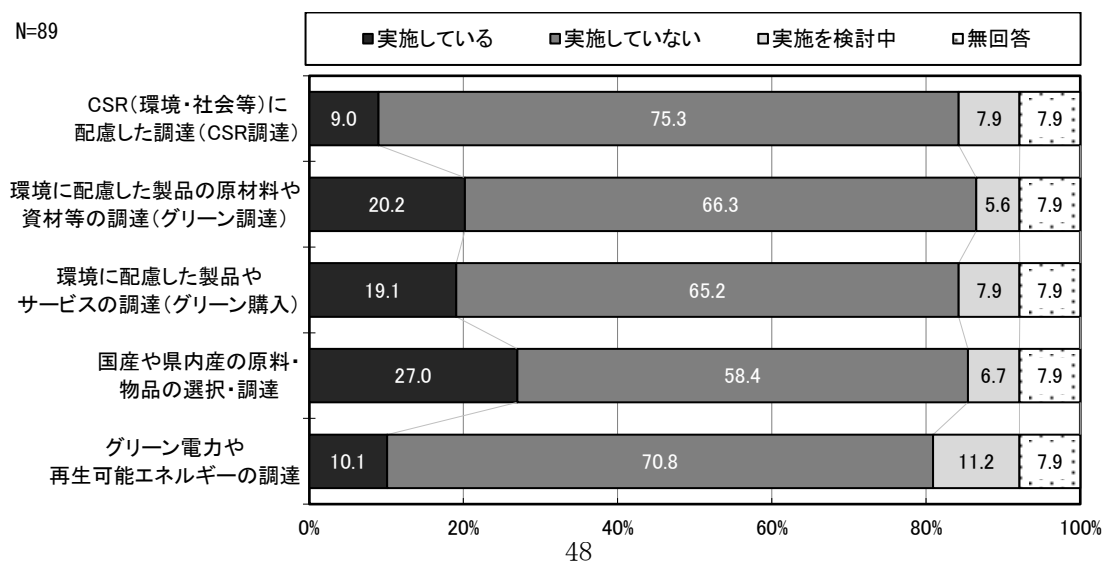
(SA) N=89



問16 貴事業所では、次に挙げる環境等に配慮した調達を行っていますか。（各SA）

「実施している」が高いものは、『国産や県内産の原料・物品の選択・調達』『環境に配慮した製品の原材料や資材等の調達(グリーン調達)』『環境に配慮した製品やサービスの調達(グリーン購入)』の順で2割程度となっています。

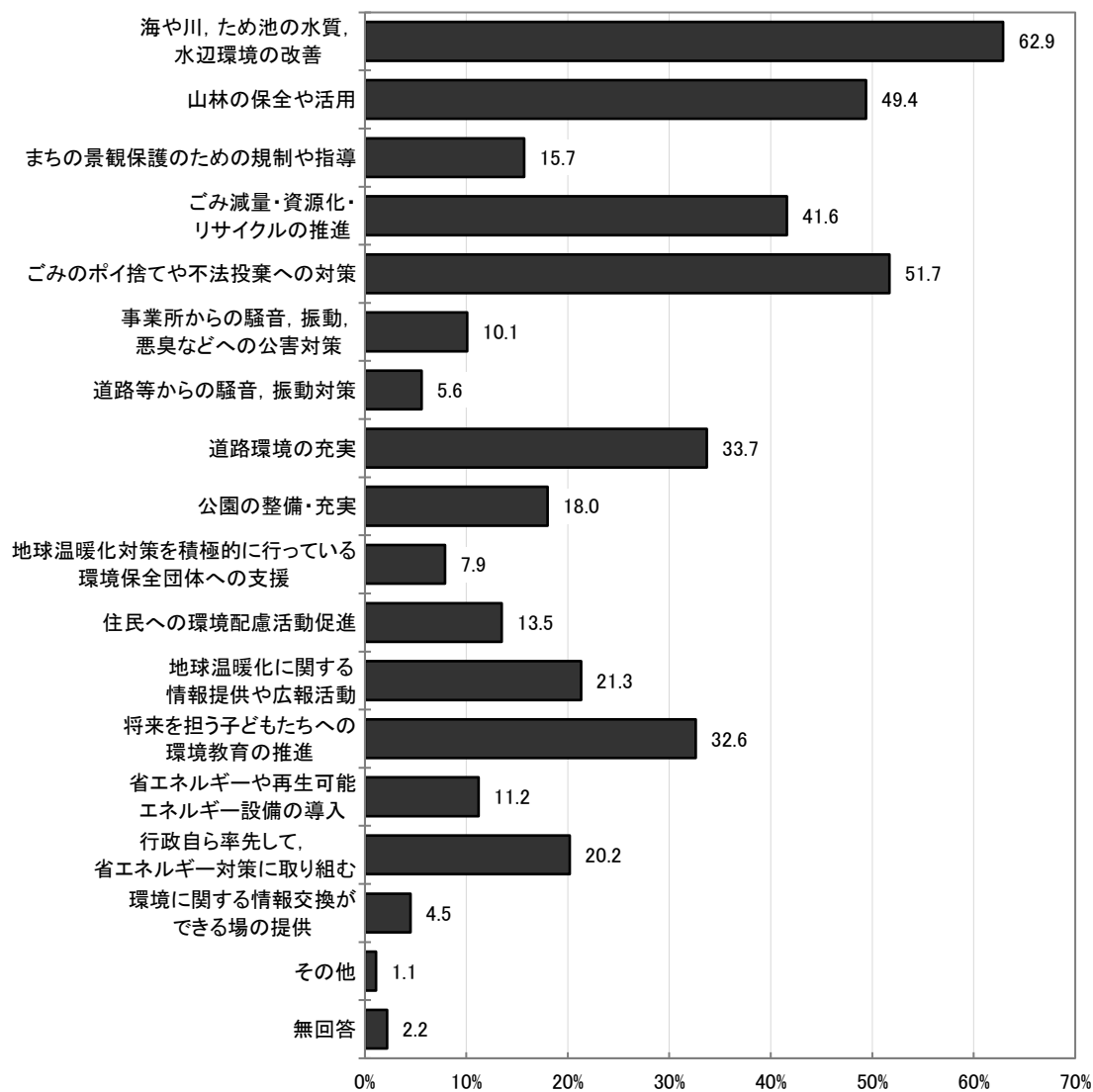
N=89



問17 環境問題について、行政が特に取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。(MA)

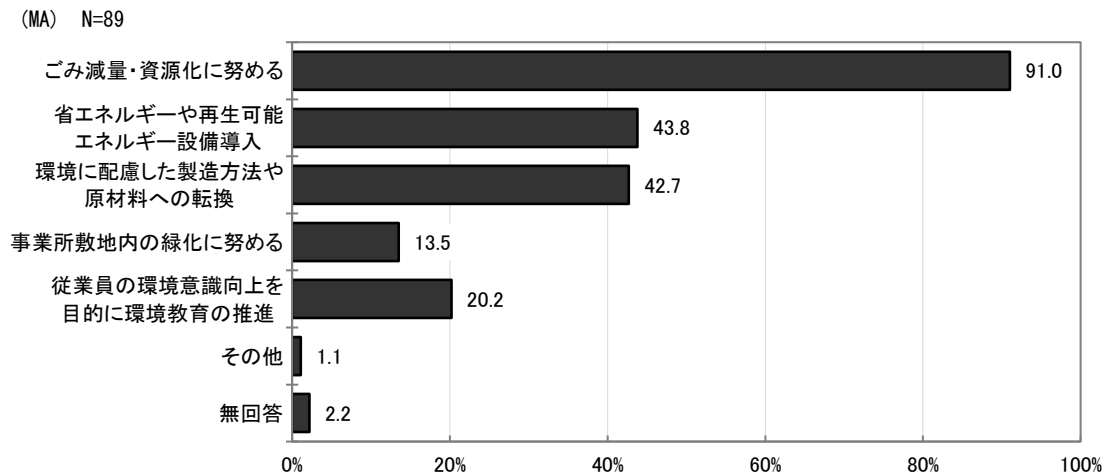
「海や川, ため池の水質, 水辺環境の改善」が 62.9%で最も高くなっています。次いで「ごみのポイ捨てや不法投棄への対策」が 51.7%, 「山林の保全や活用」が 49.4%で続いています。

(MA) N=89



問18 環境問題について、事業者が特に取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。(MA)

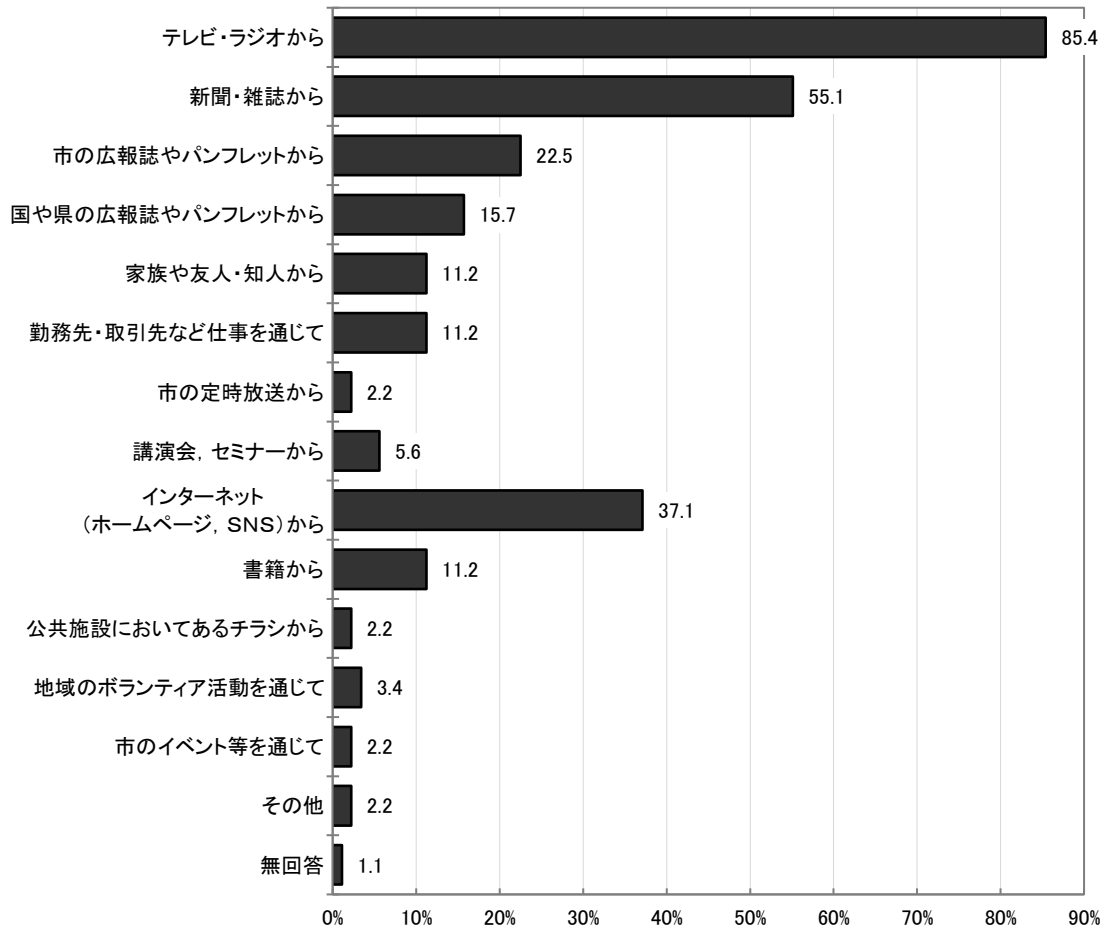
「ごみ減量・資源化に努める」が 91.0%で突出しています。次いで「省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入」が 43.8%、「環境に配慮した製造方法や原材料への転換」が 42.7%で続いています。



問19 環境問題に関する情報を、あなたはどこから得ていますか。次の中から選んでください。(MA)

「テレビ・ラジオから」が 85.4%で最も高くなっています。次いで「新聞・雑誌から」が 55.1%、「インターネット(ホームページ, SNS)から」が 37.1%が続いています。

(MA) N=89

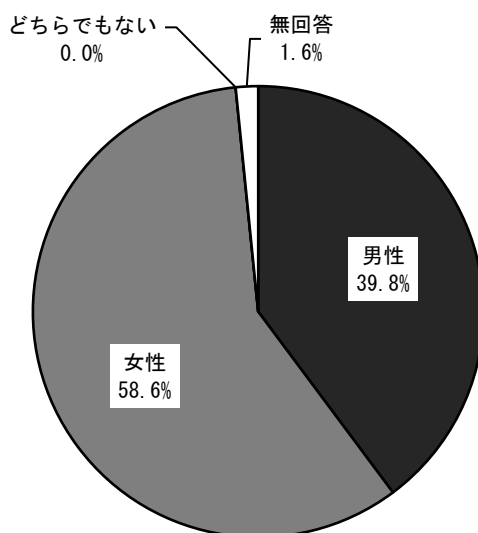


【教職員】

問 1 (1) 回答者の性別 (SA)

「女性」が 58.6%、「男性」が 39.8%となっています。

(SA) N=128



(年齢層×問 1 (1)) クロス集計

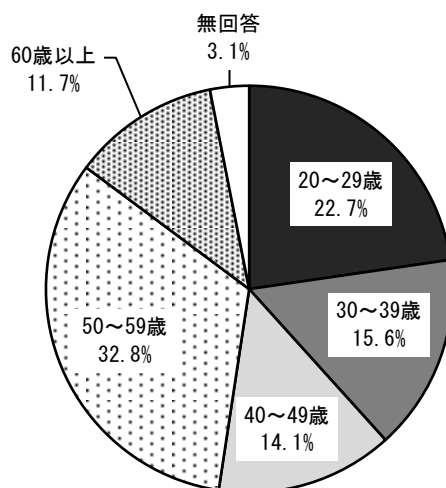
年齢層別でみると、『60歳以上』は他の年齢層に比べて、「男性」の割合がやや高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
男性	39.8	36.7	40.0	53.3
女性	58.6	63.3	60.0	46.7
どちらでもない	-	-	-	-
無回答	1.6	-	-	-

問 1 (2) 回答者の年齢 (SA)

「50～59歳」が32.8%で最も高くなっています。次いで「40歳未満」が22.7%、「30～39歳」が15.6%で続いています。

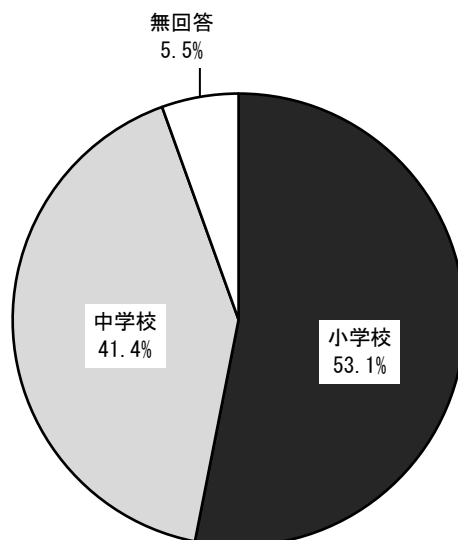
(SA) N=128



問 1 (3) 回答者の担当学校 (SA)

「小学校」が53.1%を占めています。

(SA) N=128



(年齢層×問 1 (3)) クロス集計

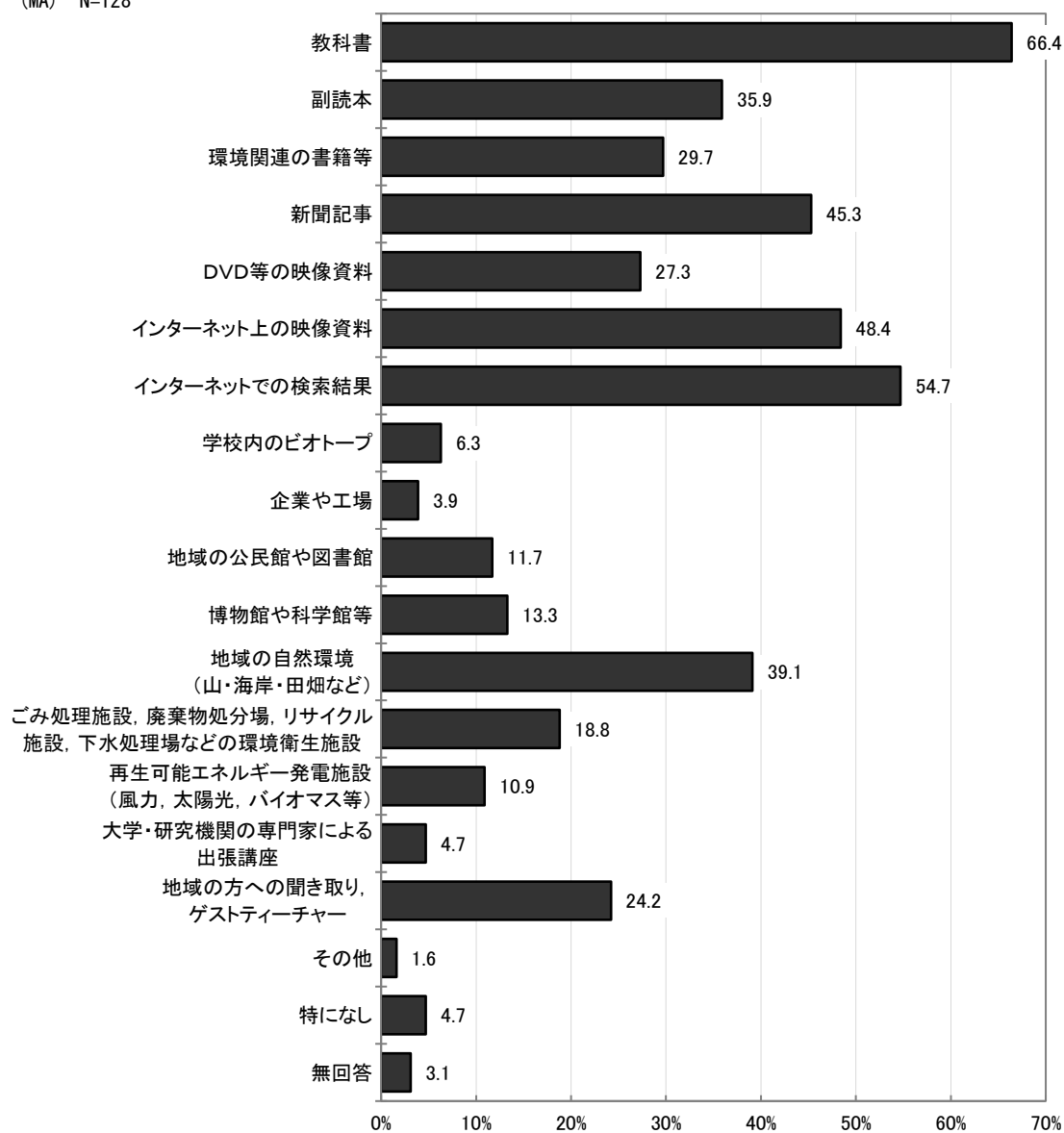
年齢層別でみると、『60歳以上』は他の年齢層に比べて、「小学校」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
小学校	53.1	49.0	53.3	73.3
中学校	41.4	51.0	41.7	13.3
無回答	5.5	-	5.0	13.3

問2 あなたが環境教育を行うにあたり活用しているものは何ですか。(MA)

「教科書」が66.4%で最も高くなっています。次いで「インターネットでの検索結果」が54.7%、「インターネット上の映像資料」が48.4%が続いています。

(MA) N=128



(性別×問2) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「教科書」「インターネットでの検索結果」の割合が高くなっています。

『女性』は「地域の公民館や図書館」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
教科書	66.4	82.4	57.3
副読本	35.9	37.3	36.0
環境関連の書籍等	29.7	25.5	33.3
新聞記事	45.3	51.0	42.7
DVD等の映像資料	27.3	39.2	20.0
インターネット上の映像資料	48.4	52.9	46.7
インターネットでの検索結果	54.7	68.6	46.7
学校内のビオトープ	6.3	7.8	5.3
企業や工場	3.9	5.9	2.7
地域の公民館や図書館	11.7	2.0	18.7
博物館や科学館等	13.3	13.7	13.3
地域の自然環境 (山・海岸・田畑など)	39.1	45.1	36.0
ごみ処理施設, 廃棄物処分場, リサイクル施設, 下水処理場などの環境衛生施設	18.8	23.5	16.0
再生可能エネルギー発電施設 (風力, 太陽光, バイオマス等)	10.9	13.7	9.3
大学・研究機関の専門家による出張講座	4.7	7.8	2.7
地域の方への聞き取り, ゲストティーチャー	24.2	27.5	22.7
その他	1.6	-	2.7
特になし	4.7	2.0	6.7
無回答	3.1	-	2.7

(年齢層×問2) クロス集計

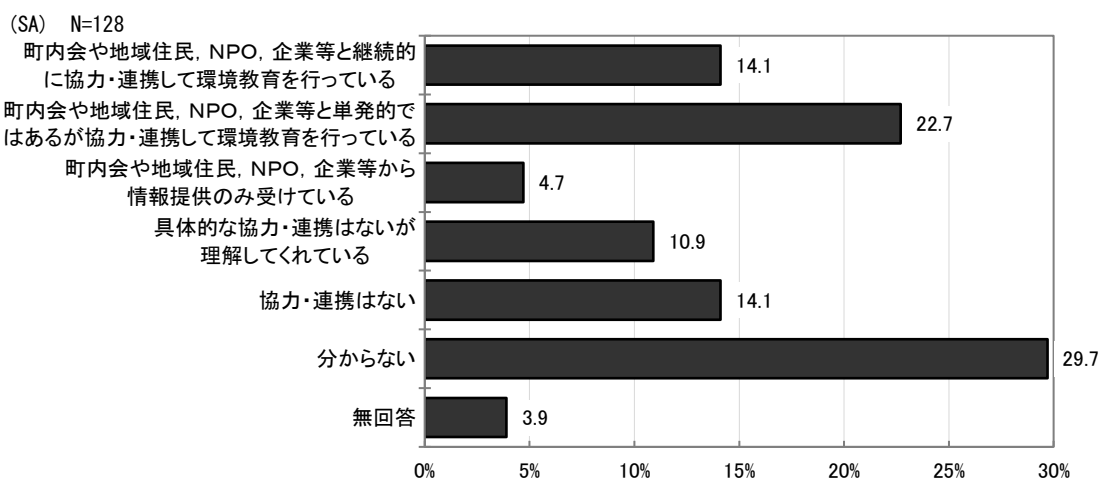
年齢層別でみると、『40歳以上 60歳未満』は「インターネットでの検索結果」「地域の自然環境(山・海岸・田畑など)」の割合が高くなっています。

『60歳以上』は「環境関連の書籍等」「ごみ処理施設, 廃棄物処分場, リサイクル施設, 下水処理場などの環境衛生施設」「地域の方への聞き取り, ゲストティーチャー」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
教科書	66.4	61.2	70.0	80.0
副読本	35.9	30.6	41.7	33.3
環境関連の書籍等	29.7	18.4	35.0	53.3
新聞記事	45.3	28.6	60.0	53.3
DVD等の映像資料	27.3	22.4	33.3	20.0
インターネット上の映像資料	48.4	51.0	43.3	60.0
インターネットでの検索結果	54.7	44.9	65.0	53.3
学校内のビオトープ	6.3	2.0	11.7	-
企業や工場	3.9	2.0	6.7	-
地域の公民館や図書館	11.7	10.2	15.0	6.7
博物館や科学館等	13.3	10.2	18.3	6.7
地域の自然環境 (山・海岸・田畑など)	39.1	22.4	53.3	46.7
ごみ処理施設, 廃棄物処分場, リサイクル施設, 下水処理場などの環境衛生施設	18.8	4.1	28.3	33.3
再生可能エネルギー発電施設 (風力, 太陽光, バイオマス等)	10.9	6.1	16.7	6.7
大学・研究機関の専門家による出張講座	4.7	-	8.3	6.7
地域の方への聞き取り, ゲストティーチャー	24.2	10.2	33.3	40.0
その他	1.6	-	1.7	6.7
特になし	4.7	8.2	3.3	-
無回答	3.1	2.0	1.7	-

問3 環境教育に取り組む際に地域・NPO・企業等との協力・連携はありますか。
(SA)

「分からない」が29.7%で最も高くなっています。次いで「町内会や地域住民, NPO, 企業等と単発的ではあるが協力・連携して環境教育を行っている」が22.7%, 「町内会や地域住民, NPO, 企業等と継続的に協力・連携して環境教育を行っている」「協力・連携はない」が14.1%で続いています。



(性別×問3) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「分からない」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
町内会や地域住民, NPO, 企業等と継続的に協力・連携して環境教育を行っている	14.1	19.6	10.7
町内会や地域住民, NPO, 企業等と単発的ではあるが協力・連携して環境教育を行っている	22.7	27.5	20.0
町内会や地域住民, NPO, 企業等から情報提供のみ受けている	4.7	5.9	4.0
具体的な協力・連携はないが理解してくれている	10.9	7.8	13.3
協力・連携はない	14.1	19.6	10.7
分からない	29.7	19.6	37.3
無回答	3.9	-	4.0

(年齢層×問3) クロス集計

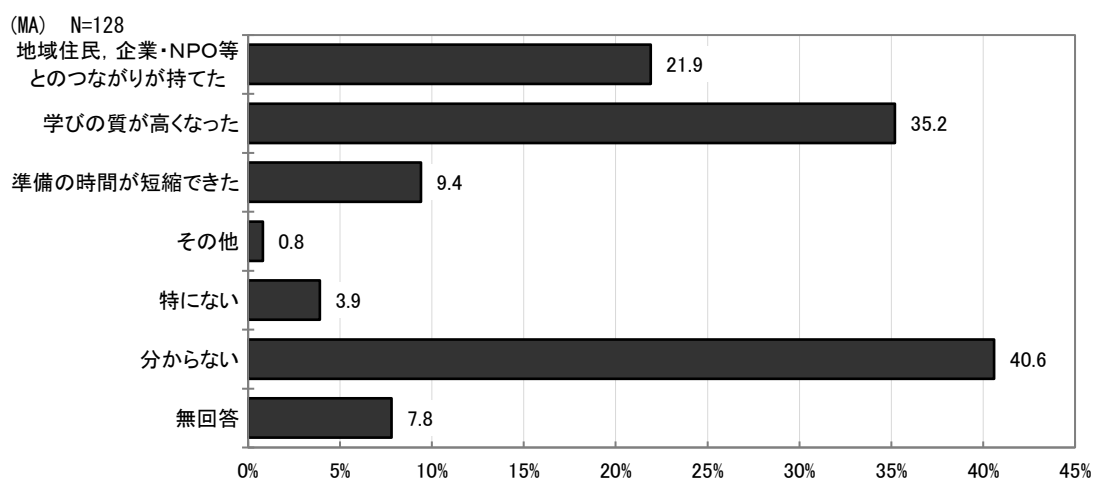
年齢別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「分からない」の割合が高くなっています。

『60歳以上』は「町内会や地域住民, NPO, 企業等と単発的ではあるが協力・連携して環境教育を行っている」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
町内会や地域住民, NPO, 企業等と継続的に協力・連携して環境教育を行っている	14.1	14.3	13.3	20.0
町内会や地域住民, NPO, 企業等と単発的ではあるが協力・連携して環境教育を行っている	22.7	14.3	26.7	40.0
町内会や地域住民, NPO, 企業等から情報提供のみ受けている	4.7	4.1	6.7	-
具体的な協力・連携はないが理解してくれている	10.9	6.1	16.7	-
協力・連携はない	14.1	14.3	15.0	13.3
分からない	29.7	44.9	18.3	26.7
無回答	3.9	2.0	3.3	-

問4 地域・NPO・企業等と協力・連携して良かった点は何ですか。(MA)

「分からない」が 40.6%で最も高くなっています。次いで「学びの質が高くなった」が 35.2%、「地域住民, 企業・NPO等とのつながりが持てた」が 21.9%で続いています。



(性別×問4) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「地域住民，企業・NPO等とのつながりが持てた」「学びの質が高くなった」の割合が高くなっています。

『女性』は「分からない」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
地域住民，企業・NPO等とのつながりが持てた	21.9	31.4	16.0
学びの質が高くなった	35.2	45.1	29.3
準備の時間が短縮できた	9.4	9.8	9.3
その他	0.8	2.0	—
特にない	3.9	2.0	5.3
分からない	40.6	33.3	46.7
無回答	7.8	5.9	6.7

(年齢層×問4) クロス集計

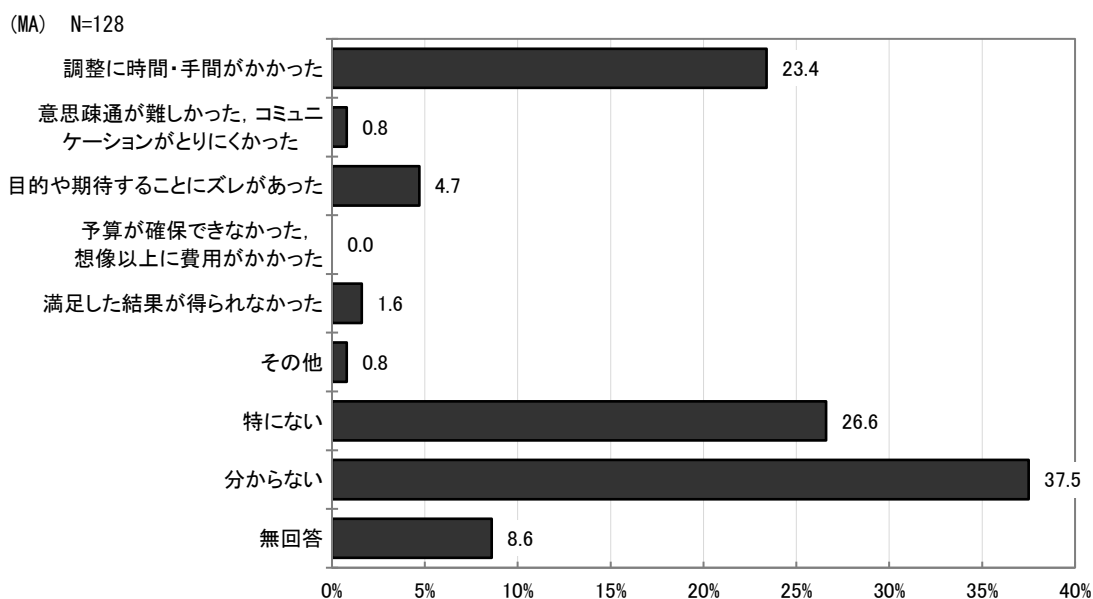
年齢層別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「分からない」の割合が高くなっています。

『40歳以上 60歳未満』は「学びの質が高くなった」「地域住民，企業・NPO等とのつながりが持てた」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
地域住民，企業・NPO等とのつながりが持てた	21.9	14.3	28.3	26.7
学びの質が高くなった	35.2	24.5	45.0	40.0
準備の時間が短縮できた	9.4	10.2	10.0	6.7
その他	0.8	—	—	6.7
特にない	3.9	2.0	5.0	6.7
分からない	40.6	57.1	26.7	40.0
無回答	7.8	2.0	10.0	6.7

問5 地域・NPO・企業等と協力・連携するときに苦労することはありましたか。
(MA)

「分からない」が 37.5%で最も高くなっています。次いで「特にない」が 26.6%、「調整に時間・手間がかかった」が 23.4%で続いています。



(性別×問5) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「調整に時間・手間がかかった」の割合が高くなっています。

『女性』は「分からない」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
調整に時間・手間がかかった	23.4	35.3	16.0
意思疎通が難しかった, コミュニケーションがとりにくかった	0.8	2.0	-
目的や期待することにズレがあった	4.7	3.9	5.3
予算が確保できなかった, 想像以上に費用がかかった	-	-	-
満足した結果が得られなかった	1.6	2.0	1.3
その他	0.8	-	1.3
特にない	26.6	25.5	28.0
分からない	37.5	31.4	42.7
無回答	8.6	5.9	8.0

(年齢層×問5) クロス集計

年齢層別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「分からない」の割合が高くなっています。

『40歳以上 60歳未満』は「特にない」の割合が高くなっています。

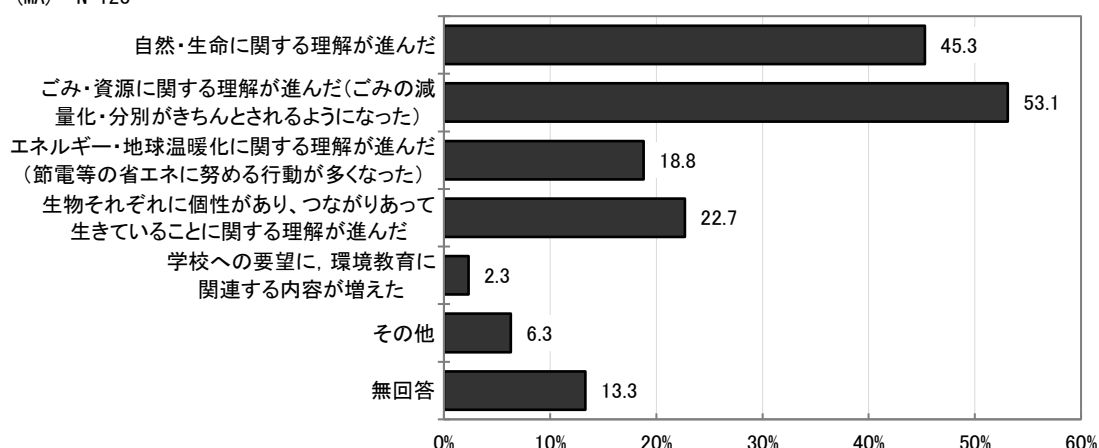
『60歳以上』は「調整に時間・手間がかかった」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
調整に時間・手間がかかった	23.4	12.2	28.3	40.0
意思疎通が難しかった, コミュニケーションがとりにくかった	0.8	2.0	-	-
目的や期待することにズレがあった	4.7	2.0	6.7	6.7
予算が確保できなかった, 想像以上に費用がかかった	-	-	-	-
満足した結果が得られなかった	1.6	-	3.3	-
その他	0.8	-	-	6.7
特にない	26.6	22.4	35.0	13.3
分からない	37.5	57.1	23.3	33.3
無回答	8.6	4.1	10.0	6.7

問6 環境教育の結果、子供たちへの影響・効果はありましたか。(MA)

「ごみ・資源に関する理解が進んだ(ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった)」が53.1%で最も高くなっています。次いで「自然・生命に関する理解が進んだ」が45.3%、「生物それぞれに個性があり、つながりあって生きていることに関する理解が進んだ」が22.7%で続いています。

(MA) N=128



(性別×問6) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「自然・生命に関する理解が進んだ」「生物それぞれに個性があり、つながりあって生きていることに関する理解が進んだ」「エネルギー・地球温暖化に関する理解が進んだ(節電等の省エネに努める行動が多くなった)」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
自然・生命に関する理解が進んだ	45.3	62.7	34.7
ごみ・資源に関する理解が進んだ(ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった)	53.1	49.0	57.3
エネルギー・地球温暖化に関する理解が進んだ(節電等の省エネに努める行動が多くなった)	18.8	29.4	12.0
生物それぞれに個性があり、つながりあって生きていることに関する理解が進んだ	22.7	35.3	14.7
学校への要望に、環境教育に関連する内容が増えた	2.3	3.9	1.3
その他	6.3	3.9	8.0
無回答	13.3	5.9	16.0

(年齢層×問6) クロス集計

年齢層別でみると、『40歳以上 60歳未満』は他の年齢層に比べて、「エネルギー・地球温暖化に関する理解が進んだ(節電等の省エネに努める行動が多くなった)」「生物それぞれに個性があり、つながりあって生きていることに関する理解が進んだ」の割合が高くなっています。

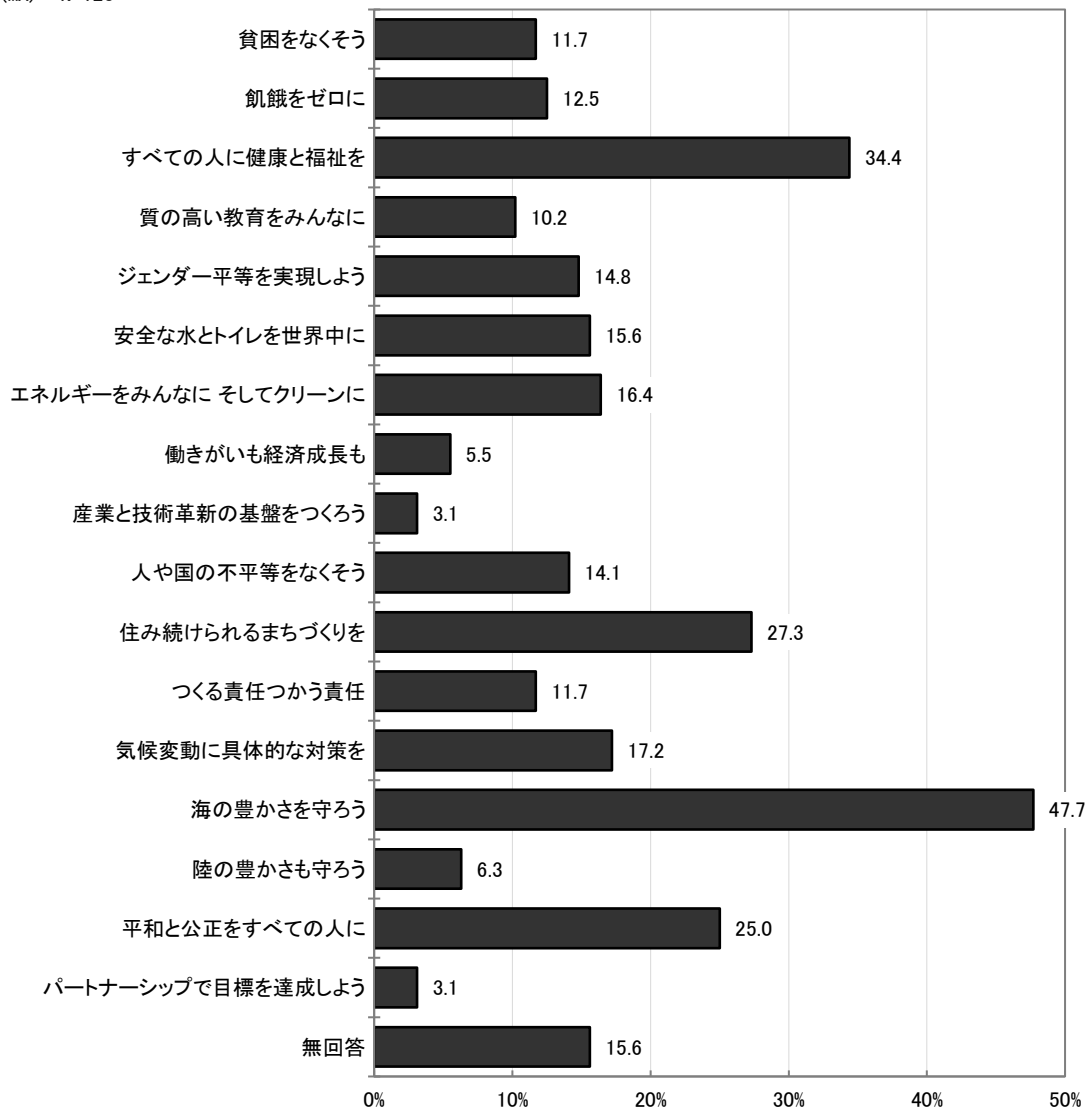
『60歳以上』は「ごみ・資源に関する理解が進んだ(ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった)」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
自然・生命に関する理解が進んだ	45.3	36.7	51.7	53.3
ごみ・資源に関する理解が進んだ(ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった)	53.1	42.9	58.3	73.3
エネルギー・地球温暖化に関する理解が進んだ(節電等の省エネに努める行動が多くなった)	18.8	8.2	28.3	20.0
生物それぞれに個性があり、つながりあって生きていることに関する理解が進んだ	22.7	10.2	33.3	20.0
学校への要望に、環境教育に関連する内容が増えた	2.3	4.1	1.7	-
その他	6.3	10.2	5.0	-
無回答	13.3	16.3	11.7	-

問7 「持続可能な開発目標(SDGs)」には以下のような17の目標が設定されています。これらの目標のうち、どの目標についてあなたご自身は教育を行ったことがありますか。(MA)

「海の豊かさを守ろう」が47.7%で最も高くなっています。次いで「すべての人に健康と福祉を」が34.4%、「住み続けられるまちづくりを」が27.3%で続いています。

(MA) N=128



(性別×問7) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「すべての人に健康と福祉を」「気候変動に具体的な対策を」「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公正をすべての人に」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
貧困をなくそう	11.7	19.6	6.7
飢餓をゼロに	12.5	17.6	9.3
すべての人に健康と福祉を	34.4	49.0	25.3
質の高い教育をみんなに	10.2	19.6	4.0
ジェンダー平等を実現しよう	14.8	23.5	9.3
安全な水とトイレを世界中に	15.6	23.5	10.7
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16.4	27.5	9.3
働きがいも経済成長も	5.5	11.8	1.3
産業と技術革新の基盤をつくろう	3.1	7.8	-
人や国の不平等をなくそう	14.1	21.6	9.3
住み続けられるまちづくりを	27.3	31.4	25.3
つくる責任つかう責任	11.7	11.8	12.0
気候変動に具体的な対策を	17.2	35.3	5.3
海の豊かさを守ろう	47.7	49.0	48.0
陸の豊かさも守ろう	6.3	11.8	2.7
平和と公正をすべての人に	25.0	37.3	17.3
パートナーシップで目標を達成しよう	3.1	3.9	2.7
無回答	15.6	5.9	20.0

(年齢層×問7) クロス集計

年齢層別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「安全な水とトイレを世界中に」の割合が高くなっています。

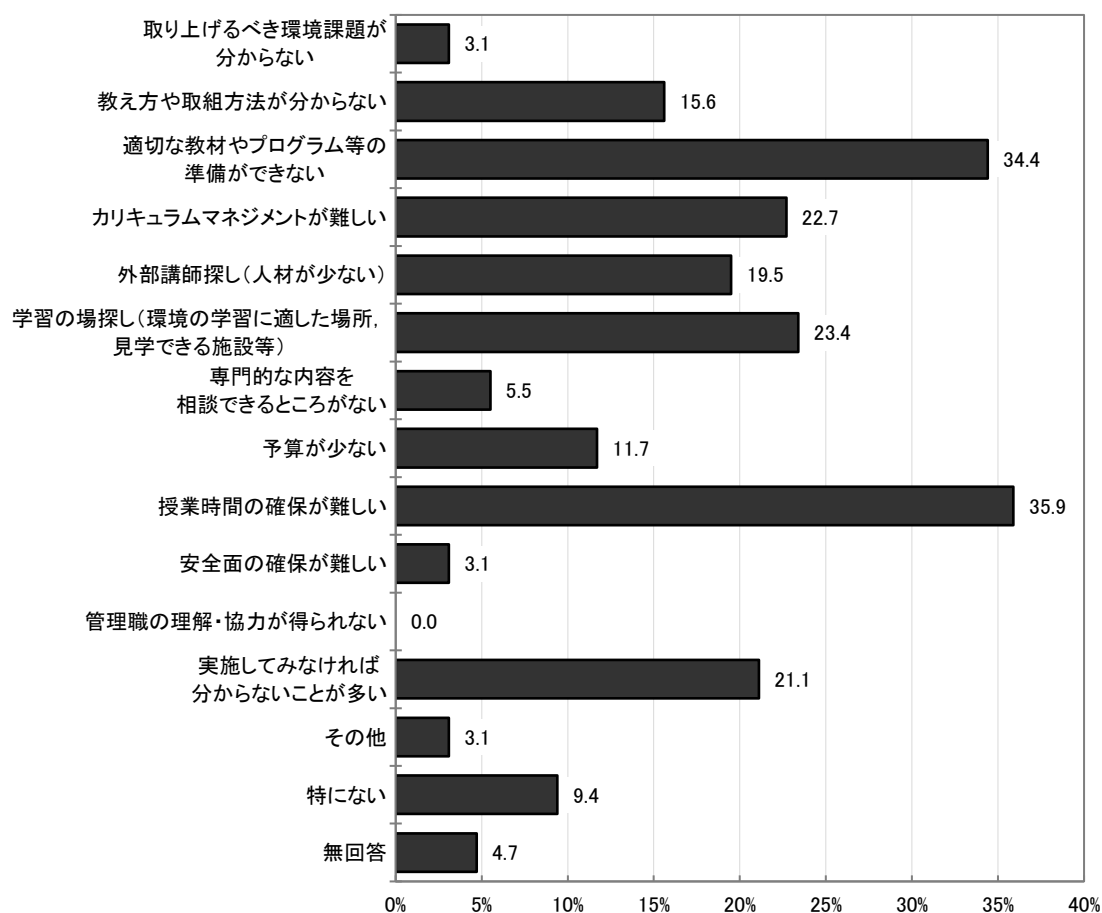
『60歳以上』は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「気候変動に具体的な対策を」「気候変動に具体的な対策を」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
貧困をなくそう	11.7	10.2	15.0	-
飢餓をゼロに	12.5	12.2	11.7	20.0
すべての人に健康と福祉を	34.4	38.8	33.3	26.7
質の高い教育をみんなに	10.2	10.2	11.7	6.7
ジェンダー平等を実現しよう	14.8	16.3	11.7	13.3
安全な水とトイレを世界中に	15.6	24.5	11.7	-
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16.4	8.2	20.0	33.3
働きがいも経済成長も	5.5	2.0	10.0	-
産業と技術革新の基盤をつくろう	3.1	2.0	5.0	-
人や国の不平等をなくそう	14.1	14.3	16.7	6.7
住み続けられるまちづくりを	27.3	26.5	31.7	13.3
つくる責任つかう責任	11.7	14.3	10.0	13.3
気候変動に具体的な対策を	17.2	6.1	20.0	46.7
海の豊かさを守ろう	47.7	36.7	50.0	80.0
陸の豊かさも守ろう	6.3	4.1	10.0	-
平和と公正をすべての人に	25.0	22.4	26.7	20.0
パートナーシップで目標を達成しよう	3.1	6.1	1.7	-
無回答	15.6	22.4	11.7	-

問8 あなたが授業や学校活動での環境教育で、課題に感じていることは何ですか。(MA)

「授業時間の確保が難しい」が35.9%で最も高くなっています。次いで「適切な教材やプログラム等の準備ができない」が34.4%、「学習の場探し(環境の学習に適した場所, 見学できる施設等)」が23.4%で続いています。

(MA) N=128



(性別×問8) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「カリキュラムマネジメントが難しい」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
取り上げるべき環境課題が分からない	3.1	2.0	4.0
教え方や取組方法が分からない	15.6	17.6	13.3
適切な教材やプログラム等の準備ができない	34.4	37.3	33.3
カリキュラムマネジメントが難しい	22.7	29.4	17.3
外部講師探し(人材が少ない)	19.5	17.6	21.3
学習の場探し (環境の学習に適した場所, 見学できる施設等)	23.4	27.5	21.3
専門的な内容を相談できるところがない	5.5	5.9	5.3
予算が少ない	11.7	15.7	8.0
授業時間の確保が難しい	35.9	31.4	40.0
安全面の確保が難しい	3.1	3.9	2.7
管理職の理解・協力が得られない	-	-	-
実施してみなければ分からないことが多い	21.1	25.5	18.7
その他	3.1	2.0	4.0
特にない	9.4	9.8	9.3
無回答	4.7	2.0	6.7

(年齢層×問8) クロス集計

年齢層別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「教え方や取組方法が分からない」の割合が高くなっています。

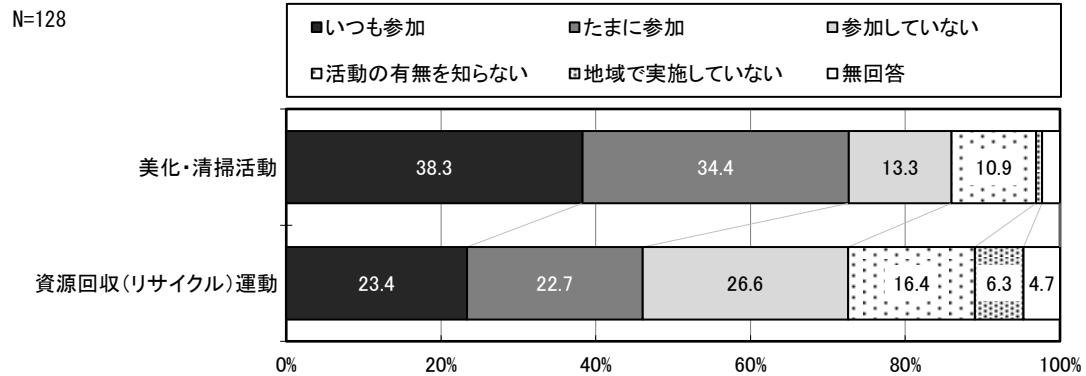
『40歳以上 60歳未満』は「学習の場探し(環境の学習に適した場所, 見学できる施設等)」 「予算が少ない」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
取り上げるべき環境課題が分からない	3.1	8.2	-	-
教え方や取組方法が分からない	15.6	26.5	8.3	6.7
適切な教材やプログラム等の準備ができない	34.4	30.6	35.0	40.0
カリキュラムマネジメントが難しい	22.7	26.5	25.0	-
外部講師探し(人材が少ない)	19.5	16.3	21.7	13.3
学習の場探し (環境の学習に適した場所, 見学できる施設等)	23.4	14.3	30.0	26.7
専門的な内容を相談できる場所がない	5.5	8.2	5.0	-
予算が少ない	11.7	4.1	16.7	13.3
授業時間の確保が難しい	35.9	30.6	40.0	46.7
安全面の確保が難しい	3.1	2.0	5.0	-
管理職の理解・協力が得られない	-	-	-	-
実施してみなければ分からないことが多い	21.1	24.5	18.3	20.0
その他	3.1	4.1	3.3	-
特になし	9.4	10.2	11.7	-
無回答	4.7	4.1	6.7	-

問9 地域での環境活動について、下記の項目にどの程度参加されていますか。
また、どの程度関心がありますか。(各SA)

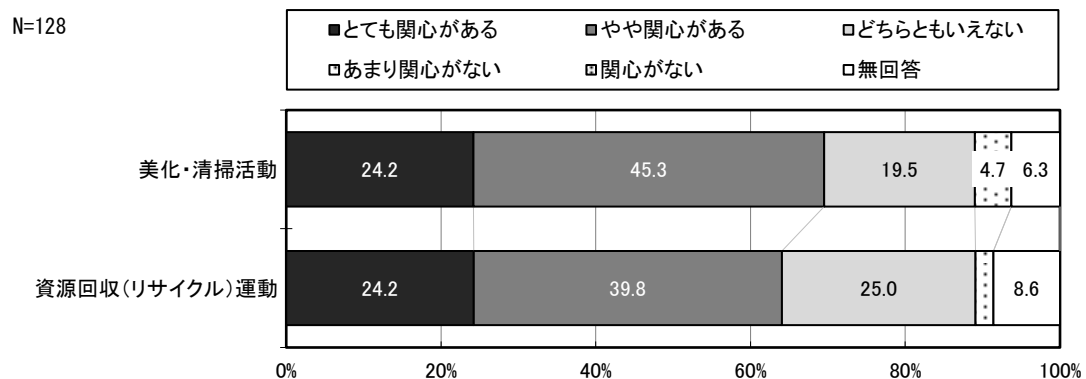
(Ⅰ. 参加度)

参加層(「いつも参加」+「たまに参加」)は『美化・清掃活動』で7割以上、『資源回収(リサイクル)運動』で5割弱となっています。



(Ⅱ. 関心度)

関心層(「とても関心がある」+「やや関心がある」)は2項目とも3分の2程度となっています。

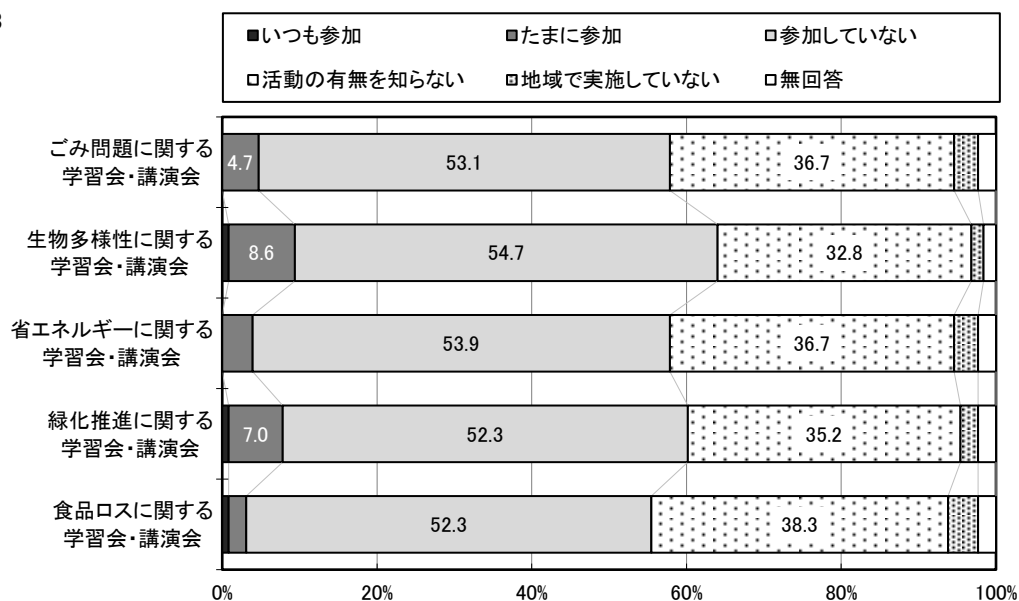


問10 環境についての学習会や講演会などについて、下記の項目にどの程度参加されていますか。また、どの程度関心がありますか。（各SA）

（Ⅰ．参加度）

参加層（「いつも参加」+「たまに参加」）は全項目で1割未満となっています。

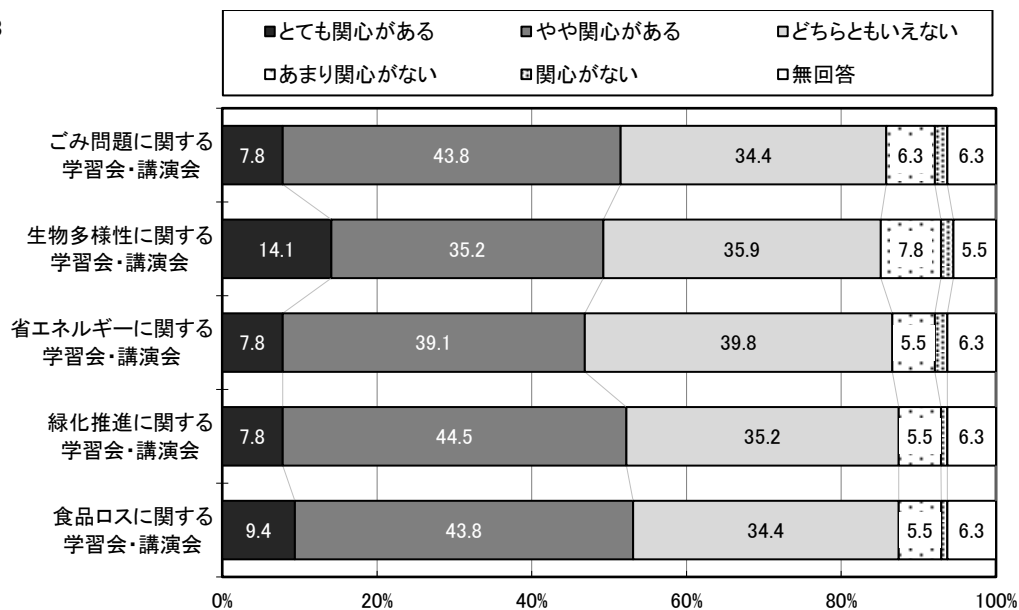
N=128



（Ⅱ．関心度）

関心層（「とても関心がある」+「やや関心がある」）は全項目とも5割程度となっています。

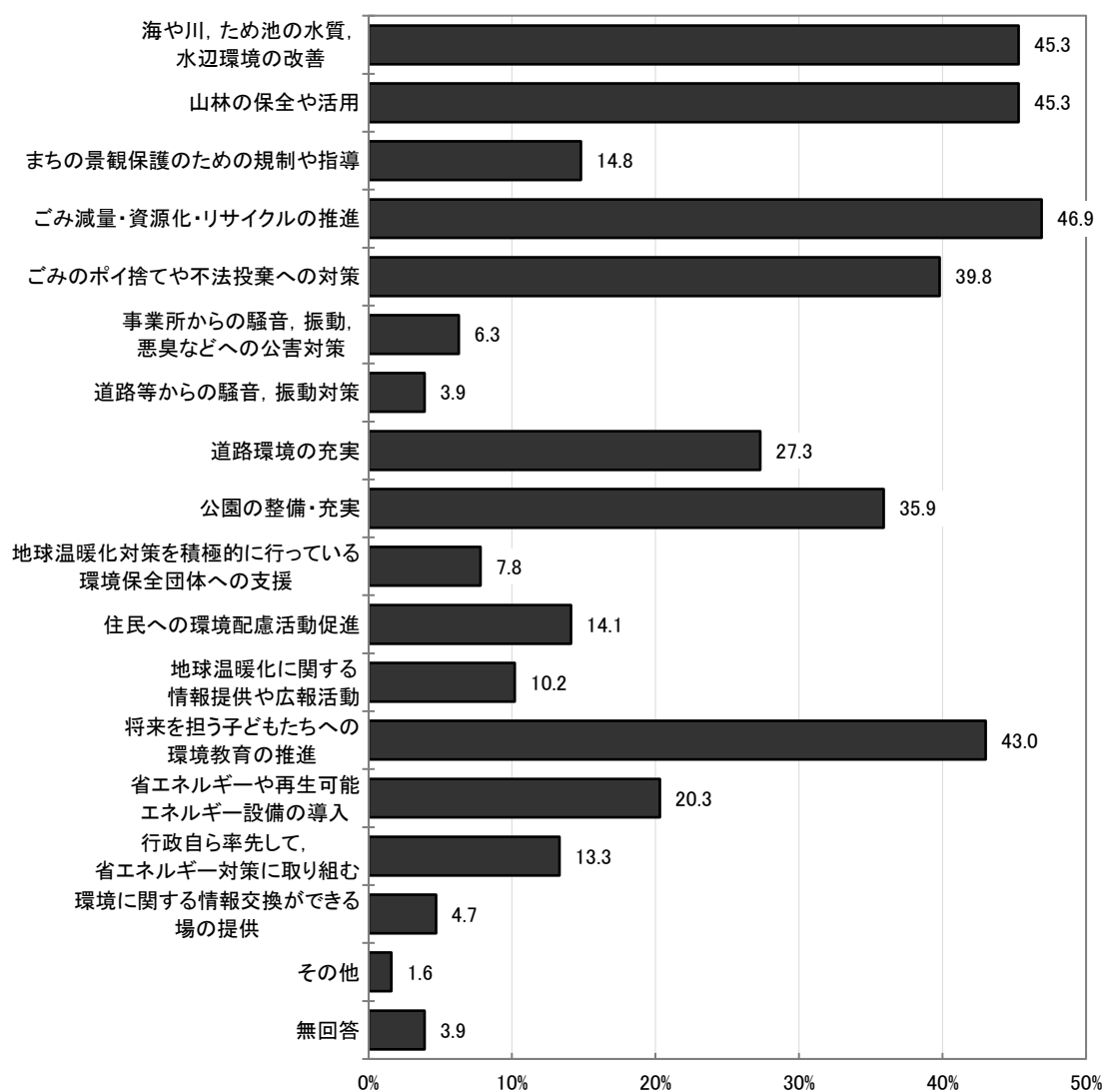
N=128



問11 環境問題について、行政が特に取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。(MA)

「ごみ減量・資源化・リサイクルの推進」が 46.9%で最も高くなっています。次いで「海や川、ため池の水質、水辺環境の改善」「山林の保全や活用」が 45.3%、「将来を担う子どもたちへの環境教育の推進」が 43.0%で続いています。

(MA) N=128



(性別×問11) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「海や川，ため池の水質，水辺環境の改善」「山林の保全や活用」「行政自ら率先して，省エネルギー対策に取り組む」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
海や川，ため池の水質，水辺環境の改善	45.3	58.8	37.3
山林の保全や活用	45.3	58.8	37.3
まちの景観保護のための規制や指導	14.8	15.7	13.3
ごみ減量・資源化・リサイクルの推進	46.9	45.1	48.0
ごみのポイ捨てや不法投棄への対策	39.8	43.1	36.0
事業所からの騒音，振動，悪臭などへの 公害対策	6.3	7.8	5.3
道路等からの騒音，振動対策	3.9	5.9	2.7
道路環境の充実	27.3	31.4	22.7
公園の整備・充実	35.9	39.2	33.3
地球温暖化対策を積極的に行っている 環境保全団体への支援	7.8	9.8	6.7
住民への環境配慮活動促進	14.1	17.6	12.0
地球温暖化に関する情報提供や広報活動	10.2	7.8	10.7
将来を担う子どもたちへの環境教育の推進	43.0	41.2	45.3
省エネルギーや再生可能エネルギー設備の導入	20.3	25.5	17.3
行政自ら率先して，省エネルギー対策に取り組む	13.3	21.6	8.0
環境に関する情報交換ができる場の提供	4.7	3.9	5.3
その他	1.6	-	2.7
無回答	3.9	3.9	4.0

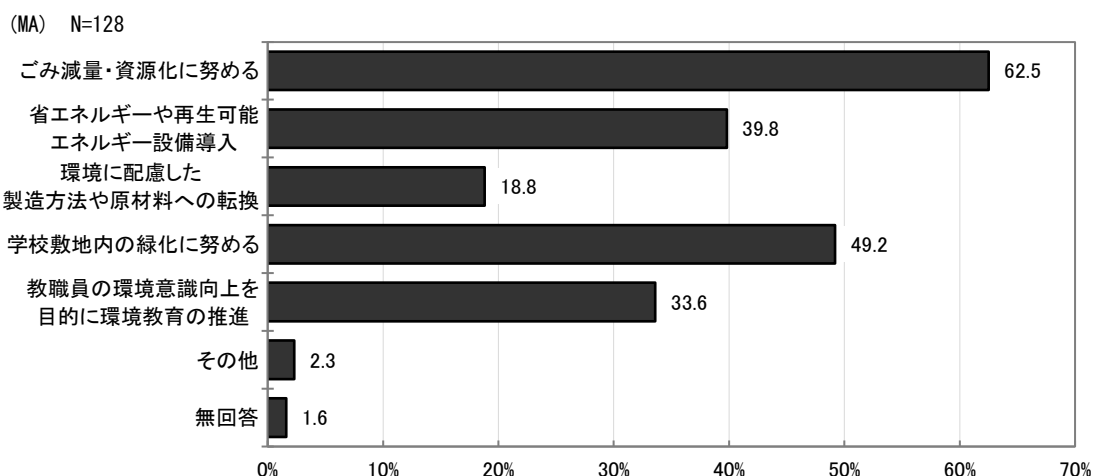
(年齢層×問11) クロス集計

年齢層別でみると、『60歳以上』は他の年齢層に比べて、「山林の保全や活用」「ごみ減量・資源化・リサイクルの推進」「公園の整備・充実」の割合が高くなっています。

	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
海や川, ため池の水質, 水辺環境の改善	45.3	44.9	46.7	53.3
山林の保全や活用	45.3	28.6	55.0	66.7
まちの景観保護のための規制や指導	14.8	12.2	18.3	6.7
ごみ減量・資源化・リサイクルの推進	46.9	42.9	43.3	73.3
ごみのポイ捨てや不法投棄への対策	39.8	40.8	40.0	26.7
事業所からの騒音, 振動, 悪臭などへの 公害対策	6.3	6.1	6.7	6.7
道路等からの騒音, 振動対策	3.9	4.1	3.3	6.7
道路環境の充実	27.3	26.5	26.7	26.7
公園の整備・充実	35.9	32.7	36.7	46.7
地球温暖化対策を積極的に行っている 環境保全団体への支援	7.8	6.1	8.3	13.3
住民への環境配慮活動促進	14.1	8.2	20.0	13.3
地球温暖化に関する情報提供や広報活動	10.2	10.2	10.0	6.7
将来を担う子どもたちへの環境教育の推進	43.0	46.9	43.3	33.3
省エネルギーや再生可能エネルギー設備の導入	20.3	14.3	25.0	20.0
行政自ら率先して, 省エネルギー対策に取り組む	13.3	12.2	15.0	13.3
環境に関する情報交換ができる場の提供	4.7	4.1	6.7	-
その他	1.6	2.0	1.7	-
無回答	3.9	6.1	3.3	-

問12 環境問題について、学校が取り組むべきだと思う施策を次の中から選んでください。(MA)

「ごみ減量・資源化に努める」が62.5%で最も高くなっています。次いで「学校敷地内の緑化に努める」が49.2%、「省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入」が39.8%が続いています。



(性別×問12) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「教職員の環境意識向上を目的に環境教育の推進」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=128	男性 N=51	女性 N=75
ごみ減量・資源化に努める	62.5	60.8	64.0
省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入	39.8	45.1	37.3
環境に配慮した製造方法や原材料への転換	18.8	21.6	17.3
学校敷地内の緑化に努める	49.2	49.0	49.3
教職員の環境意識向上を目的に環境教育の推進	33.6	47.1	24.0
その他	2.3	5.9	-
無回答	1.6	-	1.3

(年齢層×問12) クロス集計

年齢層別でみると、『40歳未満』は他の年齢層に比べて、「環境に配慮した製造方法や原材料への転換」の割合が高くなっています。

『40歳以上 60歳未満』は「教職員の環境意識向上を目的に環境教育の推進」の割合が高くなっています。

『60歳以上』は「ごみ減量・資源化に努める」「学校敷地内の緑化に努める」の割合が高くなっています。

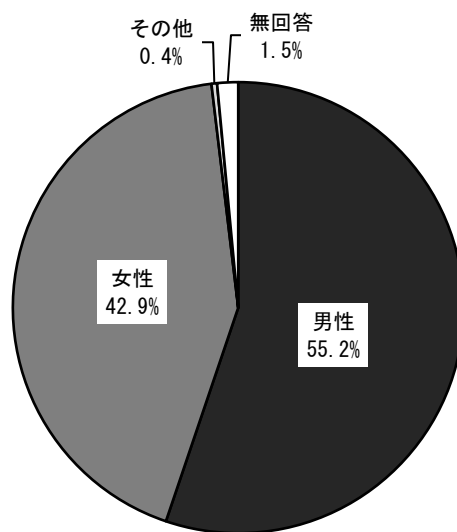
	年齢層			
	全体 N=128	40歳未満 N=49	40歳以上 60歳未満	60歳以上 N=15
ごみ減量・資源化に努める	62.5	67.3	53.3	80.0
省エネルギーや再生可能エネルギー設備導入	39.8	42.9	40.0	26.7
環境に配慮した製造方法や原材料への転換	18.8	26.5	16.7	-
学校敷地内の緑化に努める	49.2	53.1	41.7	66.7
教職員の環境意識向上を目的に 環境教育の推進	33.6	26.5	38.3	33.3
その他	2.3	2.0	1.7	6.7
無回答	1.6	-	1.7	-

【小中学生】

問 1 (1) 回答者の性別 (SA)

「男性」が 55.2%, 「女性」が 42.9%となっています。

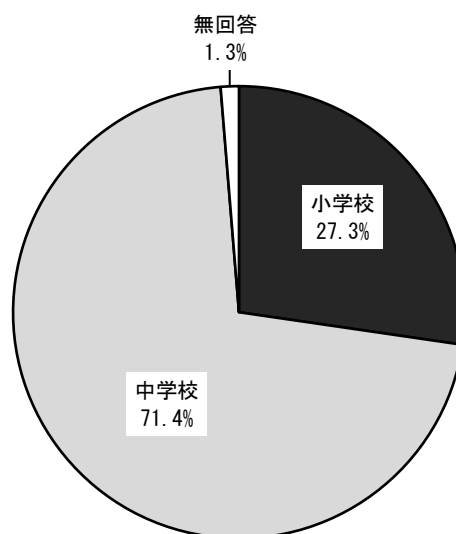
(SA) N=462



問 1 (2) 回答者の通っている学校 (SA)

「中学校」が 71.4%, 「小学校」が 27.3%となっています。

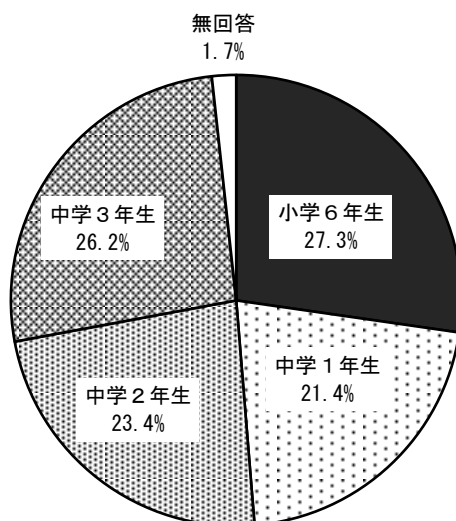
(SA) N=462



問 1 (2) 回答者の通っている学年 (SA)

「小学6年生」が 27.3% で最も高く、次いで「中学3年生」が 26.2%、「中学2年生」が 23.4%、「中学1年生」が 21.4% となっています。

(SA) N=462

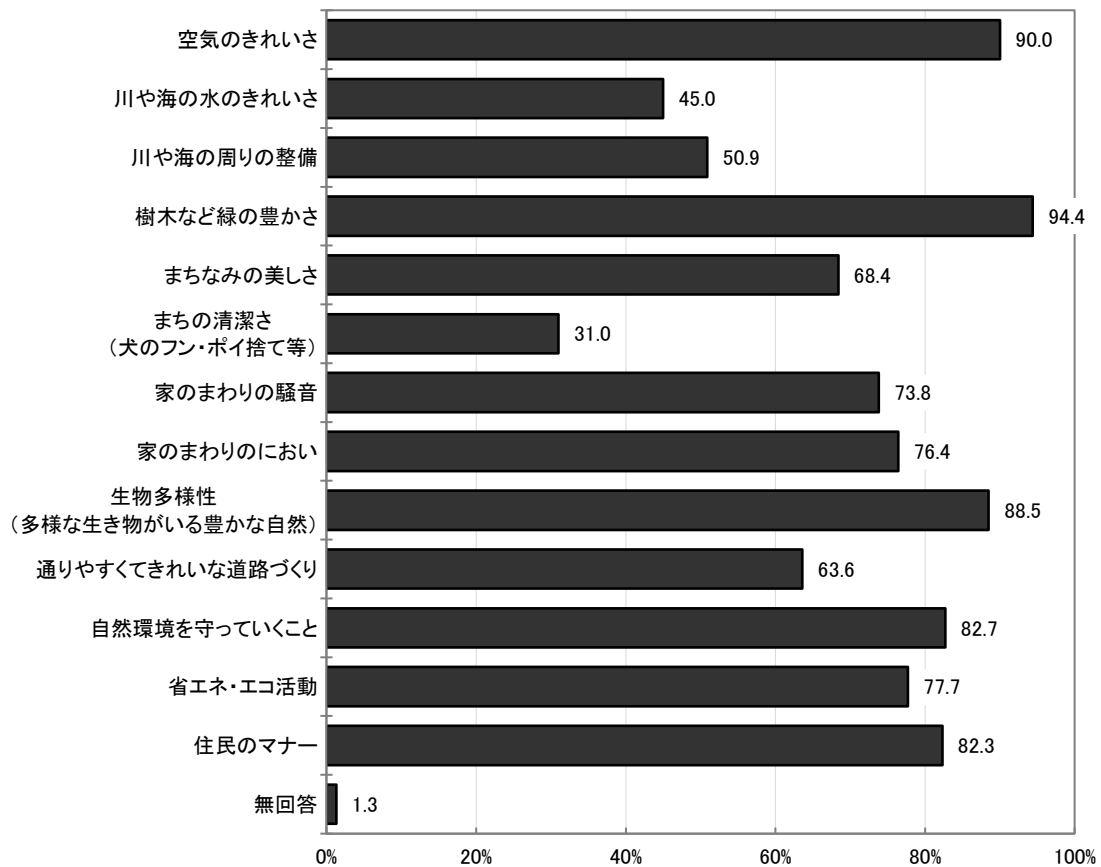


問2 住んでいるところや学校の周りの環境でいいと思うことに○をつけてください。また、気になることに○をつけてください。(各MA)

(I. いいと思うこと)

「樹木など緑の豊かさ」が94.4%で最も高くなっています。次いで「空気のきれいさ」が90.0%、「生物多様性(多様な生き物がある豊かな自然)」が88.5%で続いています。

(MA) N=462



(学年別×問2 (I. いいと思うこと)) クロス集計

学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「川や海の周りの整備」「まちのとくみ
通りやすくてきれいな道路づくり」の割合が高くなっています。

『中学1年生』は「まちの清潔さ(犬のフン・ポイ捨て等)」「家のまわりの騒音」の割合が高くなっ
ています。

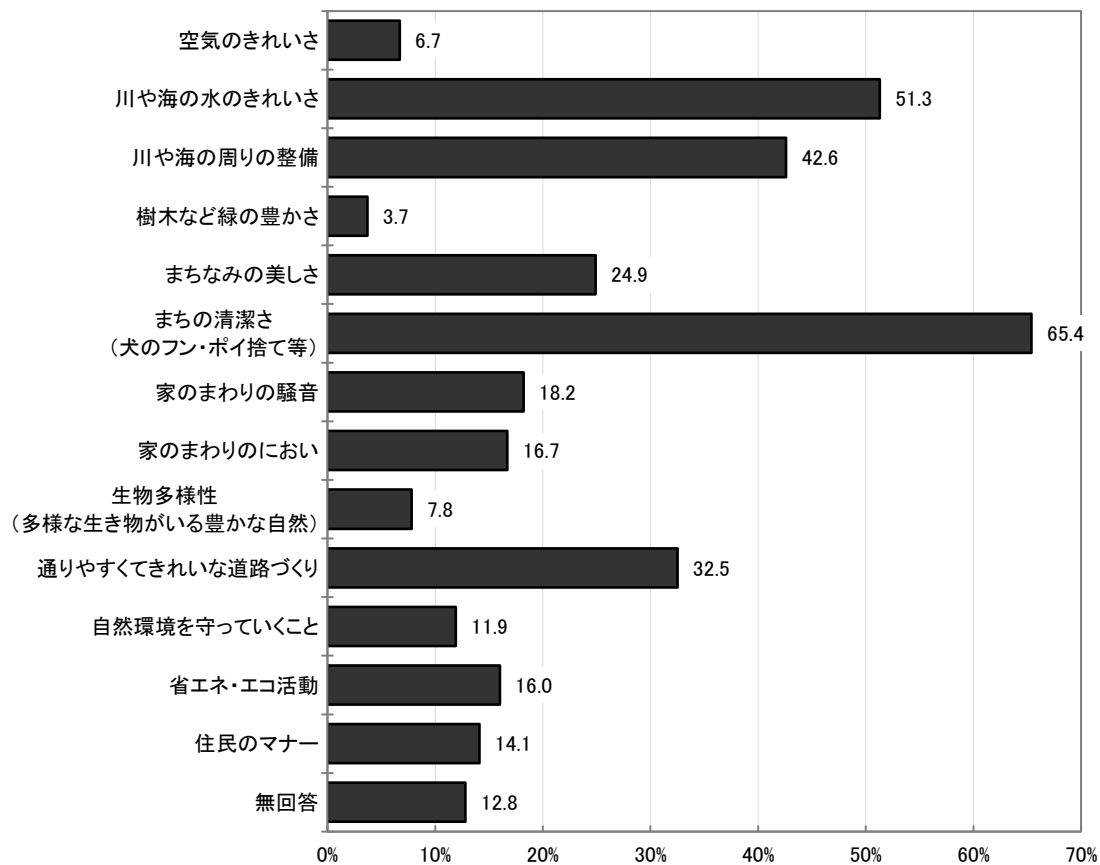
『中学2年生』は「川や海の水のきれいさ」「まちの清潔さ(犬のフン・ポイ捨て等)」「住民のマ
ナー」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=462	小学6年 生 N=126	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=108	中学3年 生 N=121
空気のきれいさ	90.0	88.1	91.9	94.4	88.4
川や海の水のきれいさ	45.0	46.8	30.3	52.8	48.8
川や海の周りの整備	50.9	57.9	43.4	52.8	47.9
樹木など緑の豊かさ	94.4	92.9	97.0	95.4	94.2
まちなみの美しさ	68.4	72.2	67.7	71.3	63.6
まちの清潔さ (犬のフン・ポイ捨て等)	31.0	31.0	22.2	38.9	31.4
家のまわりの騒音	73.8	66.7	78.8	78.7	75.2
家のまわりのにおい	76.4	67.5	79.8	80.6	81.0
生物多様性 (多様な生き物がある豊かな自然)	88.5	88.1	88.9	92.6	86.8
まちのとくみ 通りやすくてきれいな道路づくり	63.6	69.8	58.6	66.7	59.5
自然環境を守っていくこと	82.7	77.0	82.8	84.3	87.6
省エネ・エコ活動	77.7	73.0	75.8	80.6	81.8
住民のマナー	82.3	76.2	84.8	88.9	81.8
無回答	1.3	-	-	-	3.3

(Ⅱ. 気になること)

「まちの清潔さ(犬のフン・ポイ捨て等)」が65.4%で最も高くなっています。次いで「川や海の水のきれいさ」が51.3%、「川や海の周りの整備」が42.6%が続いています。

(MA) N=462



(性別×問2 (Ⅱ. 気になること)) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「まちなみの美しさ」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=462	男性 N=255	女性 N=198
空気のきれいさ	6.7	6.3	6.1
川や海の水のきれいさ	51.3	50.2	52.5
川や海の周りの整備	42.6	39.2	46.5
樹木など緑の豊かさ	3.7	2.7	4.0
まちなみの美しさ	24.9	19.6	30.8
まちの清潔さ (犬のフン・ポイ捨て等)	65.4	62.0	70.2
家のまわりの騒音	18.2	17.3	18.2
家のまわりのにおい	16.7	16.9	14.6
生物多様性 (多様な生き物がある豊かな自然)	7.8	7.5	7.6
まちのとりくみ 通りやすくてきれいな道路づくり	32.5	31.0	33.8
自然環境を守っていくこと	11.9	11.4	12.1
省エネ・エコ活動	16.0	14.9	16.7
住民のマナー	14.1	13.3	14.1
無回答	12.8	14.5	10.1

(学年別×問2 (Ⅱ. 気になること)) クロス集計

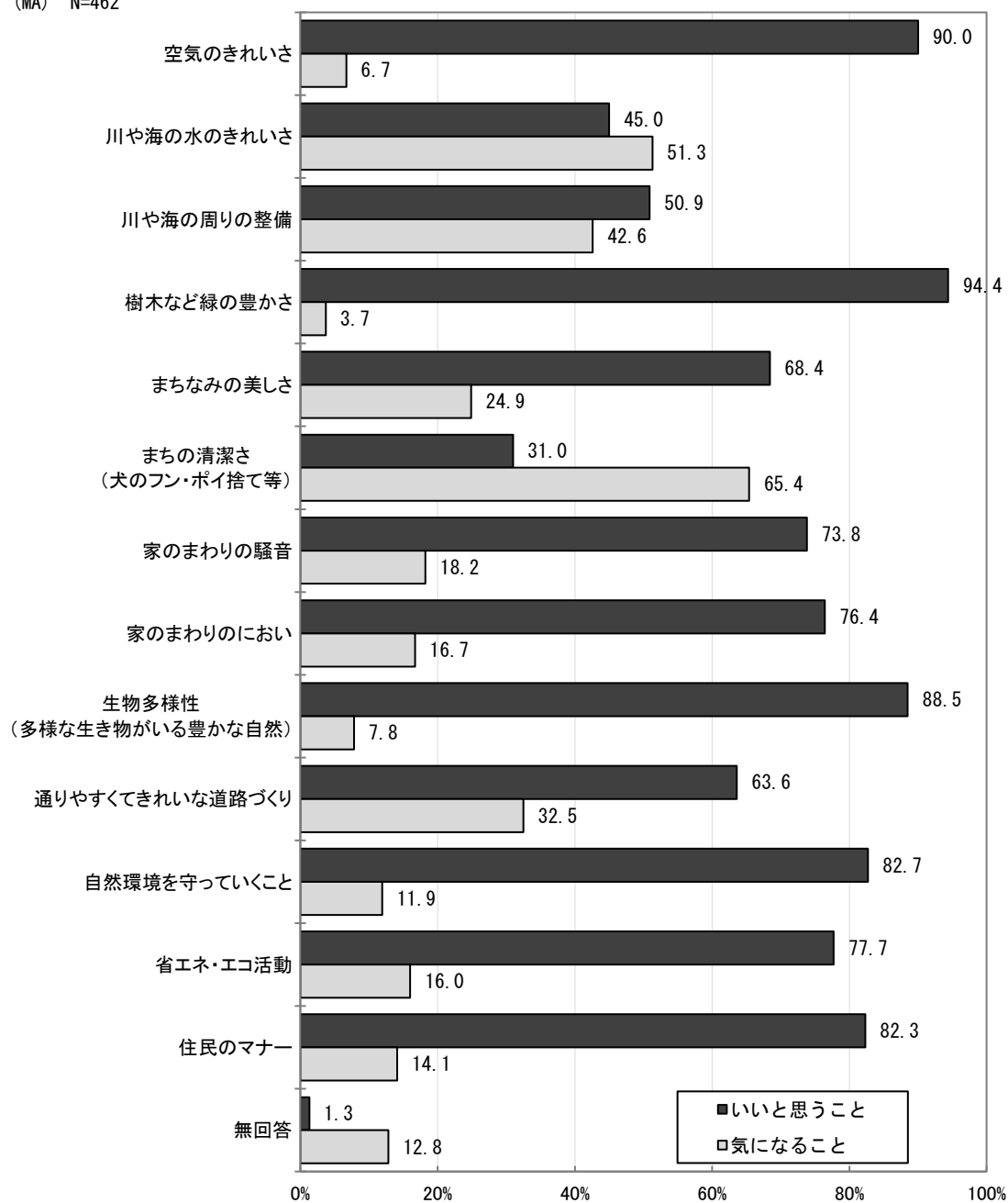
学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「家のまわりの騒音」「家のまわりにおいて」の割合が高くなっています。

『中学1年生』は「川や海の水のきれいさ」「まちの清潔さ(犬のフン・ポイ捨て等)」「川や海の周りの整備」「まちのと里克み 通りやすくてきれいな道路づくり」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=462	小学6年 生 N=126	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=108	中学3年 生 N=121
空気のきれいさ	6.7	9.5	6.1	2.8	7.4
川や海の水のきれいさ	51.3	49.2	67.7	43.5	47.9
川や海の周りの整備	42.6	31.0	52.5	41.7	49.6
樹木など緑の豊かさ	3.7	6.3	2.0	1.9	4.1
まちなみの美しさ	24.9	19.8	28.3	24.1	28.1
まちの清潔さ (犬のフン・ポイ捨て等)	65.4	65.9	75.8	57.4	64.5
家のまわりの騒音	18.2	23.8	16.2	14.8	16.5
家のまわりにおいて	16.7	23.8	16.2	13.9	12.4
生物多様性 (多様な生き物がいる豊かな自然)	7.8	7.9	9.1	6.5	8.3
まちのと里克み 通りやすくてきれいな道路づくり	32.5	22.2	40.4	31.5	38.8
自然環境を守っていくこと	11.9	15.9	12.1	11.1	9.1
省エネ・エコ活動	16.0	19.0	18.2	13.9	14.0
住民のマナー	14.1	19.8	12.1	10.2	14.0
無回答	12.8	14.3	7.1	13.0	14.9

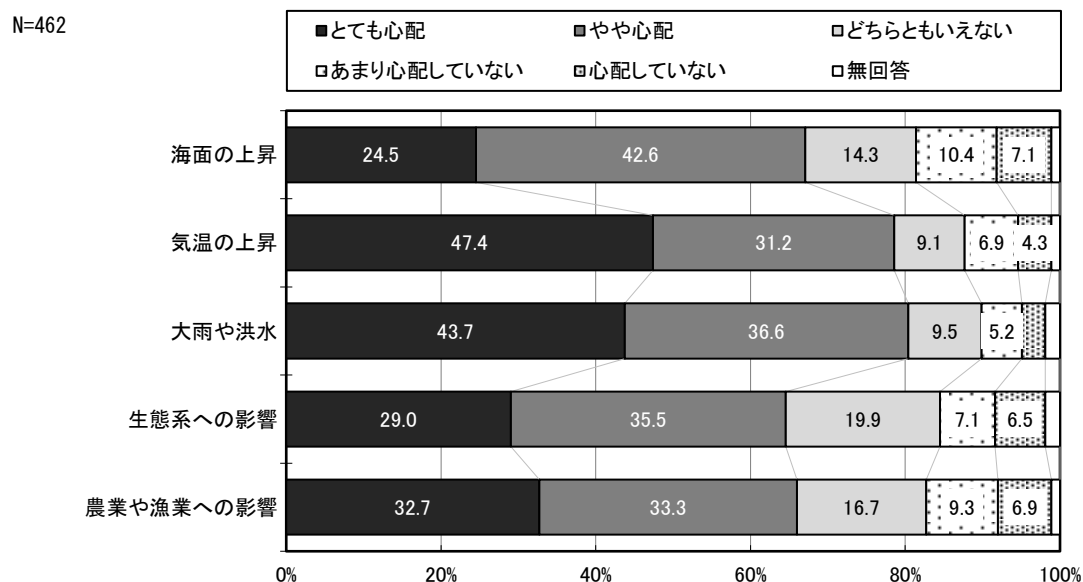
(Ⅰ. いいと思うこと)と(Ⅱ. 気になること)の比較

(MA) N=462



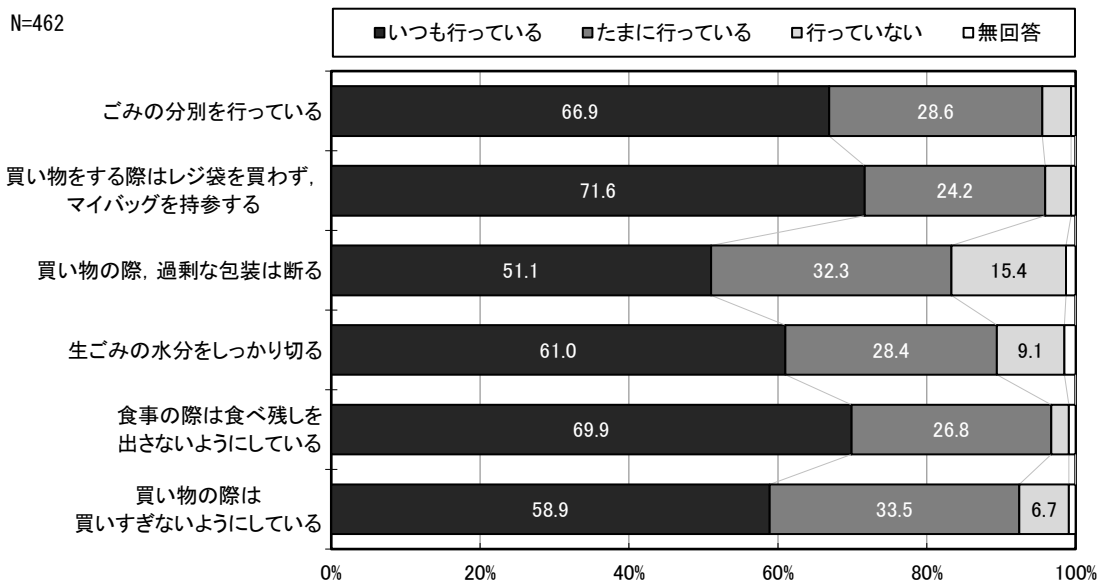
問3 地球温暖化が進むことによって及ぼす影響についてあなたはどの程度、心配していますか。(各SA)

心配層(「とても心配」+「やや心配」)は『大雨や洪水』が最も高く8割程度、次いで『気温の上昇』が8割弱となっています。



問4 ごみ減量・資源化は大切な取組ですが、あなたやあなたの家族は日頃、どの程度実施していますか。(各SA)

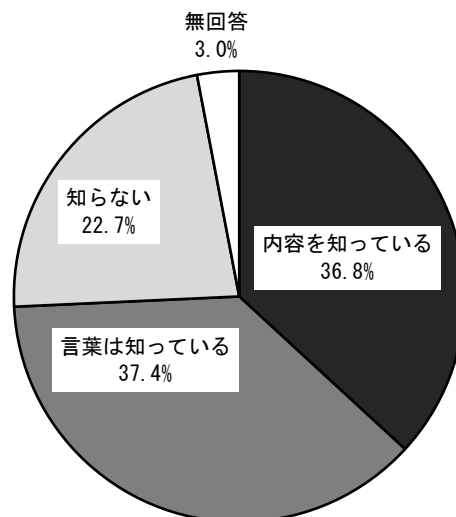
実施している層(「いつも行っている」+「たまに行っている」)は全項目で8割以上となっており、『食事の際は食べ残しを出さないようにしている』『買い物をする際はレジ袋を買わず、マイバッグを持参する』『ごみの分別を行っている』では95%以上となっています。



問5 2015年に国連でSDGs（持続可能な開発目標）が決められ、地球の将来への問題を解決するため、17の目標が示されました。あなたは、SDGsについて知っていますか。(SA)

「言葉は知っている」が 37.4%で最も高く、次いで「内容を知っている」が 36.8%となっています。

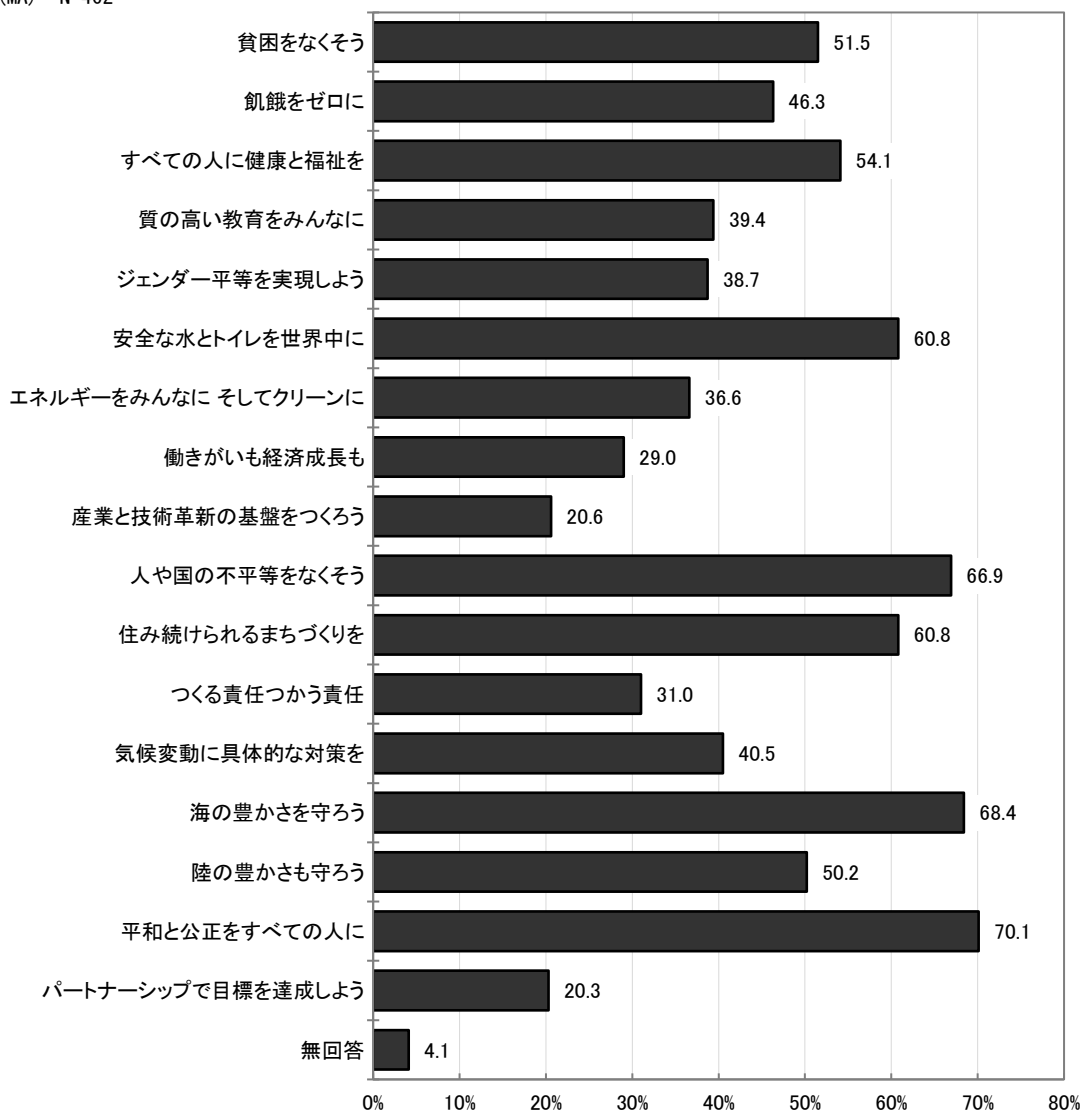
(SA) N=462



問6 SDGsの17の目標のうち、あなたはどの目標に関心がありますか。(MA)

「平和と公正をすべての人に」が70.1%で最も高くなっています。次いで「海の豊かさを守ろう」が68.4%、「人や国の不平等をなくそう」が66.9%が続いています。

(MA) N=462



(性別×問6) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正をすべての人に」の割合が高くなっています。『男性』は「産業と技術革新の基盤をつくろう」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=462	男性 N=255	女性 N=198
貧困をなくそう	51.5	49.8	54.5
飢餓をゼロに	46.3	45.5	48.5
すべての人に健康と福祉を	54.1	50.6	59.6
質の高い教育をみんなに	39.4	38.0	41.4
ジェンダー平等を実現しよう	38.7	28.6	51.5
安全な水とトイレを世界中に	60.8	57.3	66.2
エネルギーをみんなに そしてクリーンに	36.6	38.4	34.8
働きがいも経済成長も	29.0	30.2	27.8
産業と技術革新の基盤をつくろう	20.6	25.5	13.6
人や国の不平等をなくそう	66.9	60.4	76.3
住み続けられるまちづくりを	60.8	56.9	67.2
つくる責任つかう責任	31.0	30.2	32.8
気候変動に具体的な対策を	40.5	42.4	38.9
海の豊かさを守ろう	68.4	67.8	70.2
陸の豊かさも守ろう	50.2	50.6	50.5
平和と公正をすべての人に	70.1	65.9	76.8
パートナーシップで 目標を達成しよう	20.3	17.6	23.2

(学年別×問6) クロス集計

学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「海の豊かさを守ろう」「住み続けられるまちづくりを」の割合が高くなっています。

『中学1年生』は「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「パートナーシップで目標を達成しよう」の割合が高くなっています。

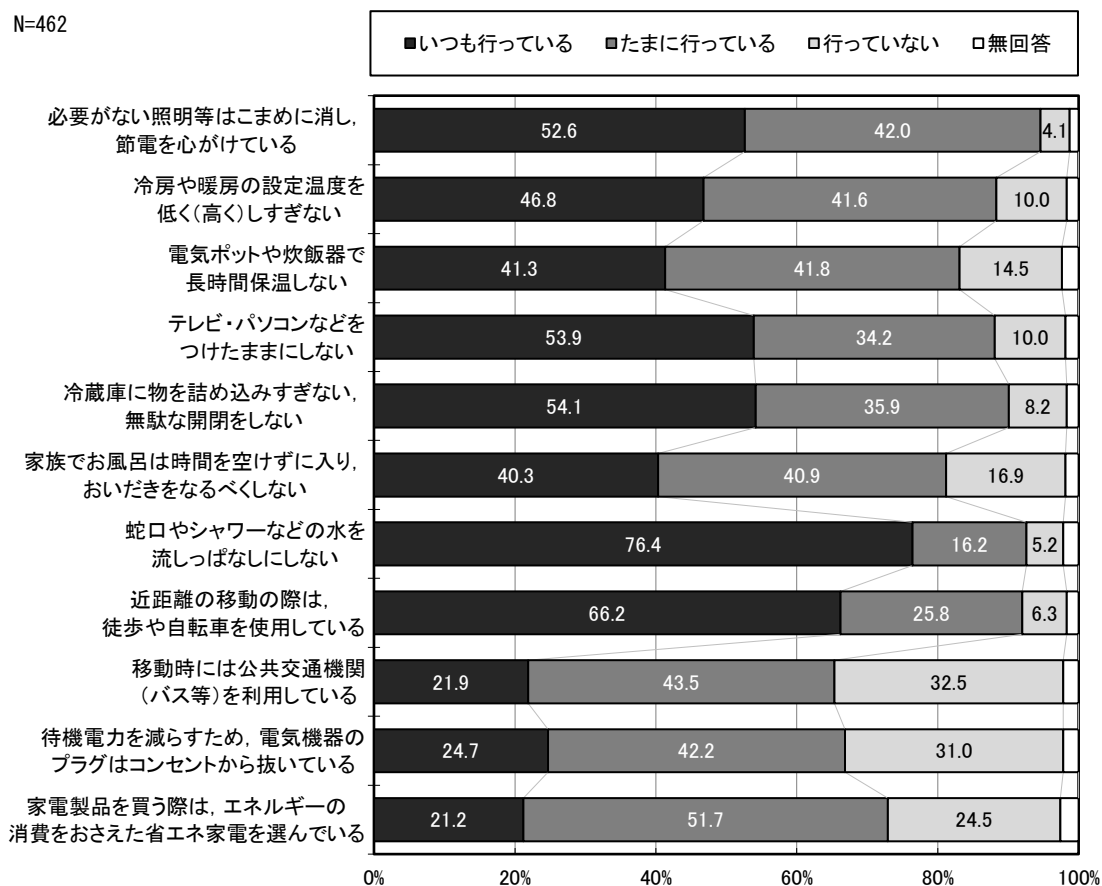
『中学2年生』は「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」「産業と技術革新の基盤をつくろう」「つくる責任つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」「陸の豊かさを守ろう」「平和と公正をすべての人に」の割合が高くなっています。

『中学3年生』は「気候変動に具体的な対策を」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=462	小学6年 生 N=126	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=108	中学3年 生 N=121
貧困をなくそう	51.5	43.7	45.5	67.6	52.1
飢餓をゼロに	46.3	49.2	44.4	50.9	43.8
すべての人に健康と福祉を	54.1	56.3	59.6	59.3	43.8
質の高い教育をみんなに	39.4	41.3	46.5	37.0	33.9
ジェンダー平等を実現しよう	38.7	32.5	38.4	45.4	40.5
安全な水とトイレを世界中に	60.8	60.3	59.6	70.4	56.2
エネルギーをみんなに そしてクリーンに	36.6	38.1	38.4	31.5	38.8
働きがいも経済成長も	29.0	27.8	25.3	33.3	30.6
産業と技術革新の基盤をつくろう	20.6	18.3	17.2	28.7	18.2
人や国の不平等をなくそう	66.9	68.3	68.7	70.4	62.8
住み続けられるまちづくりを	60.8	68.3	64.6	61.1	52.1
つくる責任つかう責任	31.0	31.7	32.3	36.1	25.6
気候変動に具体的な対策を	40.5	34.9	37.4	46.3	46.3
海の豊かさを守ろう	68.4	78.6	72.7	73.1	52.1
陸の豊かさを守ろう	50.2	57.9	50.5	58.3	37.2
平和と公正をすべての人に	70.1	71.4	70.7	75.9	65.3
パートナーシップで 目標を達成しよう	20.3	12.7	29.3	23.1	19.0
無回答	4.1	4.0	4.0	0.9	5.8

問7 省エネルギー活動は地球温暖化を防止するうえで大切な取組ですが、あなたの家では日頃、どの程度実施していますか。(各SA)

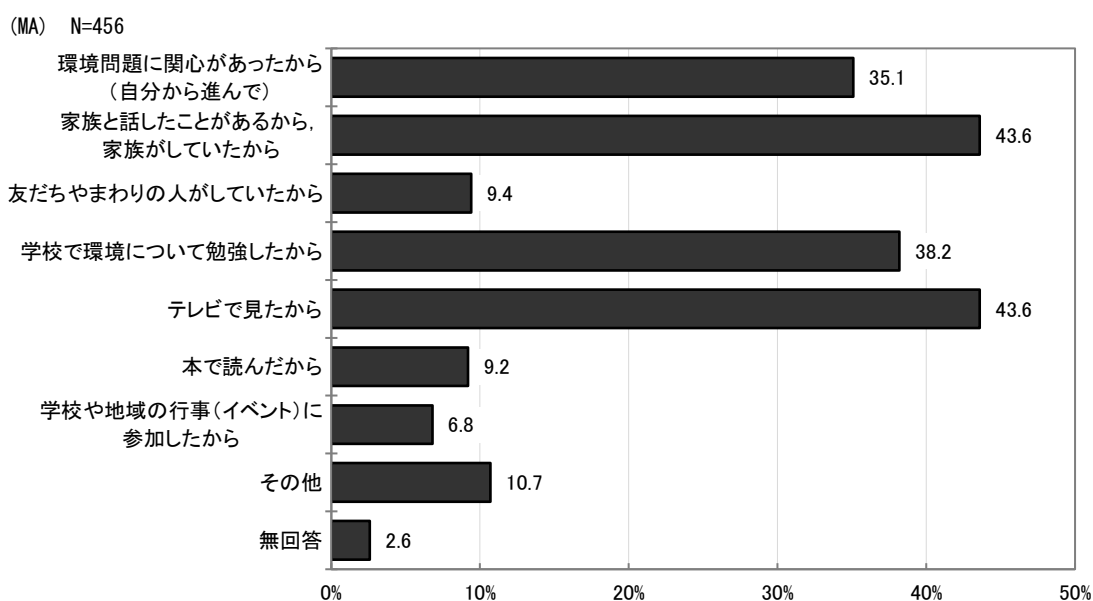
実施している層(「いつも行っている」+「たまに行っている」)は全項目で6割以上となっており、『必要がない照明等はこまめに消し、節電を心がけている』『蛇口やシャワーなどの水を流しっぱなしにしない』『近距離の移動の際は、徒歩や自転車を使用している』では9割以上となっています。



問7で1つでも「いつも行っている」「たまに行っている」と回答した人にお聞きします。

問8 あなたがそのようなことをはじめたきっかけは何ですか。(MA)

「家族と話したことがあるから、家族がしていたから」「テレビで見たから」が43.6%で最も高くなっています。次いで「学校で環境について勉強したから」が38.2%、「環境問題に関心があったから(自分から進んで)」が35.1%が続いています。



(性別×問8) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「家族と話したことがあるから、家族がしていたから」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=456	男性 N=252	女性 N=197
環境問題に関心があったから (自分から進んで)	35.1	37.7	31.5
家族と話したことがあるから、 家族がしていたから	43.6	35.7	54.8
友だちやまわりの人がしていたから	9.4	9.5	9.6
学校で環境について勉強したから	38.2	37.7	40.1
テレビで見たから	43.6	46.0	40.6
本で読んだから	9.2	10.3	7.1
学校や地域の行事(イベント)に 参加したから	6.8	8.7	4.6
その他	10.7	12.7	8.1
無回答	2.6	3.6	1.0

(学年別×問8) クロス集計

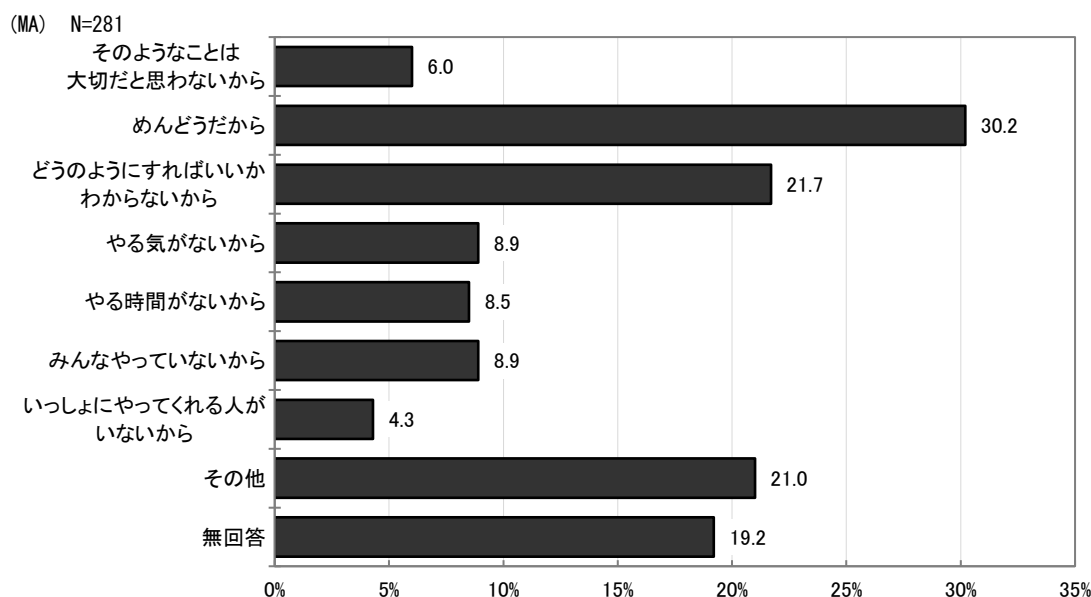
学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「家族と話したことがあるから、家族がしていたから」「テレビで見たから」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=456	小学6年 生 N=125	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=106	中学3年 生 N=119
環境問題に関心があったから (自分から進んで)	35.1	37.6	35.4	34.0	33.6
家族と話したことがあるから、 家族がしていたから	43.6	50.4	41.4	42.5	38.7
友だちやまわりの方がしていたから	9.4	8.8	12.1	8.5	9.2
学校で環境について勉強したから	38.2	41.6	35.4	38.7	38.7
テレビで見たから	43.6	50.4	40.4	47.2	35.3
本で読んだから	9.2	8.8	7.1	8.5	10.9
学校や地域の行事(イベント)に 参加したから	6.8	8.0	10.1	7.5	2.5
その他	10.7	8.0	11.1	11.3	13.4
無回答	2.6	1.6	6.1	-	3.4

問7で1つでも「行ってない」と回答した人にお聞きします。

問9 その理由は何ですか。(MA)

「めんどうだから」が30.2%で最も高くなっています。次いで「どのようにすればいいかわからないから」が21.7%が続いています。



(学年別×問9) クロス集計

学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「みんなやっていないから」の割合が高くなっています。

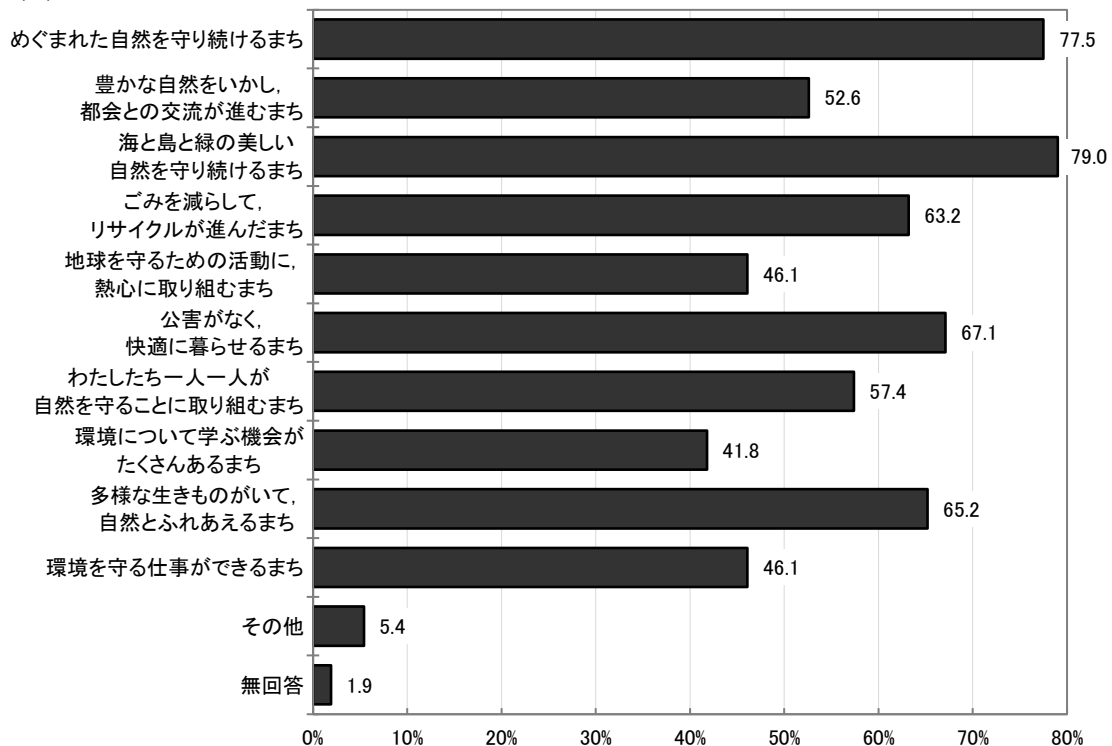
『中学1年生』は「どのようにすればいいかわからないから」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=281	小学6年 生 N=76	中学1年 生 N=61	中学2年 生 N=62	中学3年 生 N=78
そのようなことは大切だと思わないから	6.0	1.3	9.8	4.8	9.0
めんどうだから	30.2	27.6	34.4	30.6	29.5
どのようにすればいいかわからないから	21.7	23.7	27.9	19.4	16.7
やる気がないから	8.9	9.2	11.5	8.1	7.7
やる時間がないから	8.5	7.9	8.2	6.5	9.0
みんなやっていないから	8.9	14.5	13.1	1.6	6.4
いっしょにやってくれる人がいないから	4.3	6.6	1.6	3.2	5.1
その他	21.0	22.4	18.0	17.7	24.4
無回答	19.2	18.4	9.8	24.2	24.4

問10 将来、江田島市がどのようなまちになってほしいですか。また、どのようなことに取り組んでほしいですか。(MA)

「海と島と緑の美しい自然を守り続けるまち」が 79.0%で最も高くなっています。次いで「めぐまれた自然を守り続けるまち」が 77.5%、「公害がなく、快適に暮らせるまち」が 67.1%で続いています。

(MA) N=462



(性別×問10) クロス集計

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて、「環境について学ぶ機会がたくさんあるまち」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=462	男性 N=255	女性 N=198
めぐまれた自然を守り続けるまち	77.5	80.0	75.8
豊かな自然をいかし、 都会との交流が進むまち	52.6	51.8	54.5
海と島と緑の美しい自然を 守り続けるまち	79.0	78.8	81.3
ごみを減らして、 リサイクルが進んだまち	63.2	62.0	65.7
地球を守るための活動に、 熱心に取り組むまち	46.1	49.0	41.9
公害がなく、快適に暮らせるまち	67.1	67.8	67.7
わたしたち一人一人が 自然を守ることに取り組むまち	57.4	58.0	57.6
環境について学ぶ機会が たくさんあるまち	41.8	47.1	35.4
多様な生きものがいて、 自然とふれあえるまち	65.2	64.7	66.7
環境を守る仕事ができるまち	46.1	49.8	41.9
その他	5.4	6.3	4.0
無回答	1.9	2.0	1.0

(学年別×問10) クロス集計

学年別でみると、『小学6年生』は他の学年に比べて、「めぐまれた自然を守り続けるまち」「海と島と緑の美しい自然を守り続けるまち」「ごみを減らして、リサイクルが進んだまち」「地球を守るための活動に、熱心に取り組むまち」「公害がなく、快適に暮らせるまち」「わたしたち一人一人が自然を守ることに取り組むまち」の割合が高くなっています。

『中学1年生』は「環境について学ぶ機会がたくさんあるまち」の割合が高くなっています。

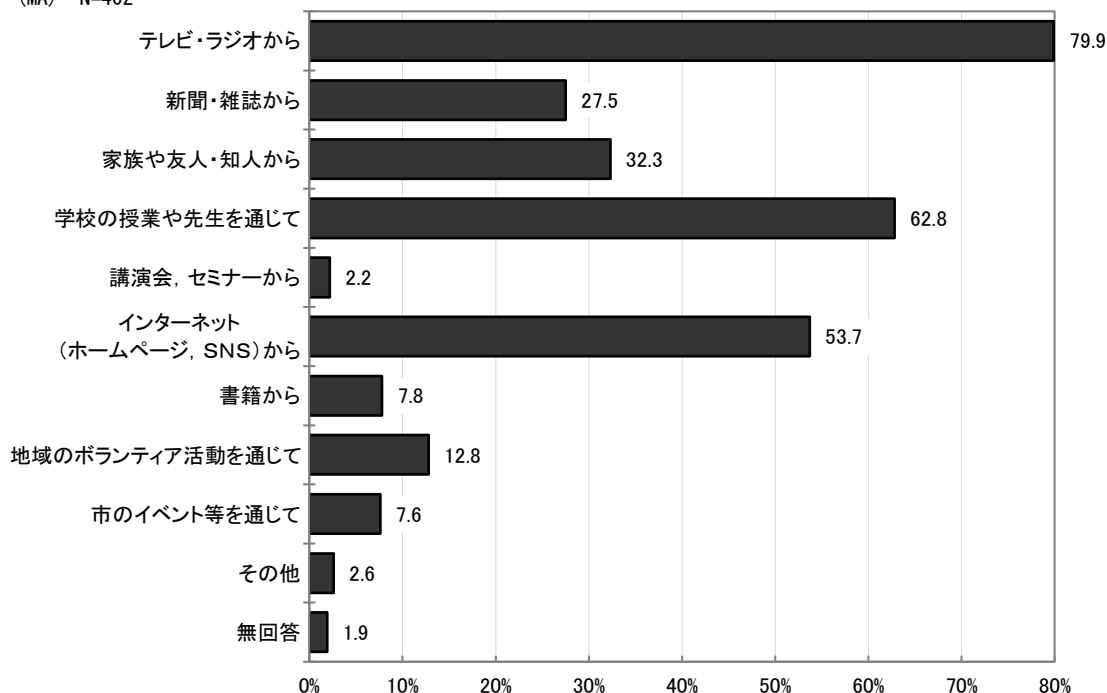
『中学2年生』は「豊かな自然をいかし、都会との交流が進むまち」「海と島と緑の美しい自然を守り続けるまち」「多様な生きものがいて、自然とふれあえるまち」「環境を守る仕事ができるまち」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=462	小学6年 生 N=126	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=108	中学3年 生 N=121
めぐまれた自然を守り続けるまち	77.5	82.5	78.8	82.4	67.8
豊かな自然をいかし、 都会との交流が進むまち	52.6	51.6	56.6	59.3	46.3
海と島と緑の美しい自然を 守り続けるまち	79.0	85.7	76.8	84.3	71.1
ごみを減らして、 リサイクルが進んだまち	63.2	72.2	63.6	65.7	52.1
地球を守るための活動に、 熱心に取り組むまち	46.1	55.6	47.5	44.4	38.0
公害がなく、快適に暮らせるまち	67.1	74.6	68.7	65.7	59.5
わたしたち一人一人が 自然を守ることに取り組むまち	57.4	63.5	57.6	60.2	48.8
環境について学ぶ機会が たくさんあるまち	41.8	41.3	52.5	45.4	31.4
多様な生きものがいて、 自然とふれあえるまち	65.2	69.8	64.6	72.2	54.5
環境を守る仕事ができるまち	46.1	50.0	50.5	53.7	33.1
その他	5.4	3.2	7.1	4.6	6.6
無回答	1.9	2.4	1.0	1.9	1.7

問11 環境問題に関する情報を、あなたはどこから得ていますか。次の中から選んでください。(MA)

「テレビ・ラジオから」が 79.9%で最も高くなっています。次いで「学校の授業や先生を通じて」が62.8%、「インターネット(ホームページ, SNS)から」が53.7%が続いています。

(MA) N=462



(性別×問11) クロス集計

性別でみると、『女性』は『男性』に比べて、「学校の授業や先生を通じて」の割合が高くなっています。

	性別		
	全体 N=462	男性 N=255	女性 N=198
テレビ・ラジオから	79.9	78.4	83.3
新聞・雑誌から	27.5	25.9	28.8
家族や友人・知人から	32.3	29.8	34.3
学校の授業や先生を通じて	62.8	56.1	72.2
講演会, セミナーから	2.2	1.2	2.5
インターネット (ホームページ, SNS)から	53.7	51.8	57.1
書籍から	7.8	7.1	8.1
地域のボランティア活動を通じて	12.8	11.0	14.6
市のイベント等を通じて	7.6	5.9	9.1
その他	2.6	2.0	2.5
無回答	1.9	2.0	1.0

(学年別×問11) クロス集計

学年別でみると、『中学1年生』は他の学年に比べて、「家族や友人・知人から」「地域のボランティア活動を通じて」の割合が高くなっています。

『中学2年生』は「インターネット(ホームページ, SNS)から」「新聞・雑誌から」の割合が高くなっています。

	学年区分				
	全体 N=462	小学6年 生 N=126	中学1年 生 N=99	中学2年 生 N=108	中学3年 生 N=121
テレビ・ラジオから	79.9	81.0	76.8	83.3	78.5
新聞・雑誌から	27.5	27.0	24.2	33.3	23.1
家族や友人・知人から	32.3	35.7	39.4	29.6	23.1
学校の授業や先生を通じて	62.8	57.1	67.7	60.2	66.9
講演会, セミナーから	2.2	1.6	5.1	0.9	1.7
インターネット (ホームページ, SNS)から	53.7	42.1	52.5	69.4	54.5
書籍から	7.8	7.1	5.1	7.4	11.6
地域のボランティア活動を通じて	12.8	11.9	20.2	11.1	9.9
市のイベント等を通じて	7.6	10.3	10.1	5.6	5.0
その他	2.6	4.0	2.0	2.8	0.8
無回答	1.9	1.6	1.0	1.9	2.5